

樹影 (比良)

中川 光郎

## 世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて32年目

—実績と体験に基づいた旅作り—  
「一人では行けない、でも、行きたい」  
アルパインツアーがお応えいたします。

南海の4,000m峰とビーチ・リゾート

マレーシア最高峰

Mt.キナバル登頂 6日間

旅行代金 ¥154,000~¥204,000

出発日 1/2, 31, 2/27, 3/27, 4/24

①(開空)→②(市内観光)→③(山小屋)④(山)⑤(自由行動)⑥(開空)

ミルフォード・トラックと

マウントクック11日間 <開空発着>

出発日 ●1/6 ●1/30 ●2/9 ●2/20 ●3/3  
¥520,000~¥556,000

エベレスト展望トレッキングと

シェルパの里9日間 <開空発着>

出発日 ●12/28 ●2/19 ●3/15 ●3/22  
¥288,000~¥338,000

ランタン・ヘリ・トレッキング 9日間

<開空発着>

出発日 ●12/28 ●2/26 ●3/15 ●3/22  
¥338,000~¥388,000

アーズロック登頂とブルマウンテン 7日間

出発日 ●1/9 ●3/6 ¥368,000~¥378,000

マカア・マカア ハワイの4000m峰 6日間

出発日 ●1/11 ●2/8 ¥268,000~¥275,000

横断山脈ニヤウカ 湯けむり紀行 6日間

出発日 ●1/10 ●2/21 ●3/21 ¥276,000

ルートバーン・トラックと

マウントクック10日間 <開空発着>

出発日 ●1/12 ●2/18 ●3/2 ●3/18  
¥498,000~¥532,000

アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマ

トレッキング9日間 <開空発着>

出発日 ●12/28 ●2/5 ●3/15 ●3/22  
¥282,000~¥332,000

キリマンジャロ登頂とサファリ11日間

<成田発・開空着>

出発日 ●1/13 ●2/10 ●2/24 ¥458,000

海外トレッキング<特設説明会>

◆ホー・ル・ヒマヤ・トレッキング 説明会 <1/30>

◆ニュー・ランド・トレッキング 説明会 <1/24>

会場: 大阪科学技術センター  入場無料

時間: 18:30~20:30

(地下鉄四つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

ネパール・ヒマラヤ・トレッキング (3月11日便運行) 3/15/3/22発 9日間 開空発着

**出張説明会** 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業430号 / (社)日本旅行業協会正会員

**アルパインツアーサービス株式会社**

大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区新町1-10-22 (新町4丁目4番)

TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032

広島支店 / 〒730-0001 広島市中区本町1-1-1 (広島支店転送) TEL: 082-542-1660

ご請求下さい!

アルパインツアー、総合  
ツアーカタログ。  
「世界の山旅・辺境の旅」  
冬〜春号、海外・国内の  
ハイキング・トレッキ  
登山コース満載!



冬の花火（若草山山焼）

陽が昇るちょっと前の時間が好き  
空がだんだんと明るさを増す  
影が夜明けを告げる  
さあ新たな日に旅立とう  
聖なる光の中で  
何かを教えてくれる 一群の水鳥  
汀に立つと 羽音が聞こえる  
風は揺れ 水は光る  
子どもの歌声のように鳥が鳴いた  
思い出が心に焼き付いていく  
花火が燃え尽きたその時に  
うれしさや悲しさを全部まとめて  
見ている人の心に焼き付いた  
朝がすばらしいスピードで近づく  
暗くて長くて寂しい夜が終わる



日の出（水上池）

Photo essay

# 早春光

題字 中田 蘭 石  
撮影 由井 収  
文 松 永 恵 一



早朝の水鳥（水上池）



鷲鳴の滝 (信楽町)



南天

# 季節の実景

新春

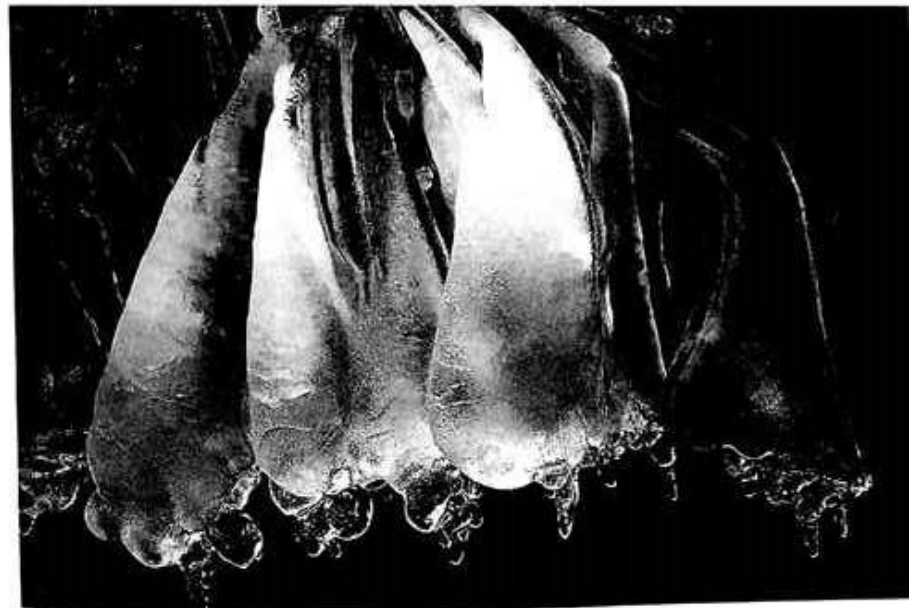
撮影 武市通治



福寿草 (西吉野村)



永谷宗園 (宇治田原町)



ツララ (信楽町)



ガス晴れる（上高地）

吉沢 栄一



浅菜山から遠く比叡山（比良）

金谷 昭

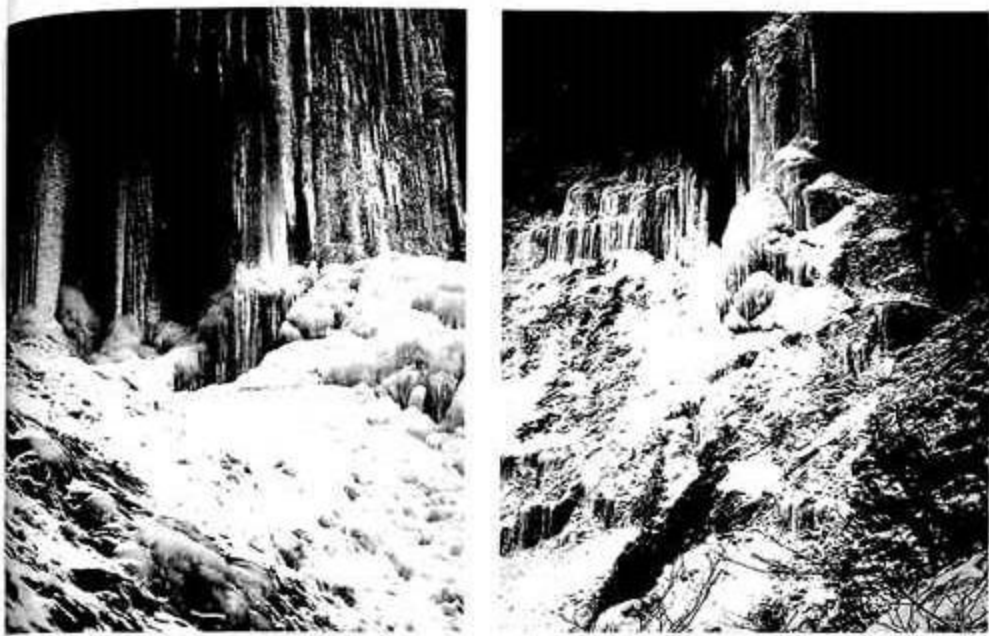


霧氷のブナ林（金剛山）

三浦 弘幸

# 滝結氷 三題 神童子谷源流にて (大峰)

奥田 英一郎



テブリ

ジョレンの滝



氷柱

## 別冊 関西の山 新伴ダ

02年1・2月 新春 第82号

## ●目次

表紙: 松田敏男「茅ヶ岳の夜明け」(山梨)

●作編プロフィール ●1949年、京都生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳研習、山岳部の指導多数開催。(京都平安南道、南アルプス仙水小堂、東京キャリアー10号、他) 京阪山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

沿線ハイキングガイド サービスチェーン せせらぎ	83 83 81	新ハイキング関西(比良山系) 編纂後記・広告案内	112 110 89
<b>ガイド</b>			
① 山崎山(湖西)	長宗 清司	78	74
② 小峠山(大峰)	金谷 昭	76	72
③ 総門山と三峯山(南勢)	山形 歳之	76	74
④ 清水ノ頭を越えて雨乞岳へ(鈴鹿)	藤部 純	78	74
<b>記事</b>			
● 旗振り通信の研究 ⑥ 京都府南部・和歌山・江戸ルート 1等三角点峰(500以上)548座完全登の記録(第29回) 平成五年の北海道の山旅 善提滝・沢山から鷹峯(京都北山) ● 文学歴史探訪ハイイク ⑧ チン電にゆられて住吉大社へ ● 山のレポート ⑩ 十二支の山・午年の山 ● 山のレポート ⑪ 山中越の石仏群 ● 山のレポート ⑫ 山中越の石仏群	柴田 昭彦 久光 中村 敏文 松永 恵一 生駒 登峰 編本 逸雄 西尾 寿一	42 56 59 62 66 68 70	42 56 59 62 66 68 70
<b>紀行</b>			
● グラビア (口絵) 早春光 季節の美景(新春)「福寿草」他 中川光郎 三浦弘幸 吉沢栄一 金谷 昭 奥田英一郎 随想(山のエッセイ) 歌社の「大江山」 「土倉岳・三重嶽」山名考 冬のおオールの果し回想の釜ノ窟尾根 旧高野参詣道(黒河日) (金野) 荒島岳(大野富士) (越前) 高見山(合巻) 運載 標高による山の紹介シリーズ 2 △△62頁の山 火打山・新谷山・鉢伏山・ベンケイ 塩見岳・間ノ岳・北岳(後編) (南アルプス) 三國峠から杉尾峠(京都北山) 美濃俣丸・大河内山・ロボット(奥美濃) 運載 三角点を訪ねて ⑫ 大和葛城山から竹内峠へ(大和葛城)	網本 逸雄 柴田 昭彦 奥田英一郎 長坂 文男 北川 浩 木村 太郎 松田 敏男 松田 敏男 松田 敏男 石 義人 藤部 純	15 12 10 4 2 52 39 36 32 30 26 22 18 15 12 10	4 2 52 39 36 32 30 26 22 18 15 12 10

## 巻頭言

本年も「新ハイキング関西の山」をよろしくお願い申し上げます。  
 昨年の11月初旬、関西版発行10周年を記念して、マレーシアのボルネオ島にそびえる東南アジア最高峰キナバル山(4095.2m)へ登ってきました。山行の一日目は登山ゲート(1554m)から歩き始め、およそ七合目のランラタレストハウス(3352m)まで。約30分毎にあるシュルター(休憩所)で休み、楽に登れました。  
 二日目はランラタレストハウスを夜中の2時30分に出発し、山頂のロウズピークを指したのですが、これが何とも大変。1時間はばかり樹林帯のハンゴが続く急登をこなした後、いよいよ岩盤の上を歩くことになりました。サヤッサヤ小屋を過ぎて標高4000m付近になると、10分も歩けばもう息苦しくて前に進みません。まるで夢遊病のように身体が宙に浮いている感じで、ヨロヨロしながら6時にやっと登頂できました。  
 空気が薄いなかを歩くのは、これほどまでにつらいことかと思惑りました。でも、みなさんは早く私はピリのほうでした。腹が空いていたのだらうと思える人もありました。  
 新ハイキング関西(代志)村田 哲俊



克



克

### 随想 (山のエッセイ)

### 歌枕の「大江山」

綱本 逸雄

「百人一首」に、「大江山いくの、道の遠ければまだふみもみず天の橋立」(小式部内侍)という歌がある。

現代語訳は、「大江山を越え、生野を通って行く道が遠いので、まだ名勝の天の橋立を踏んでみたこともなく、丹後の国府に下っている母からの文も見ていません」という意である。「いくの」を丹波国天田郡(現福知山市)「生野」と「行く」を、「ふみ」は「踏み」と「文」を掛けている。小式部内侍は平安中期の歌人・和泉式部の娘。丹後守として丹後国国府に下向した夫の藤原保昌に随伴し、母が都を留守にしている時の歌である。

出典は『金葉集』(巻九、雑部上)で、詞書に「和泉式部が保

昌に具して丹後にいる頃、都で歌合わせがあり小式部内侍も歌人に選ばれたが、藤原定頼がやって来て、歌は如何なされたか、丹後の母に知恵を借りて人を遣わしたのか、まだ使いは返ってこないか、心が落ち着かないことだと、擲論して立ち去りかけたので、引き留めて詠んだ」とあり、即興的機知のきいた一首である。権中納言定頼は同じ「百人一首」の「朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに……」で知られる歌人でもある。

小式部内侍の当意即妙の才気に満ちた歌と詞書は歌学書『袋草紙』(1156年頃)・説話集『十訓抄』(1225年)・説話集『古今著聞集』(1254年)で唱伝され、「百人一首」の選者・藤原定家も「時のおぼへ(世間の評判)こそ(『題註密勘』)と高く評価している。

この歌枕の「大江山」の所在については従来、丹後国・丹波

国境の大江山説と、山城国・丹波国境の大枝山(老ノ坂)説とがある。前者は与謝郡加悦町・加佐郡大江町と福知山市との境、最高峰が千丈ヶ嶽(833m)である。

後者の大枝山は、大江山とも書かれる。大枝の村は承平年間(931-938)にできた『和名類聚抄』ではすでに大江郷と記されている。当地の氏族、大枝朝臣が大江朝臣に変わったのは貞観八年(866)10月であった(『日本三代実録』)。その理由に大枝朝臣音入らが、枝が幹より大きくなると根幹が損なわれる、子孫が栄えて祖統が断たれるのはよくないと奏言し、大枝朝臣から大江朝臣と改めることが認められた、というのである。

大枝山(老ノ坂)は奈良・平安時代から交通の要所で、丹波国への古山陰道である。「山城

名勝志」に「大江山越ハ丹波国亀山(亀岡)路ニシテ山城国七道一也此山ニ登ル坂路アリ大江ノ坂ト云」とあり、また「山州名勝志」にも「大枝山、或いは大江と作る。大枝坂、或いは老と作る」とある。大枝を大井といったことは古く『日本後紀』にみえ、老はその転訛である。現在大枝山(480m)が老ノ坂南方にあるが、古歌や説話では大江山(大枝山)といえは老ノ坂を指すことと、国文学の世界で通っている。

さて、『日本国語大辞典』は「大江山」の項で「①(大枝山とも)右京区(現西京区、以下同じ)と亀岡市の境にある老坂峠の古名の福知山市の北端にある山。千丈ヶ嶽。『大江やまいくの……』と紹介し、歌枕の所在地を丹後・丹波境に採る。幕末の太田南畝(蜀山人)『狂歌百人一首』も同説。『コンサイス日本山名辞典』(三省堂)は「大江山(大

枝山、千丈ヶ嶽)。加悦町、大江町、福知山市との境」と大江山と大枝山の混同があるが、同じ項で「大江山生野の道……」の歌は「小倉百人一首」の中で最もよく知られた歌の一つ」と述べている。「コンサイス地名辞典日本編」(三省堂)も、「大江山」丹波と丹後の国境をなす山」で小式部内侍の歌を記載など。

『京都府の地名』(平凡社)も丹波・丹後境の「大江山」の項でこの歌を載せる。もっとも「京都市の地名」(同)の「大枝山」でも載せているので両論併記である。大岡信等監修『日本文学史蹟大辞典』(地名解説編)『(彦子館)は両所在の山を紹介し、まとめて「詩歌、小式部内侍・金葉和歌集」と記すので、考証がなくいずれか決めたい。

一方、山城・丹波境説では、『百人一首』(鳥津忠天訳注、角川文庫)は「丹波国桑田郡にある

山。大江坂ともいう。『丹波路のいり口也』(拾穂抄)。丹後の大江山でない。日田基五郎・新聞進一校注・訳『日本古典文学全集』(小学館)の『梁塵秘抄』(院政期)に同歌が収められているが、「右京区大枝町の北西の山。山城と丹波の国境」とする。峯村文人著「百人一首」(筑摩書房)も「大江山は京都市右京区大枝にある山」という。村井康彦編『京都・大枝の歴史と文化』(思文閣出版)は「歌枕の大枝」の項で「金葉集」の歌を紹介し、「丹後に下った母のことを尋ねられ、これを丹後の大江山とみる向きもあるが、京にいる作者の思いが、大江山を過ぎて生野、そして天の橋立へとめぐらされていることを考えれば、これは間違いない大枝のこととみられよう」とする。江戸後期の国語辞書『和訓栞』は「大はえ山いく野とよめるハ山丹の界にして、今於いの坂といふ。國大



随想 (山のエッセイ)

克

の土倉岳と三重嶽を取り上げてみよう。  
御池岳の南方にある「土倉岳」は、一般に「つちくらだけ」と呼ばれている。しかし、西尾寿一「鈴鹿の山と谷2」(ナカニシヤ出版、昭和63年)の114頁には、説明抜きで「はせくら」のルビがあり、近藤郁夫「御池岳 春夏秋冬 やぶこぎ讃歌——霧物語」(1996年、私家版)の135頁で、疑問が呈されているため、筆者も気になっていた。同じようなひっかけを持つ人も多いらしく、本誌49号でも、「土倉岳」という名前が正しいのか土倉岳と言うべきなのかは分からない」とある。「はせ」に対して、ここで「土」を用いているが、西尾氏は明確に、「土倉岳」「土倉谷」と記している。

西尾氏にお尋ねしたところ、「小生の若いころ、この付近の人々、及び仲間(山の関係者)で、後国與謝・加佐ノ二郡二跨ル」に於伊山に作れり」などなどである。  
ところで、「古代—中世前半における大江山は、丹波・山城境の大枝山を指し、同じころ千丈ヶ嶽(丹波大江山)は与謝の大山と呼ばれていた」と歴史学者の高橋昌明氏は指摘する(『日本史大事典』平凡社)。  
これに関して吉田東伍著「大日本地名辞典」は「普甲山(千丈ヶ嶽、大山、大江山) 一名與謝大山といへり、其一峰千丈嶽は最高峰」とし、その例として、和泉式部が夫保昌が都へ上って久しく帰ってこないので詠んだ歌「待人は行とまりけりあぢきなく年のみこゆる與佐の大山(夫木集)」などをあげる。高頭式著「日本山嶽志」は「千丈嶽(別称千重峰、大山、大江山)丹後国加佐・與謝ノ二郡丹波国天田郡二跨ル」「普甲山(別称北山嶽、千重嶽、大山、與謝大山)丹

はハゼクラが主流で一部でツチクラが使われていて、文献等の出典によるものではありません。時代とともに現在ではほとんどツチクラという率直な漢字読みが主になっています」とのことであった。  
筆者は、西尾氏の「出典」という言葉が気になり、角川日本地名大辞典の永源寺町の小字地名を調べてみたところ、土倉には「ツチクラ」というルビになっていることがわかった。この小字資料は明治15年ごろのものであるから、当時、すでに公式には「つちくら」であったことがわかる。とすれば、ハゼクラとは江戸期ごろの呼称であろうか。西尾氏は「名の由来は「土倉谷」によるのだと思われるが、このあたりも鈴鹿の奥いがしてならない(鈴鹿の山と谷2、114頁)と記す。兵庫県香寺町に土師の地名があり、土師器を焼いた所だと思われる(落合通信「ひょう



克

り」に読み込まれている。  
加えて、平安末期の天台座主で歌人の慈円が「大江山傾く月の影さえて鳥羽田のおもに落つる雁がね」(『新古今集』)と詠んでいるが、やはり老ノ坂から鳥羽あたりを眺めた情景である。丹波境の大江山からはとても鳥羽は眺められない。つまり、当時は、大江山といえは都の近くの大枝山を指したのである。  
(なお、酒吞童子伝説について、大江山・大枝山の両説があるが省略する)

「土倉岳・三重嶽」  
山名考  
柴田 昭彦  
世代交代が進むなかで古くからの地名・山名が忘れられ、特殊な読み方をやめて、漢字を素直に読む傾向が進行しつつある。そういう山名の中から、滋賀県

ご地名考」後藤書店、昭和58年)ので、ハジとハゼは関連があるかもしれない。今となっては、ハゼクラは永遠の謎である。  
明治期の地形図作成の測量官は、地名調査にかなり時間をさいたが、奥地の山名の同定には困難が伴うことも多かったようである。  
滋賀県今津町の北部に三重嶽があるが、この山名にも疑問点が多い。この山名が初めて見えるのは、2万分の1地形図「十村」(明治26年測図、28年製版・発行)で「三重ヶ嶽」と記載されている。5万分の1地形図「熊川」(明治26年測図、33年製版、34年発行)では「三重ヶ嶽」になっている。  
ところが、2万5千分の1地形図「熊川」(大正9年測図、13年製版・発行)には「三重嶽」とあり、昭和46年改測で「三重岳」、昭和54年修正で再び「三重嶽」



克



克

随想 (山のエッセイ)

むことが不思議であるが、「山上」であれば、納得できるのである。

現在では、「三重嶽」の命名の由来は失われている。大字梅原(栗谷山)・大字日置前(河内山)・天増川流域の境界に位置しており、三つの地域が重なる意味から、日置前方面(河内山財産区)では、「三重嶽」と呼ばれたのであろうとか、北尾根(大御影山に続く)・南西尾根(武奈ヶ岳とつなぐ「ふと尾」・南東尾根(河内谷と間の谷を分ける「登り尾」または「つり尾」)の三つの稜線が交わることからだろうといった考え方もあるが、河内山財産区からは江戸時代の絵図等が発見されていないので、実証することができない(今津町教育委員会の森脇氏の指示による)とのことである。

『近江百山』には「三つのピークを持った山」の意味だと紹介しており、一つの解釈として興

に戻ったが、昭和61年修正(昭和62年発行)からは、ふりがなが省略されて「三重嶽」と記されている。

今津町の地名調査には「さんじょがだけ」とある(国土地理院近畿地方測量部による)が、今津町教育委員会生涯学習課、町史編さん係の森脇氏によると「現在は『サンジウガダケ』が一般的な呼び方のようです」「日置前伊井の古老の一人は、かつて『サンジヤガダケ』と呼んでいましたが、本当のところは解りません」とのことであった。

筆者が実施した文献調査によると、漢字表記に「三重嶽」「三重岳」「三重ヶ嶽」「三重ガ岳」がある。読み方は「三重」に対して、「さんじょう」が圧倒的に多いが、「さんじょ」は地名調査に用いられ、「さんじゅう」は「標準地名集(自然地名)」や地名総覧、各社地図帳に散見

する。「さんじょう」(草川魯三『近江の山』や「みえ」(近江百山)「角川集落での呼び名という)は変わった読み方に属する。「岳(嶽)」は「たけ」か「だけ」であり、三重嶽と表記していても、三重ヶ嶽と同じ様に「が」をつけて読む場合とつけない場合がある。

『今津町史第一巻近世』(平成11年)には、文化13年(1816)作成の「荒谷山論所分間絵図」(荒谷山財産区保管)が掲載されており、当時、三重嶽に相当する山には「間の嶽」とあり、横に別名なのか小さく「板笠山」ともある。西の八王子谷と東の河内谷の間に「間の谷」があり、その谷川の源頭部にあるのが「間の嶽」である。「山上嶽」も記載されていて、湖北武奈ヶ岳(武神嶽とある)の北にある815・4坪の独標に該当するが、山体としては湖北武奈ヶ岳の一部に相当する立地である。

ここで、思い当たるのは、三重嶽の三角点の点標名が「山上ヶ岳」になっていることである。点標名は正確な山名とは限らず、近くの地名で代用されることも多い。明治期の測量官は、この付近では、「間の嶽」の山名を聞き漏らし、「山上ヶ嶽」だけを聞き及んだのであろうか。今日、「間の嶽」の山名は死語になっている。なお、『近江百山』では、間の谷は「合田谷」と記され、その西の八王子谷は「一の谷」とある。山論絵図に現れる地名で、関係があると思われるのは、「間の嶽」の南方にある「三重滝」の存在である。この滝は、八王子谷の支流の「いふいわ谷」にある。明治期の測量官は、「間の嶽」「山上ヶ嶽」「三重滝」を混同したのだろうか。ダケとダキは発音が似ており、山上と三重も同様である。そもそも、「三重」を「さんじょう」と読

味深いのが、裏付けは不明である。地形図で山頂付近のピークを調べてみると、三つというよりも、四つといえるような配置である。見る方向にもよるのだろうが、どの山にも複数のピークは存在しているものであるから、あえて「三重」と称する理由とも考えにくい。

サンジウガダケもまた、ハゼクラ岳と同様に、永遠の謎と言えそうである。

冬のオオルリの巣  
— 回想の笹ノ窟尾根 —

奥田 英一郎

白い雪道を歩くのは久しぶりだった。昨夜のうちに積もった新雪は15センチくらいだろうか。柔らかない粉雪の感触が何ともいえず優しい。ワカンが要するほどでもない。それにアイゼンを使う

ほど凍てでもない。地面を直接踏みしめる硬さとは違って、あるかなきかの抵抗—それは抵抗というには当たらないような感触—を軽やかに踏みしめて歩く雪道である。

大峰山中で、好きな道をあげるならいくつか思いつくが、この和佐又山から笹の窟への道は、四季を通じて好ましい道である。なかでも初夏の深い霧の立ち込める頃、樹も道もしっとり濡れて、浅緑の樹林のなかにレンゲツツジなどがオレンジの明りを灯しているようなのがよい。ブナの葉が夏の陽に映える道。紅葉・黄葉が歩いてる人の顔まで赤く染める道などいずれもよい。

だが、今、こうして優しい雪を踏みしめながら歩く気分も捨て難い気がする。風はほとんど感じられない。空気は冷たくて耳たぶや鼻先は少し痛いくらいである。雪の装いの難木がき





随想 (山のエッセイ)

克

から、もちろん主のいない空果  
 のだが、それがすぐオオルリ  
 の巣だとわかる日に感心しなが  
 ら、乾いた舌で出来たような野  
 鳥の巣を上げしげと見入った。

あれはいつの夏だったろうか。  
 やはりHと2人で和佐又の大ト  
 手の木の白い花の下にテントを  
 張って、大管賢岳に登ったこと  
 がある。新緑の美しい季節だっ  
 た。水太谷に沿って歩いている  
 時、ライトグリーンに彩られた  
 大きなキャンパスの中を、ピッ、  
 ジジッ、という鳴声がして、  
 ふいにりり色のつぶてが線を引  
 くように横切った。「オオルリ  
 ですネ」とつぶやいたHはすば  
 やく双眼鏡を取り出して、飛び  
 去った行方を探し始めた。

やがて、ニンマリと微笑んだ  
 Hは「あそこにいます」と指差  
 しながら双眼鏡を差し出した。  
 教えられたあたりの樹の繁みを、  
 しばらく見つめたのだが、それ

らしいものは見えなかった。H  
 はすぐに、それを察して「見え  
 ませんか？」と言うと、また、  
 双眼鏡を取り上げ、自分で再び  
 確かめたあと、双眼鏡を寄こし  
 てくれた。

改らためて、ていねいに居場  
 所を教えられ、今度こそはと期  
 待を込めて、僕は目を凝らして  
 るり色の姿を探したのである。  
 「見えたでしょう！」と言われ  
 て、「ウウン！」と返事をしな  
 がら、すぐには双眼鏡を目から  
 離さなかった。オオルリが飛ん  
 で行った谷深いあたりの新緑の  
 樹林が、なんとも美しくしては  
 らく見入っていたのだ。

あの時、実はオオルリを見つ  
 けられなかったのである。

今、冬の窟の天井の野鳥の巣  
 がオオルリの巣だと聞かされて、  
 主のいない寝ぐらを見上げなが  
 ら、あの初夏の山行のことを思  
 い出したのである。巣の主は今

は暖かい国のどこかで、濃いろ  
 り色の羽を大きくはばたかせな  
 がら、広い天空を飛翔している  
 に違いない。そして、この夏に  
 はまた、大峰の溪谷に帰ってき  
 て、ホイ ヒービビ ヒーリー  
 リー ジジッ、と何とも言えな  
 い爽やかな鳴き声を聞かせてく  
 れるのだろう。

そんなことを思いながら歩い  
 ていると、なんだか胸の中が温  
 くもってくるような気がしてき  
 て、この冷たい雪道が楽しく思  
 えてくるのだった。

雪がまたひとしきり激しくなっ  
 てきたようである。



克

れいである。雪を凍てつかせな  
 がらも、濃緑の斑紋をしつかり  
 描いているブナ。白と茶褐色の  
 幹の肌を鮮やかに分けているヒ  
 メシヤラの幹など、冬の厳しさ  
 のなかにじっと耐えている姿が  
 たくましい。

この雪道を幾度歩いたことだ  
 ろう。古い小舎のだるまストー  
 プに太い薪をくべながら夜更け  
 まで熱っぽく、政治や教育につ  
 いて論じ合ったこと。積雪が多  
 くて小菅賢岳のトラバースがで  
 きなくて、直登して小さな頂を  
 越えたこと。昼までに山頂に着  
 けなくて、直下の雪だまりで、  
 遅い朝食にブタ汁をつくったこ  
 となどなど……。

当時、独身だったSもMも今  
 はそれぞれ2人の子の親となっ  
 ている。今はもう消息も聞かれ  
 なくなつた女性たちも、どこか  
 でいいお母さんになっているの  
 だろう。

思い出をたぐると、花の季節

にがむしやらになって写真を撮つ  
 た頃も懐かしい。石の鼻付近の  
 鮮やかなピンクのシャクナゲは、  
 5月の陽光を浴びながら何かつ  
 ぶやいているようであった。ミ  
 ルク色に立ち込める深い霧のな  
 かに、うっすらと淡い香りを漂  
 わせていたオオヤマレンゲはど  
 こか気品あるたたくまいであつ  
 た。

気がつくと粉雪がちらちらと  
 舞っている。音のない白い世界  
 をHと2人で歩くのも久しぶり  
 である。時々、枝から落ちてく  
 る雪がバツと白い粉を舞い散ら  
 せている。それが運悪く首筋に  
 入って、その冷たさに思わず首  
 をすくめる。ゆるやかな登りを  
 黙ってひたすら足を運ばせる。  
 大勢で歩く山もそれなりに楽し  
 いが、こんな静かな山を歩くの  
 には、1人か2人がちょうどよ  
 い。先行者もないから、もち  
 ろんトレースもない。このぶん

だと、頂上近くは深い雪になる  
 だろう。

やがて道は北から西へぐるっ  
 と廻り込むようになる。日本岳  
 直下のトラバース道である。左  
 の谷は天ヶ瀬川上流の水太谷。  
 灰色の空の遙かかなたは大峰の  
 主稜なのだが、稜線は全く見え  
 ない。気温がかなり低いのか、  
 鉄バシゴの手すりを握った手袋  
 を離すのに、凍てついてビシビ  
 シと音がする。

小さな山のハナ（支稜からの  
 びている出張り）をぐるっと廻り  
 込むと、ポッカーリと口を開けた  
 ような露岩の窟の前に出た。そ  
 こだけ雪がなくて、黒々とした  
 岩の上を仰ぐと高い崖だった。  
 先を行くHが、立ち止まって窟  
 の天井をジッと見上げた。同じ  
 ように僕もHの見つめる天井を  
 見上げると、一見してそれとわ  
 かる鳥の巣が目にとまった。  
 「オオルリの巣ですネ」とすか  
 さずHが言った。夏の渡り鳥だ

五つの峠を越える

# 旧高野参詣道(黒河口)

高野

長坂文男

野山ケーブルの開通、昭和9年の橋本市から高野山までの玉川林道(現国道371号線)の開通等、各種交通機関の発達により徒歩で参詣する人は少なくなり、各参詣道は衰退した。

黒河口は『紀伊国名所図会第三編』(天保九年(1838))に「黒河口(あるいは大和口ともいふ。千手院谷にあり。女人堂より黒河村まで五十余町、野平村まで百二十余町、橋本辺よりの近道なり)。この道当山良方の入口にて、黒河村より来ると野平村より来ると、粉撞峠にて二路合わして、千手院谷に入る」とある通り、橋本付近から高野山奥の院への近道であるが、五つの峠を越えるハードな道であり、道

高野山の歴史は、弘仁七年(816)に空海(弘法大師)が、高野山の地を嵯峨天皇から賜り、真言密教の道場として開いたのに始まる。天正九年(1581)の織田信長の高野山攻め、天正十三年(1586)の豊臣秀吉による寺領の没収や武装解除を始め、数々の存亡の危機を乗り越えて今日まで連続と続く真言宗の霊地である。

高野山に至る参詣道は古くから開かれていたが、江戸時代、登山七路(七口)と呼ばれる七本の参詣道が整備された。

以来、昭和初期まで徒歩による高野山参詣が長く続いたが、昭和4年の現南海高野線の極楽橋までの延長、翌5年の高

紀ノ川に架かる立派な橋本橋を渡って右へ100ほど行くと、左へ国道371号線が分かれる。南海高野線の踏切を渡ってすぐ国道を離れ、右へ賢堂の集落のなかをゆるやかに登り、T字路を右へ行く。150ほど先の十字路を左にとると、高野山真言宗定福寺がある。

石段の左に古い石造層塔がある。鎌倉時代中期、弘仁八年(1285)に建立された九重塔(現在一重だけ八重塔)で、橋本市指定文化財である。

定福寺の先、三叉路を左にとると小さな溜池があり、その脇の電柱に「国城神社、三平神社」と書かれた道標が打ちつけてある。高野参詣道を示す道標ではなく、国城山直下の国城神社、三平神社

の登り口を示す道標であるが、途中の明神ヶ田和まで同じルートをとるので道標に従って南へ入る。

明神ヶ田和へは地形に沿って曲がりくねった舗装の車道が続くが、車に出合うことはまれである。谷を廻り込み、尾根に出ると果樹園があり(最新の2万5千地形図(平成10年部分修正)は水田になっているが誤り)、北側が開ける。右下に紀ノ川に架かる橋本橋と橋本の市街地、後方に和泉山脈と金剛山が見える。

まもなく五軒畑で、数軒の民家と果樹園(ミカン・カキ畑)が広がり、右側の平坦な尾根にNHKのテレビ中継塔も見え

る。果樹園と杉櫨の植林のなかをしぼらく



明神ヶ田和手前から紀ノ川の眺望(右和泉山脈、左雨引山)



標もほとんどないのでそのことを念頭において歩いてほしい。

2月初旬、難波駅より南海高野線の急行に乗り、50分ほどで橋本駅に着く。JRと共用の駅で南改札より出る。駅前のロータリーから南へ商店街を抜け、国道24号線に出て右へ行く。24号線は旧伊勢街道(大和街道)沿いに紀ノ川北岸を東西に貫く幹線国道である。

登ると、フェンスに囲まれた数本のテレビ中継塔が見えてくる。「橋本テレビ放送局」と書かれた標柱が立っており、フェンスの数が先、ミカン畑のなかに4等三角点(点名野尾・376・1)がある。

すぐ先道路の左に最近整備された墓地を見て少し歩くと、ガードレールのある所で西側が開け、すばらしい眺望が広がる。紀ノ川を挟み高野口町・九度山町の町並、北に和泉山脈、南に雨引山から小都知峰に続く尾根(弘法大師が開いた最も古い参詣道、町石道が通る尾根)が見える。しばらくして二軒の民家と一軒の廃屋がある峠、明神ヶ田和に着く。

この峠(たわ)は、文献では二通りの地名に分かれる。明神ヶ田和を探るのは『伊都郡学文路村誌(昭和11年)』、『九度山町史(昭和40年)』等で、明星ヶ田和を探るのは『紀伊統風土記(天保十年(1830))』、『関西山越の古道(中)(平成7年)』等である。私はこの峠が、西にそびえる国城山直下にある国城五社明神社(国城神社)の東に位置するたわ(峠)ということ、後日(7月)現地で聞き取り調査をして、現在明神ヶ田和と呼ばれている



戦場山麓から久保への道

ことを確認した。  
青淵へは五叉路の一番左(東)の未舗装の林道を行く。1000mほど行くと、樹林が一部切れて南側の眺望がすばらしく、これから歩く高野参詣道のルートが確認できる。青淵へくだる尾根、市平から久保へ越える標高5000mの尾根、その後方に高野山を取り巻く標高9000m、10000mの山々、右から弁天岳・雪

池山・楊柳山・古宮岳等が一望できる。20分ほどでアカマツ林が広がる「マツタケ試験地」の大きな看板のある鞍部に到る。ここで林道と分かれ、尾根の右(西)を捲く小径を行く。地形図では青淵まで軽車道(一条線)となっているが誤り。すぐに三叉路があり、青く塗られた道標のある右側を行く。橋本市と九度山町の境界尾根を越えてくたつて行くと、カキ畑のなかに民家が点在する静かな山村、青淵に出る。

ここで一人の古老に出会い、市平へくだる道と尋ねると、ていねいに教えてくれた。その古老は若い頃市平から久保を通り高野山に歩いて参詣したと話してくれた。先を急いでいたので詳しく聞けなかったが、70歳半ばと思われる年齢から考えて戦前のことだと思われる。

小さな溜池を左から廻り込むと丁字路で、左の舗装された林道青淵線をたどる。左に一軒の民家が現れた所で林道と分かれ、右へ民家の庭先に通じる道を行くが、道標がないので要注意。民家(前田氏宅)の前庭を通り抜け、母屋と物置小屋の間に簡易舗装された小径があり、谷に沿って急坂をくだると、丹生川沿いの広い県

道(省九度山麓)に出る。

県道を右へ1500mほど行くと、左に駐車場があり、その横奥に丹生川に架かる吊橋(市平橋)がある。吊橋を渡り、簡易舗装された小径を登って行くと、カキ畑のなかに六、七軒の民家が点在する市平がある。

市平からの車道を横切り、民家横のカキ畑のなかの小道を右上に登って行くと、苔むした石段がある。石段を登ると三つの小祠がある。市平の氏神をまつた神社と思われ、小祠の後ろに高さ20m以上のイチョウウの巨木一本と、シュロの木数本がある。

市平から高野参詣道は杉櫨の植林地を南西に30分ほどジグザグに急登する。山の神の小祠を見るあたりで急登は終わる。小祠を右に見て左へゆるやかに登って行くと、尾根上を通る未舗装の林道に出る。

昔は尾根を乗越し、そのまま南の美砂子谷へくだっていたようだが、現在は林道を右(西)へたどる。しばらく歩くと、左に谷にくだる道が分かれるが、休耕田のあぜが草木の繁茂で一部通れず、山腹を捲かなければならない。林道終点まで

歩き小径をくだったほうがよいだろう。

美砂子谷は棚田の続く美しい谷だが、減反政策で全て休耕田となっている。休耕田と杉櫨の植林地の境のあぜを横断し、右手の尾根に取りつく。左下に植林された休耕田を見下ろしながら尾根を登ると、戦場山の肩に出る。

戦場山山頂に3等三角点(点名河根・6500.1m)があり、往復10分ほど。残念ながら樹木のため見通しはきかない。自然林を見ながら落ち葉の敷きつめられた気持ちのいい山道とくだると、久保小学校前の車道に出る。道の左側小祠に明治14年(1881)の道標石仏がある。



黒河峠(左は神への道)

正面に観世菩薩立像と弘法大師坐像が彫られ、左側面に「左まにん 右かうや(道)」とあり、左は黒河村から土倉峠を経て摩尼谷の村々への道、右は粉撞峠を経て高

野山への道を示している。

小学校前の車道を谷に沿って東へくだると、北又川と黒河谷の合流点である。北又からの車道を横切り、黒河谷左岸の未舗装の林道に入る。冬はこのあたりから雪道となる。「紀伊統風土記」に「黒河は暗谷の義にして狭き谷の事なるへし」とある通り、曇なお薄暗い谷である。

この谷筋に昔黒河村があり、江戸時代後期には戸数十二、人口四十人を数えたが、昭和30年代に廃村となった。現在はわずかに残る石垣にその跡をとどめるのみである。

林道の橋を右岸へ渡り、1500mほど先に文政十二年(1829)の道標地藏をまつた小祠がある。微笑みを浮かべた地藏菩薩坐像の台石に「左まにん 右かうや」とある。5分ほど歩いた谷の二又で林道終点となる。

左の谷沿いの道を行く。細い流れを丸木橋で二度渡り、分岐を右へ、次の分岐を左にとり尾根に向かって登ると狭い伐採地がある。このあたりから道は不明瞭となるが、尾根をはずさずに行けば問題なく、この先の三叉路は左をとる。右は植林のための仕事道である。尾根の左の

踏み跡を急登すると熊野権現立像をまつた小祠がある。

杉櫨の植林地の尾根をジグザグに急登すると桜峠で、右へ薄暗い古宮岳の北側斜面を水平に捲いて行くと、明るく開けた黒河峠に着く。小祠に子安地藏がまつられている。

そのまま南へ谷をくだる。最初は急坂だが、次第にゆるやかな広い谷となる。細い流れに架かる丸木橋は一部破損しているので注意が必要だ。

やがて開拓地(広谷)からの林道と出合い、少しくだると広い車道に出て左をとる。冬は車道が凍っているので注意して歩きたい。

弘法大師廟の横を通り、数多くの墓塔の立ち並ぶ奥の院裏参道を南へくだると、奥の院バス停がある。

(平成13年2月4日・5月13日歩く)

### ▲コースタイム▼

橋本駅(1時間30分) 明神ヶ田和(40分) 青淵(20分) 市平(1時間40分) 久保(1時間40分) 黒河峠(40分) 奥の院バス停

△地形図▽2万5千円 橋本・高野山

## 花と残雪の百名山

# 荒島岳 (大野富士)

北川 浩

### 越前

荒島岳は福井県大野市の東南部にある。福井側から国道158号線を東方へ走り、大野市に入れば右手前方に大きく見えてくる。「大野富士」とも言うらしい。とくに雪をかぶっていると美しい山だ。

2000年の春、残雪期、一回にわたってこの山に挑んだ。初回は3月11日だった。この年は3月になって何度かドカ雪が降って、遅くまで大量の雪が残ってしまった。前日10日(金)、大野市に宿をとって登山口の勝原スキー場まで下見に出かけた。「銀嶺荘」(スキーロッジ)のマスターが道に詳しいと、リフトの人に聞いて訪ねた。マスターもその奥さんも親切にリフトの話をしてくれた。「今年

は雪が多いから膝までもくるだろうが、まあ「ジャクナゲ平」まで行ければよからう」と言う。例年ならスキー場を閉める頃なのに、今年はまだ営業しているから、尾根の取りつきまでリフトに乗れるとのことだった。

国道158号線が九頭竜峡谷に入る山坂の始まりに勝原スキー場がある。国道のすぐ右手の山腹だ。ここが荒島岳への勝原ルートの起点になる。深田百名山の「山だから登る人も多いのだからうか、駐車場もトイレも登山口の案内板も整備されていて気持ちが良い。もっともスキー場と共用だからかもしれないが。結局、この3月のときは「ジャクナゲ

ジャクナゲ平から荒島岳を望む



平」まで登って時間切れになってしまった。「ジャクナゲ平」の雪の台地で弁当を食べ、見事に見える白山連峰をスケッチした。再びワカンをはいて、ブナ林のなかをくだった。山頂までは行けなかったが、雪の山は十分に楽しかった。もう少し早出しないと荒島岳本峰までは行けないぞ、と二度目は宿を早発ちすることにした。

4月25日、さすがにスキー場には雪はなくガランとしている。人っ子一人なく、芽生え始めた新緑がゲレンデをおおっている。里の桜はもう散ったというのに、ここ勝原スキー場の桜は今が盛りだ。花見をする人もなくあたりはひっそりしている。それにしてもこの桜は実に賑や



かに咲いている。前回は尾根の取りつきまでスキーリフトで登れたが、今度は歩くしかない。雪のないスキー場のゲレンデはだだっ広くゴロ石の重なるガレ原だ。尾根の方に登山道がないものかとやぶのなかに入ってみたが、ひどい灌木の茂みがあるだけだ。途中で追いついてきた地元の人2人連れの登山者の言うには、スキー場の開発



で登山道が消えたとか。今はゲレンデが登山道になっている。リフトの終点は小さな台地になっていて、さらに板敷きのプラットホームが崖に迫り出している。雪は全くない。見晴らしのよい台地だ。足元にはスキー場ゲレンデ、さらに九頭竜の谷、その向こうは白く雪に輝く白山の峰々、左手には経ヶ岳が見える。ここから登山道に入る。前回はあれだけ大量の積雪だったのに、わずか一ヶ月間で雪は完全に消えている。それでも、見る見るうちに靴は泥だらけになってしまふ。しばらくササや雑木の七曲がり道を行く。そのうちにブナやナラの大きな立っ尾根道になる。その林床にはピンクの花をつけたイワウチワが見え始める。登るにつれてピンクの花びらは次々と数が増え、群落になった。あたり一面だ。こんなにもたくさん咲いたイワウチワを見たのは初めてだ。さらにこの中に白い花が見え出した。この花はミツバオウレンだと思いが、ブナの根元に群れをなして咲いている。たまにシヨウウジヨウバカマも咲いている。

花がなくなる頃から雪道になった。油断しているとウロに足をつっこんでしまふ。ウロを避けて先行する人の足跡が乱れている。急坂の雪道を登って「ジャクナゲ平」に着く。雪は前回よりうんと少ないのだが、台地はまだ全面雪の原だ。おでんの残りとかミカンの皮とか、雪の中に何気なく忘れられた落としものが表面に顔を出しており、残雪の台地は無残な姿をさらしている。

リフト終点で見た白山は高曇りで、もやっていたので心配していたが、徐々に晴れてきたようで、ここ「ジャクナゲ平」からは近く大きく見えている。30分ほど休んでスケッチした。これから本峰までは今回初めて歩く道だ。まずブナ林の雪のなかをいったんくた

ベストシーズン到来!!  
**ネパール・ニュージーランド**  
 &キリマンジャロ

**ロッジ泊で歩くヒマラヤ大展望フーンヒル(3194m)トレッキング 9日間**

ヒマラヤでも1、2を競う大人気コース。プライベートポーター同行の軽便なトレッキングが楽しめます。  
 出発日①3/5(火)~13(水)②3/12(火)~20(水)③4/9(火)~17(水)  
 旅行代金①②285,000円 ③272,000円

**ホテル シャンボチェパ/ラマ泊 エベレスト展望トレック 9日間**

トレッカーの憧れ、エベレスト街道を歩きます。ホテルからは世界最高峰エベレストが望めます。  
 出発日①3/9(土)~17(日)②4/9(火)~17(水) 旅行代金①305,000円 ②268,000円

**ロッジ泊で歩く世界で最も美しい谷 ランタン谷ハイトレッキング 9日間**

世界で最も美しい谷を巡り、7000m級の奇峰ランタン・リルンを見上げる絶好の展望地を訪れます。  
 期間: 3/9(土)~17(日) 旅行代金: 345,000円

**世界最高峰の展望台 カラパタールトレッキング 18日間**

ヒマラヤトレッキングの決定版。世界最高峰エベレストが隣りに迫るカラパタールの麓に登ります。  
 出発日①3/24(日)~4/10(水)②4/14(日)~5/1(水) 旅行代金①408,000円 ②418,000円

**エベレスト・ゴキョピーク登頂トレッキング 16日間**

「世界の屋根」8000m峰が4層を一望できるゴキョピークを目指す、ヒマラヤのハイライトコース。  
 出発日①3/24(日)~4/8(月)②4/20(土)~5/5(日) 旅行代金①398,000円 ②408,000円

**アンナフルナベースキャンプ(内院)トレッキング 15日間**

ベースキャンプに1泊して、新月の黄金に輝く360度遮る物の無い、アンナフルナの雄姿を思う存分堪能!  
 期間: 2002/3/27(水)~4月10(水) 旅行代金: 355,000円

**アンナフルナ・タウラギリ大展望 ジョムソン街道トレッキング 12日間**

往路は山岳フライトで一路ジョムソンへ。帰路は大展望を楽しみながらのんびりと街道を歩きます。  
 期間: 3/13(水)~24(日) 旅行代金: 358,000円

**ニュージーランド最高峰 マウントクックハイキング 6日間**

マウントクック村に2泊滞在してハイキングを堪能  
 期間: 3/13(水)~18(月) 代金243,000円

**ミルフォードトラックと マウントクックハイキング 12日間**

世界一美しい散歩道とマウントクック山麓の2大ハイキング地を心行くまで堪能していただきます  
 期間: 3/9(土)~20(水) 代金488,000円

**ルートパントラックと マウントクックハイキング 10日間**

ニュージーランド随一の景観の中を歩きます。  
 期間: 3/6(水)~15(金) 代金425,000円

**追加設定! ゆったりキリマンジャロ登頂とサファリ 12日間**

出来るだけ確実に高い登頂率を確保する為高度順応日を設けて、ゆったりとアフリカ最高峰を目指します。  
 期間: 2/16(土)~27(水) 旅行代金: 555,000円

~~~~日帰りから海外までの総合カタログがあります。ご請求下さい。(送料無料)~~~~

お問い合わせ・お申し込みは…国土交通大臣登録旅行業第1366号(社)日本旅行業協会 ボンド保証会員

**アミューストラベル(株)** ☎06-6456-3366  
 〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル7F FAX06-6456-3377

一人くたたくてくる。「もう崩れますなあ……」と会話する。最後に少し平らな所があり、そこから急登。ステップを切って登った先に頂上があった。「シャクナゲ平」からは三つに見えたピークを知らぬ間に乗り越して荒島岳(1524m)山頂に出た。

意外に広い頂上で、コンクリートの大きな建物がある。地図には送信所の記号があるが避難小屋風だ。この建物の南東部に大きく雪面が迫り出していた。ここに出てみると地元のお2人がガスコンロをたいて盛大に昼ごはん中だった。向こ



荒島岳への残雪の尾根

1時間ほど山頂にいた。陽は明るい風はまだ冷たい。フリースを着用しないと落ち着かなかった。

今回はピッケルもアイゼンもワカンも持たず、ストック一本と軽アイゼンで来た。登りはさほどでもなかったが、山頂から直降する雪面はやはり不気味だ。前にさえぎるものはなく白山があるだけ。足元のステップは雪がゆるくなっていて滑りやすい。軽アイゼンは雪ダンプがつき用をなさず、ストック一本を頼りにくだった。

「シャクナゲ平」手前のブナ林まで来

う側はさえぎるものはなく、白山がでんと構えている。心配していたもやほどこへやら、見事に白い峰だ。さらに左手に黒い地肌を少し出した経ヶ岳。白山の右手遠くに見える白い雄大な峰は御嶽山だろうか。腰を据えてスケッチした。

△コースタイム▽  
 勝原スキー場駐車場(40分)リフト終点台地(2時間)シャクナゲ平(1時間30分)荒島岳(1時間10分)シャクナゲ平(1時間30分)リフト終点台地(30分)スキー場駐車場  
 △地形図▽2万5千=荒島岳  
 (平成12年4月25日歩く)

ればあとは気分よく、登りに気づかなかったマンサクの黄の花の枝をくぐり抜けたり、再度イワウチワのピンクやミツバオウレンの白に見とれたり、楽しくくだった。リフトの終点地にはコブシかタムシバの白い花が咲き、山桜も風に吹かれていたではないか。これも登りに気づかなかった。

ゲレンデ道を三回折れ、広いスキー場をロッジ「銀嶺荘」をめがけて行く。足元にはツボスミレの群れが点々とある。「銀嶺荘」手前の山腹に大きな桜の木が三本ある。そうだ、前回はスキーヤーを避けてあの木の根元をおりたのだった。その三本の桜が満開だ。駐車場では小さな子ども連れの若夫婦が、ひっそりとパーベキューで花見をしていた。

## 『万葉集』歌枕紀行

# 高見山

歴史と伝承に包まれた山には、その山頂に歌碑が立てられている所もある。葛城二上山や宇陀伊那佐山などが例にあげられる。私の知る限りでは、最も高所に万葉集の歌碑が立つのは、伊勢・大和国境の高見山ではなからうか。

その歌碑には、持統天皇伊勢行幸（持統六年）の折に、「石上大臣のつくった歌が彫られている。山頂に鎮座する高角神社の前に「霊峰高見山」の石碑が立つ。そのそばには、旅地で妻を偲んだ石上麻呂の歌のいしぶみが並んでいる。吾妹子をいざ見の山を高みかも大和の見えぬ国遠みかも

（巻一〜四四）

途中のいたるところに万葉集の故地があり、私にとって胸高鳴る垂涎の旅路といえる。

木津トンネルを抜けてすぐに、吉野在住の歌人前登志夫氏の歌碑を置く広場がある。ここから望む高見山は、三角錐の穂先を天に直立させ美しい姿を見せている。日本のマッターホルンというニックネームが似合う。荘厳で華麗なる形象を宙に浮かせている。



## 木村太郎

### 高台

わが妻をいざ見ようとしても、去来見の山が高いからか、都が遠いからか、大和の国が見えないという歌意になる。伊勢側の登路となる波瀬に住む古老の話として、高見山が昔「いさみ山」と呼ばれていたと、澤潟久孝氏の『万葉集注釈』に紹介されている。

高見山の別名には、高角山とか高倉山とかの山名も知られている。私は高見山へは三年前の冬に初めて登った。新大峠（高見峠）に車を駐めて、大峠から高見山へ直登、霧水の尾根道を国見岩まで歩いて引き返した。

その時に見た、陽光にきらめく霧水の美しい光景は、今でも鮮やかな記憶として残っている。杉谷出合橋を過ぎると、道端に雪の残骸が積み上げられていた。嫌な予感を覚えながらも、高見トンネルの手前を峠へ向けて旧道に廻り込んだ。舗装路をおおいかくした雪の道が前方に続く。後戻りもできず、四輪駆動に切り換えて最低速で車を進めて行く。週末のためか深い車の轍ができていて、タイヤ跡を追いつながら前進した。

杉谷隧道を過ぎたあたりで、車はスリッパを始めた。高見峠まで行くことをあきらめ、途中の切り開かれた広い場所に乗り入れて車を駐めた。週末に子ども連れがきて遊んでいたのか、雪だるまが広場に残されていた。上空は白み始め、意外に暖かな朝だと思いつつ歩き出す。杉谷登山口からの道に出合くと小峠である。小峠から右手の方には、大峠へのびる伊勢南街道が通じている。近世の国学者本居宣長が、伊勢の松阪から吉野の水分神社へ、自らの出生のルーツを尋ねて旅した道でもある。その道を下山時に歩くためにやりすこし、高見山への登り道を見上げた。

鳥居をくぐり急勾配の登り道を行く。道は凍結していないが急坂地帯で雪がゆ



高見山山頂の高角神社

て胸に残っている。山の魔法使いが呪文をかけたように、木々の小枝は硝子繊維にも似た結水をつけていた。あの時の忘れられない霧水をもう一度見たいと思いつち、夜の明けの前に家を出て西名阪道に車を走らせた。

天理から三輪を経て多武峰の方向へ山の辺道に沿って走る。桜井からは忍坂と粟原を通り、かきろいの丘のそばを走る。

るみ始めていて、滑りそうになる。木立につかまりながら坂を登り切り、乳岩と名がついた尾根地に出てひと息つく。乳岩と呼ばれる岩は斜面の下方にあるらしいと、覗いてみてもよく見えなかった。乳岩の上方、頭の部分に当たる場所に、敷物を広げて腰を下ろした。

温かい飲み物を口に含むと心地がつく。坐ったついでに八本爪のアイゼンを装着する。再び歩き出すとすぐに、平野登山口からの道に出合う。前夜の降雪で古い足跡は消されていたが、真新しい登山者の足跡が印されていた。雪上の足跡に道案内されながら西尾根をたどる。ほどなく国見岩の大岩が見えてくる。

『日本書紀』の人皇の部に、神武天皇は東征の途次、ヤタガラスの先導で高倉山の嶺に登ったと記されている。その時、はるかに宇陀の女坂・男坂・墨坂の敵軍の様子を見下ろした所が、この国見岩だと伝えられている。

神武が大和を平定し橿原の宮をひらいた後に、敷を称えられたヤタガラスは高見山頂の高角神社にまつられた。祭神の名を賀茂建角身命と伝わる山上祠は、ヤタガラスが先導した時と同じ方向、伊

勢側から大和側へ向けて建てられたよう  
だ。

国見岩からは先行者の足跡を気にしな  
いで歩けた。息子岩・揺岩・笛吹岩とい  
う伝承の場所を通り過ぎる。ただ以前に  
歩いたときと違うことは、期待して来た  
のに霧水の景色が見られないことだ。深  
く切れ落ちた谷間と、ブナの原生林を茂  
らせた山相とが、尾根の両側に続く。け  
れどもこの日は吹き上げる冷気も通り抜  
ける風もない。気温が高すぎるのか大気  
中の水蒸気が昇華することなく、樹霜も  
樹木もできていない。

周りの茂みや木の枝に前夜降った雪が  
付着しているが、時たま音を立てて落ち  
ていく。少しがっかりしながら高見山  
(1248m)の頂上に着いた。2等三角  
点峰の見晴らしを楽しむように、1人の  
登山者が白く装った周りの山々を眺めて  
いた。

その人はかなり大き目のザックを背負っ  
ており、私と比べて一回りほど若く見え  
た。その人は曾爾側へくだると話してく  
れた。道の様子を訊ねたところ、北へ派  
生する天向山までは両側の谷が原生林に  
おおわれているという。その人は私に

霧閉気に包まれていた。だがここに来る  
人たちのなかでだが、この高見山にま  
つわる、古き時代の神史を知っているの  
であらうか。

高見山の祠には、蘇我入鹿がまつられ  
ているという俗説が流布したことがあっ  
た。中大兄皇子と藤原鎌足に誅殺された  
入鹿の首級は、怨念をいだいで大和から  
この山頂に飛んできた。その後家臣らが



岩 見 国

「深山的風光を味わえる、よい尾根です  
よ、あなたも一度歩かれたらどうですか」  
と興味ある話をしてくれた。

差杉峠(西杉峠)を廻って西杉川を橋  
保へ出る道もあるが、その人は橋保川を  
くだって麓の高角神社へ出るということ  
だった。その人の名前も聞かず羨しい思  
いで、橋保への道標の先に消えてゆく登  
山者を見送った。朝食抜きで山へ来て、  
思い出したように空腹を感じた。避難小  
屋の屋根上の展望台で食事の支度にとり  
かかる。

ガスバーナーに火を点けて、鍋に水を  
満たしうどんをほうりこんだ。うどんが  
炊き上がるのを待ちつつ眼前に視線をや  
ると、台高の山々、大峰の山々の白く気  
高い姿が列をなしていた。まるで、私だ  
けのために青空の下で最高の山岳風景を  
展開してくれている。霧水の光景を見る  
ことができずに落胆していたことなど、  
すっかり忘れてしまっていた。

そうこうしているうちに大峠から一組、  
二組と人が登って来た。私が歩いて来た  
道からも女性の二人連れが登って来て、  
山頂は賑わってきた。カラフルな登山服  
を身につけた人々が集まり、山は明るい

供養すべく、伊勢の舟戸に入鹿の首級を  
埋葬したという。それからの高見山は、  
天智天皇と藤原鎌足の縁につながるもの  
に祟ると考えられてきた。

ある時代、高見山への参拝者は袋に砂  
を詰めて山に登ったという。頂にその砂  
を積んで山をくだった。鎌足の眠る多武  
峰よりも、高見山を高くして入鹿の霊を  
慰めようとした。これが「たかみに砂持」  
の語源になった。「多武峰、大轡冠、藤  
原鎌足公と三度唱えれば揺ぐ」という揺  
岩の言い伝えも、鎌足を忌み嫌う山の性  
格からきているように思える。

持統天皇が伊勢への行幸を言い出され  
たときに、三輪高市麻呂は冠位を投げ捨  
てて止めようとした。「農繁期の前で農  
民の負担が大変ですから」と諫言した。  
万葉集の巻にも付記されている逸話の裏  
には、伊勢行きに際し、入鹿の怨念を危  
惧した言葉が秘められていたのではな  
らうか。

天智天皇の弟君、天武天皇御后であ  
られた持統天皇ゆえに、朝廷人にはその当  
時も入鹿の祟りを恐れる気風が残ってい  
たのであろう。かつて大海人皇子とも  
に、数々の出来事をくぐり抜けてこれら

<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

イモック山遊行くらぶ  
兵庫県の名山シリーズ  
1月20日「笠杉山」939m  
新雪を踏んで初登り  
詳細はお問い合わせ下さい。



神戸ザック

〒653-0039 神戸市東灘区白告町3-1-30  
TEL (078) 621-5851  
FAX 621-3528

## KOBEの登山専門店

平成12年度「グッドデザインひょうご」の  
選定商品に選ばれました

### ドルフィ II



ハイキング用の小型ザック、トップとフロント  
に小物入れポケット、サイドはボトルポケット、  
ストラスホルダーポケットを装備、背中  
にクッションを敷いた  
●容量  
●重量  
●素材  
●価格

容量  
22L  
27L  
30L  
38L

重量  
800g  
800g  
800g  
800g

素材  
ナイロン

価格  
2,200円  
2,700円  
3,000円  
3,800円

た持統天皇は、強い精神の持ち主であっ  
た。

さすがに高見山越えの道を進むことは  
なかったが、名張から青山峠を越えて伊  
勢へ向かわれた。たびたびの吉野離宮へ  
の行幸と同じように、持統天皇は蕭々と  
伊勢阿胡の行宮(かりみや)へ赴かれた。  
行幸地の志摩の海は何ごともなく晴れ  
渡り、持統天皇は女官を連れて舟遊びを  
楽しまれたようだ。

潮さるに伊良波の島辺漕ぐ舟に  
妹乗るらむか荒き島廻を

(巻一〇四二)

持統天皇伊勢國に行幸す時に、飛鳥京に  
留まれる柿本人麻呂の詠んだ歌である。

女帝に付き従っていた女官のなかに作  
者の恋人がいたのであろう。恋人の帰り  
くる日を持ちかねて、その姿を思い描い  
た数首の歌が『万葉集』に残されている。  
(平成13年2月5日歩く)

#### ▲コースタイム▼

旧国道駐車場(25分) 小峠(35分) 平  
野登山道合流(1時間) 高見山(35分)  
高見峠(25分) 小峠(25分) 駐車場広場  
△地形図V2万5千II高見山

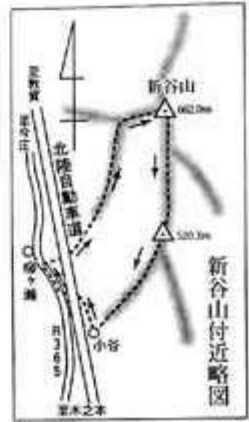
新ハイ関西62号  
標高△△62mの山

火打山 (2462m・上信越)  
新谷山 (662m・湖北)  
鉢伏山 (762m・敦賀)  
ベンケイ (762m・鈴鹿)

火打山

火打山へは秋の三連休に雨飾山に登ったあと車で移動し、笹ヶ峰キャンプ場から妙高山に登り、高谷池キャンプ場にテントを張って、翌日昼まで往復した。日中は雨飾山・妙高山ともよく晴れて気分上々の2日間だった。しかし、テントを張った夜は冷たい雨に見舞われた。高谷池キャンプ場にはいくつものテントが張られていて、池のそばの湿っぽいゆるやかな斜面に張るしかなかった。雨が地面に吸い込まれずテントの中は徐々に水びたしとなり、池近くに寝ていた小

坂さんのマットが浮き出すほどになった。びしょ濡れで、あすはそのまま下山しようかと覚悟を決めていたのだが、翌朝すっかり晴れ渡ったのは驚いた。急いで火打山へ登る。高谷池の一段上の天狗ノ庭の池塘には火打山が美しく投影し、3日間でないばん透明な秋に出会うことができた。草紅葉の湿原、青く光る池塘、枯れ草色の火打山の初冬姿、逆光に黒く峙つ妙高山の背後は真っ白な雲海と、どの角度を切りとっても全て絵になる美しさだった。そして最も驚嘆したのは頂上に新雪が積っていたことだった。北アルプスにはさぞかしと見れど、新雪はわれらが足元



新谷山頂上にて (背後の山は横山岳)

地形図を見ながら北東方向に進路を定めてラッセルを始めた。やわらかい雪の急斜面なので、短くしたストックを横にして両手で雪を押し固めてから、ワカンをかき上げて登った。この姿勢で登るとき、山にどっぷりと向かい合っている心境ほど楽しいひとときはない。野生動物に戻ったような気分だ。後にできる足跡はとも兔や鹿のような美しいものではないが……。

標高550mあたりまで登ると西尾根が近づき、徐々に真東に進路を変え、ひと登りで頂上に着いた。

スコップでテーブルの形を残して周りを掘る。座高に合わせて坐る深さまで掘り、掘り出した雪を風上の方に積むと、快適な昼食場所の出来上がりだ。雪の上に板をのせればコンロは安定する。足元は深く雪に囲まれているから暖かい。東方には七ヶ頭ヶ岳の尾根越しに横山岳が大きく望まれた。

下山は南方の520・3mの三角点を目指してくだる。標高差で50m程くだった広い所で、一つ東の尾根に入らないように注意してくだった。ずっと広葉樹林が続いた。三角点から徐々に南西方向に尾根は曲がり、小谷の集落のお寺の裏におりた。(平成11年2月7日歩く)

△コースタイム▽

のみ。私たち4人はこの幸運に大喜びした。(平成5年10月11日歩く)

△コースタイム▽

高谷池(往復2時間30分) 火打山  
△地形図▽昭文社「妙高・戸隠」

新谷山

新谷山は地形図「木之本」の南端に位置する低山である。妙理山から南に派生する尾根のちよっとした肩であるが、一応三角点もあり山名もあることから一つの山と見なしてもいいかなという程度の山だ。そんな山には積雪の深い時期に行くにかぎる。西側には国道365号線が通っている。積雪期でも入山できる。

時高さんの車で、現在は時高さんの妻となった明石さんと私の3人で、2月の雪深い時期を選んで行った。柳ヶ瀬の集落のいちばん南の新谷山南西尾根の末端にのるべく、北陸自動車道のトンネルを抜ける。

ここが難関だった。国道を除雪した雪がトンネルを半ば塞いでいた。固い雪壁を階段状にしてトンネルの中に降り立つ。東側はふかふかの雪原だった。

柳ヶ瀬(2時間) 新谷山(2時間) 小谷  
△地形図▽2万5千||中河内・木之本

鉢伏山

敦賀市新保の奥の林道終点に車を置き、木ノ芽峠へ古道を登る。樹林の静かな谷道だった。峠から上は「今庄365スキー場」になっており、家族連れの多い賑やかな所だった。(平成8年6月16日歩く)

△コースタイム▽

新保林道終点(2時間30分) 鉢伏山(1時間30分) 新保林道終点

△地形図▽2万5千||坂取

ベンケイ

仙ヶ岳から奥尾根を南西方向にくぐった地点から西に少しはずれた所にある三角点。その北を奥境へ上がってきている小太郎谷は美しいが、ベンケイは植林ばかりの暗い山だ。

黒滝より小太郎谷をつめて奥境をベンケイに行くのなら2時間30分ぐらいで頂上だ。(平成8年1月21日歩く)

△地形図▽2万5千||土山



しおみだけ だけ あい だけ きた だけ  
**塩見岳・間ノ岳・北岳**

鷲見守康

**南アルプス**

塩見岳から望む間ノ岳



が、このコーヒーは実においしかった。心も身体もじわっと癒されていくようだった。

昨日、北荒川小屋の休憩でサブリーダーの狩野さんからテルモスの氷水をいただいた時も、疲れた身体の隅々にしみ通るおいしさに感涙の思いであった。夏のアルプス縦走には、冷たい水と熱いコーヒーが不可欠なのだと感じた。熱いコーヒー

ているようだ。同じ堆積岩の山であるにもかかわらず、硬い岩石の北岳などとなり、割れやすい岩で出来た間ノ岳は隆起していくプロセスのなかで、自らの重みを支え切れず山が落ち込んでしまい、現在の高度になったのだといわれる。

富士山がまだ現在の高度に達していなかった最終氷期に、間ノ岳は氷河をまとい、北岳を前衛峰として従えたわが国の最高峰だったという説には、自然史の壮大なロマンを感じるのだった。

山頂でティータイムのため大休止。Yさんがコンロで湯を沸かし、熱いコーヒーを入れてくれた。私は依然として食欲を回復できず、吐き気の続く状態であった

3日目の朝もすっきりと晴れ渡った。熊ノ平小屋からはすぐ間ノ岳への登りとなる。三峰岳手前の平坦な尾根で東に朝日、西にガスという構図ができあがり、ブロッケン現象が生じた。かなり鮮明で、かつ大きな光輪の中に自身の姿を見出し、皆大喜びであった。そして、三峰岳あたりから山岳展望がひときわ映え、私たちはアルプス縦走の醍醐味に酔った。

間ノ岳(3189m)は大きく凡庸な山で、山頂はいかにも広い。けれど、高さは富士山・北岳・奥穂高岳につき、わが国第四位の地位にある。

研究者の間で、地質時代の最終氷期にわが国の最高峰であったとも考えられ

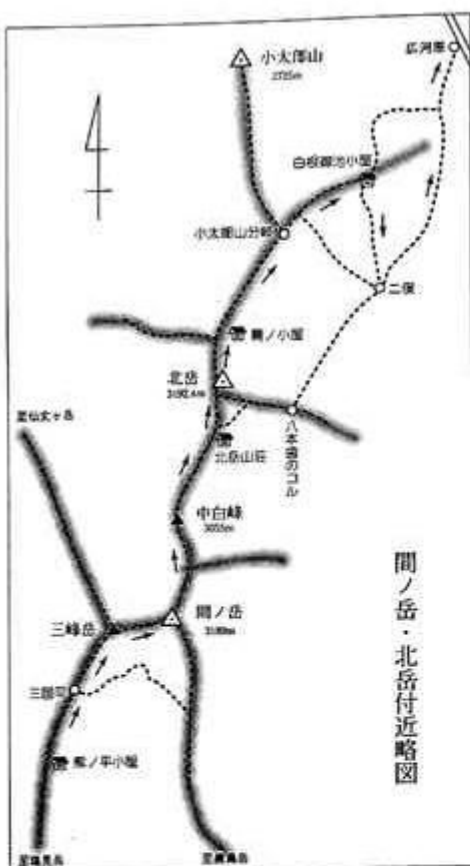
を得るのはコンロがあれば容易だが、冷水はどうか。残雪の多い7月の北アルプスなら雪でつくこともできるけれど、南アルプスや盆を過ぎた北アルプスでは残雪も消失してしまう。その意味で、テルモスに氷水を持参したのは、けだし、狩野さんの卓見というべきである。

朝の陽光に満ちていた空には雲が湧き出し、北岳のてっぺんが隠れるようになった。さあ、北岳に向けて出発。間ノ岳北斜面には階状土(周水河地形の構造土の一つ)が大きく広がっている。

中白峰を越え、1時間余りで北岳山荘に到着。私はすぐ受付に走り、昨日の混み具合を尋ねた。「蒲団一枚に2人程度でした」との回答。土曜日というのに意外だ。だったら、きょう(日曜日)は1人で蒲団一枚を使えるのかも? 「何と」いうことだ。話が違うじゃないか」と心のなかで呟く。

当初の計画では、3日目はこの北岳山荘に泊まる予定であった。しかし、山荘に事前連絡した際「海の日あたりは一番混雑しますから、蒲団一枚に3人は寛裕

間ノ岳・北岳付近略図



してください。できればテントを持参ください。食事は出しますから」と脅され(今)、私は震え上がってしまったのだ。インターネットで情報を探れば、1999年7月下旬の週末に宿泊客5800人、蒲団一枚に4人という記録を残し、昨年の7月20日から23日までは連日4000人の登山者が泊まり、蒲団一枚に3人という混雑が続いたという。

人気のある北岳山荘だから、今年の海の日あたりは大変な混雑で、きっと歴史に残る記録をつくるに違いない、と私は考えてしまったのだ。昨夏、北アの水晶小屋では前代未聞の記録づくりに参加した。もうゴメンだ、記録づくりは一回でいい。それで、3日目の宿泊は白根御池小屋に変更したのだった。

気を取り直して北岳山頂を目指し、本山行最後の登りとなった。急登となると、私は吐き気が鎮まるぶんだけ楽になるのだが、メンパーの多くは縦走の疲労も蓄積し、かなり苦しい登りとなった。この苦しさは、白馬岳に匹敵する豊かな花畑が慰めてくれるはずだったけれど、心なしか花が少ない。

やがて、本山行での目当ての花……ム

カゴユキノシタとタカネマンテマを見つけた。斜面に大きな群落をつくる花たちと異なり、両者は岩影に小さくひっそりと咲く。黙々と歩いていた隊列に、やわらかな和みの空気が流れた。

11時40分、北岳(3192m)山頂に立った。ガスで見晴らしは今一つだが、苦しさで耐え、初めて北岳を極めたメンバーのなかには、涙を流した人もいた。この頂でメンバー全員の集合写真を撮影した。だれもが晴れやかで、とてもいい顔をしていた。

昼食後、再出発。肩ノ小屋の横を通り、小太郎山への道を分けると草すべりとなった。高茎草原のお花畑が続く草すべりの下りで、私は初めてサンリンソウに出会った。まだ見ぬ花は多いけれど、その中でもサンリンソウにはこだわっていた。こんなに山を歩いていてなぜ会えないのだろう。私にとって、いわば幻の花であった。だから、一目見てサンリンソウだと思っただけで、サンリンソウをニリンソウの三花の株と考えている人もいるようだが、茎葉が明らかに違う。ニリンソウの茎葉には柄がないけれど、サンリンソウには柄がある。



北岳山頂にて集合記念写真

白根御池からそのまま樹林帯をくだるつもりだったが、大雪渓を見たいという声が多く、二俣に向かった。大雪渓に出るとメンバーは子どもものようにはしゃいだ。北岳の頂の方向を仰ぎ見れば、青空を背に輝くバットレスがまぶしい。

雪渓に沿って下山を開始。登山道はいくつもの沢の流れをぬって行く。途中の

まだ見ぬ花といえば、キタダゲソウもそうだ。この時期、キタダゲソウは葉っぱしか見ることができない。花に会おうと思えば、まだほとんどの花たちが目覚めぬ梅雨期に、ただキタダゲソウだけを求め、雨を突いて登らねばならない。だから、今はきっぱりと諦めている。いつの日か会えるかもしれない、と思いがら……。

花を愛でながらくだって行くと、若者を交えたグループとすれ違い際に「この花はキタダゲソウですよ」と尋ねられた。若者の指差したのはハクサンイチゲだった。「じゃあ、キタダゲソウはどの辺に咲いてますか？」と食いが若者に、北岳山荘から八本歯の科尔へのトラバース道なら必ずあるけれど、花の季節は終わっている、と説明すると、若者の表情はくもり、言葉もなかった。

長い下りの果て、眼下に見えてきた白根御池の周囲はいくつものテントが張られ、思いのほか登山者が多い。まるで北岳山荘を避けて、この白根御池に登山者が集まってしまったかのようだ。

仮設小屋の受付で、とるものもとりあえず「今夜は蒲団一枚に何人なの？」と

沢の出合は累々として苦むした巨岩の間を凄烈な水が幾筋も流れ、絵葉書のような美しさだ。

2時間を要して広河原山荘に到着した。芦安村バスの始発まで時間もあり、山荘で生ビールを味わい、バスセンター付近をブラブラする。9時の始発便で北沢峠に向かい、北沢峠で長谷村のバスに乗り換えた。

長谷村宮バスは、特に北沢峠への往路の際、運転手により南アルプスの自然解説が行われる。各々運転手の得意な分野があって、話題も動植物から地質の話にまで及ぶ。しかも、内容はマニュアル化されたものではなく、運転手個々の趣味の世界に支えられているようで、聞いていて実に楽しい。将来、この長谷村宮バスの運転手になりたいものだ、私は夢見ている。窓の外には甲斐駒と鋸岳が角度を変えながら、繰り返すその雄姿を見せていた。

終点地の仙流荘で入浴。4日間の汗と垢を洗い落とし、打ち上げを行った。山小屋の佃煮弁当とカレーライスから解放され、目の前には、懐かしい「普通」の定食が並べられた。ビールで乾杯。全員

聞いた。相手は「蒲団一枚に1人です」と答え、「でも、きょうは1000人くらい泊まります」と続けた。「1000人も泊まるのか……」私は、今夜の夕食のメニューも気になったのだが、尋ねるのが恐ろしくなって引き下がり、代わりにMさんに探ってもらった。Mさんも気にしていたのだ。

受付から戻ってきたMさんはニヤニヤしながら「カレーですよ」と言った。夕食前の宴を催すため広場に集まっていたメンバーは、悲鳴にも似た声をあげ、溜息をついた。

よくよく考えれば、行く先々の山小屋がカレーライス一色に染まるのは予想できたことなのかもしれない。こうなったら、南アルプスのカレー街道を完全縦走したと世間に感張ればいいのだ。そうそうだれもがすることではない。「口惜しかったら、やってみろ！」とほとんどやけくそで叫びた。

広河原への下山を翌日に控え、宴はいやがうえにも盛り上がった。

最終日、4日間を通してもっとも天候は安定し、曇一つない青空が広がった。

がさっぱりとした顔つきで心から生き生きとしていた。

数日後、Kさんから葉書が届いた。4日間の長い山旅を終えて無事帰宅した一家の大切なお母さんを、ご家族がカレーで歓迎してくれたそうである。

うれしさとまどいとで複雑なKさんの顔が目につかぶようであった。

(平成13年7月22日・23日歩く)

#### ▲参考タイム▼

〔7月22日(日)〕熊ノ平小屋5・30―三峰岳7・10―30―間ノ岳8・10―45―中白峰9・30―北岳山荘10・00―10―北岳11・40(昼食)12・20―肩ノ小屋12・45―小太郎分岐13・15―白根御池小屋15・00(泊)

〔7月23日(月)〕白根御池小屋6・00―二俣6・25―広河原山荘8・00―20―広河原バス停8・30―9・00(芦安村バス)北沢峠9・25―10・00(長谷村バス)仙流荘11・00(入浴・昼食)13・00(バス)岐阜駅16・30(解散)  
八地 園▽昭文社Ⅱ「甲斐駒・北岳」

芦生の自然そのまま

# 三国峠から杉尾坂

すざか

山本久雄

## 京都北山

芦生の奥、京都大学演習林の北側は京都府と福井県の境となり、いわゆる国境稜線と呼ばれている。自然そのままの姿が多く残っているこの国境稜線を歩く山行である。

京都を出発し、花折峠を越えるまでは晴天であったのに、梅ノ木から針畑川に入ると音を立てて雨が降っている。いよいよ冬が近くなってきたことを北山時雨が教えてくれる。きょうは教えてくれないでいいんだけど、などと思いつつ小入谷で岐阜の山田氏を待つ。9時30分に合流し、一台で駐車場へ向かう。

生杉の集落を過ぎ、若走路谷を大きく廻り込むと林道はゲートで通行止めとな

り、そこが三国峠登山口である。小さな谷で水筒を満タンにして目の前のブナ原生林遊歩道をたどる。遊歩道はすぐに終わり、ものすごく急な登山道となる。きょうはガスがかかって上が見えないが、少しの間我慢してこれをたどる。入口から約15分で尾根の上に飛び出す。尾根に出たしまえばいままでの急傾斜から開放され、ゆるやかな傾斜となって原生林の散歩道となる。

あちこち窪みのある緩斜面を15分も行くと、ぼっかり開けた三国峠(776m)頂上に到着する。

時雨模様の小雨と立ち込めるガスに、これから先のコンパスと地図が頼りの山

進路をとる。P7677を越える頃から小雨もガスも次第に上がり、見通しがよくなってきたとホッとす。意外にやせた尾根を野田畑峠へとたどる。この間はさほど難しくはないだろう。

稜線をくればすぐにここが峠だと判断できるが、谷から上がってくれば峠であるとはわからないかもしれない。あたりはゆったりと開けた平地となっている。池のように水がたまり、その一角が峠となっている。あまり類を見ない地形である。ここからは稜線を見ない地形である。ここからは稜線を見ない地形である。



三国峠から杉尾坂付近略図

の流れに沿って歩く。国境尾根はすぐ右手にあり、わずかな標高差でしかない。こんな山の上にはこれほど豊かな水量の流れがあるとは信じがたいことである。今さらながら森林の保水力に感心する。

谷は幅100mぐらいに広がり、周りの尾根はゆるやかな曲線を描き、所どころ大木がすくすくそびえ立っている。溪流は瀬音もなくとうとうと流れ、人の気配は全くない。このような場所にびつたりの言葉はただひとつ、「桃源郷……」。

谷が少し狭まった所で風を避け、早い昼食をとる。ラーメンをつくらうと流れにコップフルを入れると思いがけなく魚が飛び込んできた。同行の山田氏によると「ゴリ」だそうだ。コップフルにすくわれてとまどっている魚の流れに戻してやり、水を汲み直してラーメンをすするが、あまりにも静か過ぎる。まるで時が流れていないようで、ここにいると取り残されてゆくような気がして落ち着いて過ごせなかった。このあたりで地図は2万5千図の「久坂」へと移る。われわれは昼食後国境尾根へと上がったが、もう少し谷を歩いた先の鞍部も、やはり野田畑峠と同じような地形である。



野田畑峠

行をためらうが、午後からの回復を信じ10時30分に出発する。

昔からあるクチクボ峠からの道は次第に消えてゆくようで、今は踏み跡程度になっている。これをほんの少したどると、いよいよ国境稜線へ分岐することを小さなテープが教えてくれる。

次のピークで尾根は北西へと向きを変え、小さなピークを越えると西南西へと

### ◀新ハイキング選書▶

## 日本300名山ガイド

第15巻 東日本編 好評8刷発売中  
第16巻 西日本編 好評7刷発売中

新ハイキングの精鋭5氏が、細心の実地踏査による、地図・写真・コースタイム入りの内容豊富なガイドブック

A5判・320頁/定価1680円(税込)

発行所 新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13  
電話/Fax 共用 03-3915-8110

### ◀新ハイキング社▶

## 読み、歩き、書いた 深田久弥の研究

本書は深田クラブの会報に飯島壽・高澤光雄・高辻謙輔の三氏が、深田久弥について研究の成果を発表されたものである。その著作・山行・交友関係・生い立ちなどを調べられた。多彩な内容で、読みものとしても面白い。

A5判・387頁/定価1680円(税込)

発行所 新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13  
電話/Fax 共用 03-3915-8110



この鞍部から先シンコボ(811・4)の分岐までは、非常に強く獣臭が立ち込め、特に尾根の木の間「ウロ」は目

にもしみるような獣臭がしていた。熊かと思ったが、後で地元の人に聞くと「獣臭は気のせいだろう、また獣にしてもシカだと思ふ」とのことであった。ひょっとしたらイノシシかもしれない。いずれにせよ、動物園にいるような臭いのなかを歩くのはあまり気持ちのよいものとはいえず、足は自然と速くなっていく。  
シンコボの手前で稜線は急角度に南へと向きを変えるが、せっかくなのでシンコボに寄ってみる。本日の最高点でもある榎木山の山頂は、訪れる人も少ないようだ。ここまで三國峠から昼食時間も含

めて2時間であつたことになる。再び急折するピークに戻って稜線を南下する。飛ばしてきたせいでろうか、次のピークは息を切らせて登った。ピークに立つと地図上では直進のように思えるが、実際は急角度で右方向へと向きを変えて尾根をたどることになる。一瞬方向を間違えようになる要注意の場所である。次のピークでは電車を乗り換えるように隣の尾根にのりかえなければならぬ。適当に尾根をトラバース気味にくだり、前方を確かめて尾根をのりかえる。再び大きなピークを越えればもう一度尾根をのりかえる。この二回の尾根ののりかえはガスがかかれば少々難しいだろう。間違っても福井県側へ踏み込まないように注意する。

二回ののりかえを無事に終われば小さな鞍部へおり立つ。ここで左に谷をくだれば杉尾坂の少し下へ出られるが、せっかくなので最後のピークを越えることにする。今までは思っていたほどのやぶでもなかったが、この最後のピークのやぶは少々うるさかった。杉尾坂へは三國峠から県境のコンクリート杭を道案内に、休憩・昼食も含め3時間で到着した。

ここからは上谷沿いの演習林ツアー用のハイウェイコースとなる。三國峠から杉尾坂までは人に出会うことはなかったが、ここからは多くの人に出会いながら中山へと急ぐ。途中の野田畑の広がり枯れススキの穂がゆれ、まわりの山々はすっかり初冬の趣である。

春夏秋冬この演習林へ足を運ぶが、いつ訪れても失望することはない。きょうは「長谷谷作業所」へは寄らず、地藏峠へと足を向ける。

中山の祠の前できょうの山行の無事を感謝し、枕谷を地藏峠へと向かう。地藏峠への分岐は広場となっていていい雰囲気である。小さな子ども連れならここへ来るだけでも十分だろう。目の前の地藏峠まで一投足である。地藏峠からは20分30分もあれば駐車場へと帰り着く。  
(平成13年11月4日歩く)

#### ▲コースタイム▼

若走路谷三國峠登山口(40分)三國峠(1時間30分)野田畑峠(1時間30分)シンコボ(1時間)杉尾坂(1時間30分)地藏峠(30分)三國峠登山口  
△地形図▽2万5千Ⅱ中・久坂

## 残雪と大展望の

# 美濃侯丸・大河内山・ロボット

奥美濃

石 義 人

私は奥美濃の山々に大きな憧れを抱いている。シンと静まり、風が吹き抜けるあの稜線にたたずんだときは、ああよかったと思う。いつか、そんな山行きをもう一度したいと思いつつ過ごしている。  
十数年前、始めて奥美濃に入った。無謀にも一人で夏の笹ヶ峰へ行った。「大河内林道からロボットに突き上げる尾根に道がある」と、大昔の記録を頼りに挑戦した。確かにかすかな道形が切れ切れにあり、何とか1100坪ピークまで行くことができた。しかし、それから先はすごいやぶに阻まれて退却した。そのときの緑に輝く県境の稜線を今でも鮮明に覚えている。

また、ガイドウの尾根からバンドウ丸を越えて美濃侯丸に登ったのはもう5年前になる。夢のような楽しい山行であった。そのときの紀行文を新ハイキング誌に投稿し、活字となった(33号)自分の思い出に二度目の喜びを感じた。

久しぶりの山行はやはり奥美濃となった。比較的アブローチのいい美濃侯丸から、できれば笹ヶ峰までへと出発した。京都の家を出たのは3時30分。一人、名神から北陸道を今庄インターへと進む。今庄の町は真っ白で、広野ダムも薄く凍っている。やはり今年も異常気象なのか。しかし、ダムの周囲道は除雪されており、その先のデブリの所まで進めた。そばに

1115坪ピークから大河内山(左)と美濃侯丸(右)を望む





ロボットから大河内山・美濃俣丸と、奥に三周ヶ岳を望む

る。危険なところは無い。急がないでゆっくりと歩く。朝方曇りがちであった天気はいま快晴。シンと静まり返り、心地よい風が吹き抜ける、あの真っ白な稜線に、今いるのだ。

白き奥美濃に 風吹きぬける  
青き空に 合体する

大河内山・ロボットはすぐであった。大きな雪庇が峻側に張り出ている。どこまでも真っ白であった。ロボット着12時15分、まだまだ時間には余裕がある。笹ヶ峰へと思う。しかし、ふと、そんなにいっぺんにとも思う。いつかまた来ることにしてきょうはゆっくりと帰ろう。

結局それがよい判断だった。この後、予想もしていない苦闘が待っていたのだ。

ロボットからも最高に楽しい大斜面をくだる。源平谷山の分岐のピークまであったという間であった。枯れた大きなブナの木が10本ほど寂しげに立っている。右の尾根の急斜面に入り、ひざや股下までもぐる斜面をどどんくくだる。722坪の地点までは明瞭であるが、後は植林のなかをただがむしゃらにくくだるのみである。ワカンが引っかけり足を少し痛め、ワカンをはずす。何度も何度もぐり、下へ

△コースタイム▽  
駐車地点6・30―912坪ピーク8・50  
―美濃俣丸10・05―20―大河内山11・35  
―50―ロボット12・15―30―源平谷山分岐13・00―40―大河内林道14・40―駐車地点17・10  
△地形図▽2万5千▽広野



ロボットから笹ヶ峰を望む

車が一台駐車してある。先行者がいるのだろうか。

すぐに準備し、6時30分出発。鈴谷合まですぐであったが、付近は大規模な林道工事中であり、様子が一変している。鈴谷に入り、林道を進むが屈曲点の取り付きがよくわからないまま、左の急斜面の雪上に踏み跡を見つけ、その後を追う。杉の植林のなかを、ゆるくて締りのない雪の急斜面をただひたすらに登る。この踏み跡は美濃俣丸まで続いていて、ルートファインディングやラッセルが大いに助かった。

すぐに自然林となり、歩きやすくなる。912坪のピークまで来ると周りの山もよく見え、傾斜もゆるくなり快適そのものである。積雪は非常に多く、所どころ急坂があるものの、美濃俣丸・上谷山・ガイドウの尾根などが懐かしく見え、気分はいやがうえにも高まってきた。

1115坪のピークはすばらしい展望台である。目の前に美濃俣丸、そして三周ヶ岳・黒壁・ロボット、全てが目の前である。そこから急坂を登ると真っ白な美濃俣丸(1205.3坪)の頂上であった。先行者の踏み跡もそこで止まっていた。

観光バスなら 確実第一の  
**太陽観光開発(株)へ!!**



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからアラックスまで

**スキーバスもあります**

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

懐かしい頂上、二度目の頂上である。前よりもきょうのほうがもっと思えばよかったと思う。

バンドウ丸の方にも大河内の方にもまったく踏み跡はない。そんな所に踏み出すのは何となく不安で躊躇する。ほんとは大丈夫なのか? 少し勇気を出して一歩を踏み出すとその迷いは消え、弾んだ気持ちに戻ってくる。すばらしい気分である。何とも言えないほどに爽快だ、美濃俣丸の広大な急斜面を飛ぶようにくだる。くだり切ってワカンを着ける。ほこほこことひざ上までもぐり出したからである。

しかし、林道はまったく踏まれていない。1坪もの積雪があり、スズボの雪道であった。疲れきった足に、この林道のラッセルが待っていたのだ。途中、数ヶ所雪崩で埋まった急斜面があり、今回最大の難所となった。急斜面のへつりに緊張し、これでもかというラッセルにヘトヘトになってやっと駐車地にとどり着いたのは17時10分だった。休みなしの2時間半のハードワーク、しばらく動くことさえできなかった。

(平成13年3月19日歩く)

## 京都府南部・和歌山・江戸ルート

柴田昭彦

## 【京都府南部方面ルート】

★前回の略地図で、京都府南部付近の旗振り中継地点を説明なしで示したので、これらを紹介しよう。

●旗振山（大阪府交野市）中継所は、標高345mで、交野山（地形図では344m）であるが、交野市発行の地図では、344mより少し高く、交野市内の最高峰である。本誌47号に西尾氏のガイド記事がある。

★「交野市史」自然編1（昭和61年）には、「交野の旗振山は西は断崖で大阪の方が一望できる立地の良さがあり、東の山城、大和へも次の中継地点が独立した山であれば、信号を送るにふさわしい場所である。旗振り通信が行われていた

のは明治の初めまでで、電信が利用されるようになるまでの仕事も姿を消した。」  
「交野の人々もこの山で振られた旗の様子でいちやく米の相場を知って米の売り買いの決断をした」と記載されている（府立磯島高校教諭中光司氏の執筆）。

★筆者は、交野市文化財事業団に問い合わせたが、「文献史料もなく、言い伝えて残されているものです。尚、詳しく知っておられた方もお亡くなりになっており」とのこと。頂上から、どこに送信したのかを知ることはできなかった。立地から考えて、直接、大阪堂島から受けたか、あるいは、吹田の高浜神社のはたふり松から連絡したのかもわからない。

旗振山（345m）の頂上



交野の人々に知らせるためだけに設けられた可能性もあるだろう。

★平成13年8月、新たな情報を得て、「交野町史」（昭和38年）（増補改訂二、昭和46年）の第八章交通と通信の「8その他通信方法」に旗振信号の項目があることを知った。次のような内容である（原田英二氏の執筆）。「旗振信号に依るものが行なわれており、傍示部落（奈良県境

の山間に所在し人家所在地の標高約三〇〇米

の地域）に旗振所があった。同所は大阪城まで見通せる場所に在って、（中略）堂島の米相場が即日判明したとこのことである」。

旗振山は交野市傍示の最北端に位置している。信号所は集落部でなく、山頂である。

●千鉢山（京都府京田辺市高船）中継所は、集落の西、生駒市境にある311・313三角点である。この旗振り場の存在は、ほとんど知られていないように思う。

★筆者は、京都新聞社編著『京・近江の峠』（昭和55年）の中の「三國峠」で次のような記述を見つけた。

「土地の古老によれば、戦いに敗れた落武者は、逃げる途中、千鉢山付近で、刀ややりなどの武器を埋め、敵の追及を免れたという。千鉢山の名の起りだそうである。昔、この村で一番高い千鉢山の頂上から、村人が旗かノロシで大阪の北浜や伏見のコメ相場の上がり、下がりの動きを伝えた。村人たちは、この合図を見て、きょうは北浜へ、あすは伏見へと相場の高い方へコメを出したそうだ。」と高船の古老、岡田平造さんは語っていた。

る。」

★千鉢山の北に猪神社（笠上神社ともいう）があり、痘瘡平癒の信仰があり、昔は訪れる人も多かったという（京・近江の峠）。その北方に山城・河内・大和の国境があり、その近くの峠を三國峠と呼んだという。戦国時代、南方の打田と北方の尊延寺との間で合戦があったと『普賢寺変遷史略』に記載されているという。直接、大阪堂島と連絡できないが、いちばん近い交野の旗振山と連絡できる立地にある。伏見とも直接の連絡はできないので、天王山を經由したのかも知れない。近藤論文には、十三峠を経て、天王山から伏見への通信が記述されている。千鉢山から奈良方面に送信されたかどうかは不明だが、可能な立地である。

★「京・近江の峠」には「千鉢山」の説明が示されていない。「田辺町郷土史 社寺篇」（田辺郷土史会、昭和38年）には、字高船の石船神社の解説に、「横峰（千鉢）とあるが、京田辺市教育委員会の藤野一太郎氏によると、「せんぼこやま」と呼んでいるという。岡田平造さんはだいたい前に亡くなられたとこのことで、もう地元でも「小さい頃、聞いたことが

ある」「ガラス製の遠メガネを使っていた」という程度で、ほとんどの人は知らない、あるいは忘れてしまっているというのが現実だという。通信の方向については、岡田さんの話以外のことは全く不明という。なお、三角点の点名は「高船」であり、「笠神山」の山名もあるようだ（『歴史次巻一』「近畿周辺三角点名集」大阪低山散歩会、平成8年）。

★筆者は、平成13年10月14日に、自動車を利用して、京田辺市の甘南備山へ登ったあと、高船の千鉢山、交野市の旗振山・交野山を巡ってみた。高船の笠上神社の麓に自動車を駐車させて、神社の石段を上る。広場に出ると、東側の展望が大きく開ける。すぐに不動明王の像があり、その横から忠実に尾根伝いの踏み跡をたどる。ほどなく、山頂に着く。四等三角点（点名は高船）の石標と「歡喜天拝所」と刻んだ石碑があるが、周囲は竹林で視界は全くない。南方への踏み跡があるが不明瞭なので、元の道を引き返した。交野の旗振山へは、交野いきものふれあいの里の南端の駐車場（旗振山の北東麓。16時半に閉鎖されるので注意）に自動車を置く。すぐ南の野外活動センターへの入口



千鉾山の頂上にある石碑

(16時半に閉まるゲートあり)から上がり、道が下りになると、すぐ右手の道標が旗振山まで往復10分と案内している。鉄塔のすぐ上が三等三角点(点名は蓮花石)で、横の一番高くなった所に旗振山と記した標柱がある。東側が部分的に開けていて、高船の千鉾山の方角も見えている。西側は樹林に閉ざされていて、展望は全くない。

●北笠置(相場のむね、笠置町北笠置)中継所は、笠置山(288㍎)と木津川を挟んで北側にあり、切山集落の東方の尾根の上にある。北笠置の役場の真北800㍎に位置する標高320㍎地点である。切山の北東の375㍎独標の南南西200㍎付近に当たる。

★筆者は、『俳諧職業尽』(天保13年)の「火振」の記事から、「大坂、信貴山、

笠置山、伊賀の布引山、勢州の青谷山、津、松坂」という相場通信(夜は松明、昼は懸のルート)の存在を知ることができた(本誌6号)。そこで、笠置町教育委員会にこの資料を送って、問い合わせたところ、笠置山には旗振り伝承は残っておらず、同町教育委員会・社会教育指導員の中尾修氏によって、切山の長老(松本三三男氏)への聞き取り調査が行われ、地元で「相場のむね」と呼ばれている旗振り地点の確認が行われて明確になった。「むね」とはおそらく「峰」のことと推定されており、「相場の峰」と表記すべきかもしれない。

★この旗振り場の存在が明らかになったのは、中尾氏によると、平成12年10月7日朝のことで、それまで町教育委員会では把握されていなかったという。現地確認は平成13年1月16日、松本氏(76歳)、前田教育次長、中尾氏の3名によって行われた。樹林を最近開墾してつくられたと思われる茶畑(軽トラックで近くまで入れる)の下に、台地状の地形が樹林のなかに見えるが、道は上から通じていないという(切山からは今でも山道が通じていること)。南側と南西側に視界が開け、生

駒山地も見えるが、旗振りの確認ができないほど遠い。茶畑から東方はよく見えるが高旗山は国見岳(509・4㍎)に遮られて確認できない。いずれにしても、旗振り伝承地では東方は樹木が生えて見通しは困難な現状である。立木がなければ東・西・南の展望が開ける。松本三三男氏が父(死)から聞いていたのはこの場所と呼称のみであり、前後の中継地点、旗振り人の氏名、年代ともに全く不明である(以上、中尾氏からの平成13年1月23日付の旗振り通信についての回答による)。

★筆者は、『俳諧職業尽』に記録された「笠置山」の旗振り場が、「相場のむね」であろうという予想を立てて、現地確認の情報を待っていたが、いざ、その地点が明らかになってみると、思ったよりも低い位置にあり、高旗山への中継が不可能であることがわかり、この中継地点の役割が謎となってしまった。奈良の飛火野への通信はできないが、安楽陵、生駒山(天照山)、国見山(680㍎)への通信はできる立地にある。といっても、生駒山は遠すぎる。筆者は、千鉾山、あるいは交野の旗振山(345㍎)から直接、

横川沿いの道に出て、笠置駅へ戻った。

#### 【和歌山方面ルート】

★和歌山方面への中継ルートは、「旗振信号の沿革及仕方」には「大坂(二里)天王寺(六里)岸和田鴻の山(四里)紀州今畑(七里)和歌山」とある。篠崎昌美『浪華夜ばなし』(朝日新聞社、昭和29年)と松永定一『北浜盛衰記』(昭和34年)では、「天王寺一堺一岸和田一鴻の山一紀州今畑」となっているが「岸和田鴻の山」の誤りであろう。大阪読売新聞社編『百年の大坂2明治時代』(浪速社、昭和42年)には、「天下茶屋一堺一岸和田一和歌山」とある。

★水谷與三郎「旗ふり通信」(「上方」第百五号、昭和14年9月)によると、「天王寺、住吉と大体三里毎に取次所がある」といっている。「火の旗」として夜は提灯をふたつという(中村平之助「思い出の記 明治時代の堂島・曾根橋」1987年)。夜間の通信には、先に紹介した松明(火籠)の他、大阪付近では提灯も用いられたことがわかる。

●紀州今畑(和歌山県打田町)中継所は、江戸時代から、十三峠からの信号を受け



茶畑から一休山(中央)と国見山(その右側)が見える(相場の峰は右の樹林の下)

「相場のむね」へ送信されて、近くの南笠置等に米相場を伝えた可能性も考えてみたが、立地上、やや不自然であり、諸条件からは国見山から受信したと考えるのが最も妥当であろう。伝承が失われた現在では裏付けをとることは、もはや不可能かもしれない。

★「相場のむね」の現況を確認するため、筆者は、平成13年4月4日、桜花満開の

笠置駅から切山集落を目指した。切山水源の森(笠置橋の北、1・2㍎)まで行ったが、そこから東に向かう山道は見当たらず、引き返し、北の尾根伝いの林道をたどって、分岐点で南下し、途中で右手の茶畑に達した。茶畑からは、一休山が南方にはっきりと見え、その右側に、やや遠く国見山が姿を見せていた。茶畑の南端の縁石からくぐると、平地があり、小丘になった場所がある。かつての旗振り場と推定される地点での視界はとぎさされているが、茶畑での広大な展望が、かつての状況を推測させる。近くには下り道は見当たらなかった。茶畑で作業中の地主さんに、「調査か」と呼びかけられたので話をきく。和東町出身という。茶畑の小字名は東掛谷といい、この茶畑は樹林を開いたもので、今年で四年目になるという。収穫の初年は平成10年ということになるようだ。旗振り場は松本氏の山林であり、旗振りのことを話すと、初耳なので、興味深く聞いておられた。茶畑をあとにして、有市浄水場へくだらうとしたが、途中で工事をしていたので、逆に少し北に戻り、笠置町の1万分の1地図に示された東方への山道をくだり、

取り、和歌山へ送っていたが、見通しが悪い箇所があり、神の山・落合山の中継所が便利になると、明治初期に廃止されたという(近藤論文)。立地から考えて、ボンデン山頂の少し北の中継塔のあたりであろうと思ひ、打田町教育委員会に問い合わせたが、旗振り伝承の聞き取り調査は行なわれていないらしく、伝承の有無は明らかではない。

●神於山(神の山、鴻の山、鴻ノ山) 中継所は、明治に入ってから設置されたという(近藤論文)。「一名鍋山、泉南部土生滝村真上新田にあり」とあるが、鍋山は傍らの低い山であり、旗振り場所は神於山の山頂付近であろう。岸和田市教委に問い合わせたが、地元での伝承は明らかにできなかった。「岸和田風物自選」(岸和田市役所企画課、昭和58年)には、神於山について「山頂は平らで、『城見台』、『国見台』という眺望台がある。」とあり、和泉山脈や淡路島、神戸なども見える。旗振りには最適であったらう。

●落合山(和歌山市落合) 中継所は、今畑中継所のかわりに明治初期に設置され、神の山からの信号を和歌山市に伝えた。井関峠の東方約半里(2.5km)とある(近藤

論文)ので、雲山峰(490m) 山頂と考

えて間違いないだろう。吉岡章氏は「大阪周辺の山を歩く」(山と溪谷社、1998年)の中で、雲山峰が旗振り場所であったことを紹介されている。吉岡氏に詳細を尋ねたところ「和歌山市の教育委員会で、雲山峰の件をお聞きしたのは随分と昔で、担当者の名前もメモしていないので、今となってはわかりません。ただ当時でもかなりの年輩だったので、多分退職されているかと思いますが」とのことであった。和歌山市教育委員会に問い合わせたが、旗振り場の件はまったく不明とのことであった。

★明治10年ごろ、海老江(福島区)、天保山(港区、湊(堺市)、神の山、落合山、和歌山という中継ルートもあり、十三峠經由ルートと競合していたという(近藤論文)。

★天保山で旗振りを行ったのは山頂であろうが、津田康「天保山物語」(たる出版、平成6年)、渡邊忠司「大坂見聞録」(東方出版、2001年)等を調べても、旗振り通信の記事を見つけることはできなかった。近藤論文から判断すれば、天保山での旗振りは明治初期から明治25年頃まで

のようである。

★明治25年には、新たに、生玉(天王寺区)、大和川、堺へのルートができ、翌年には、和歌山米穀取引所の開設に合わせ、神の山、落合山、和歌山へ延長され、3ルートが競合することになり、この最後のルートが勝ち残った(近藤論文)。

★堺株式米穀取引所は明治27年に開設されたが、明治38年に廃止され(上林正矩「商品取引所の知識」中央経済社、昭和29年、48頁)、堺への旗振り通信も廃止された。

★明治36年になると、生玉の信号所を廃止し、木津川岸の平尾新田(大正区平尾)と東小橋元町(鶴橋駅北側付近)へ電話で通信し、そこから旗振り通信をしたという(近藤論文)。神戸方面に関しては、明治39年頃に、尼崎への旗振り通信を廃し、大仁(北区中津・大淀)の西方まで電話を利用するようになった。明治42年の北区の大火以降は、堂島その他から旗振りの櫓は姿を消すに至り、大正3年末には、「浪速の一名物」といわれた旗振り通信はほぼ消滅するのである。

【相場通信の山の探索】

★パソコンを用いて、インターネットのキーワード検索を実行して「旗振り通信」「旗振山」「相場振山」「高旗山」「旗山」などを調べてみた(平成13年7月24日)。

★相場通信と関係のないものとしては、八幡太郎義家が旗を掲げた高旗山(福島県)、キャンプサイトと山頂とで手旗信

号をした旗振山(新潟県、義経の旗になむ旗山(徳島県小松島市)、海軍の旗を掲げた旗山(東京都中央区築地5)などが見つかった。

★相場通信の山としては、須磨の旗振山、交野の旗振山、信楽町・上野市境の高旗山、明石市朝霧の旗山、野洲町の相場振山、伊賀町の旗山などの情報が見つかる。



その内容のほとんどは、地方史等、既刊の文献を利用して書かれたもので、オリジナルなものはない。

★伊賀町の旗山については、本誌60号で紹介したが、旗振山であることは一般には知られていないと述べた。

★ホームページ「鈴鹿の山風」の「旗山・小平山(鳥山)」の解説に「旗山の上で手旗信号で情報を伝えたところから旗山の名前がついた」とあるが、あいまいで、米相場の通信かどうかかわからないような記述である。

●「旗山」をキーワードにして検索すると、「エッセイ拾ノ段」(池田裕氏執筆)が見つかる。その中には「岡鼻付近に旗山というお米の相場を知らせるために旗を振っていた山がありました」とあり、伊賀町の旗山が米相場通信の山であることが公開されていた(古者からの聞き取りによるという)。エッセイによると、伊賀町の旗山はかつて修験場であったらしく、役行者像大小二体がまつられていたが、採石のため山を削る際に他の場所に移されたという。大きい像は大袖湖の近くの役小角と書かれた鳥居から少し山を登ったところにまつられているそうである。



## 山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- 1 利根川・碓氷・利根川
- 2 ニセコ・羊蹄山
- 3 大雪山・十勝岳・幌尻岳
- 4 十和田湖
- 5 八幡平
- 6 栗駒・早池輪
- 7 霧王
- 8 奥羽山
- 9 朝日・出羽三山
- 10 新羅山
- 11 磐梯・吾妻・安達太良
- 12 那須・塩原
- 13 日光
- 14 尾瀬
- 15 越後三山
- 16 谷川岳
- 17 志賀高原・華津
- 18 妙高・戸隠
- 19 軽井沢・浅間
- 20 那須・奥羽・秩父
- 21 西上州・妙義
- 22 奥武蔵・秩父
- 23 奥多摩
- 24 大菩薩連嶺
- 25 奥秩父 1
- 26 奥秩父 2
- 27 高尾・陣馬
- 28 丹沢
- 29 箱根
- 30 伊豆
- 31 富士・富士五湖
- 32 八ヶ岳・聖科
- 33 美ヶ原・霧ヶ峰
- 34 北アルプス総図
- 35 白馬岳
- 36 奥穂高・黒部湖
- 37 駒・立山
- 38 上高地・穂・穂高
- 39 奥穂高
- 40 御嶽山
- 41 中央・南アルプス総図
- 42 木曽駒・安木岳
- 43 甲斐駒・北岳
- 44 塩見・赤石・聖岳
- 45 白山
- 46 奥穂高・伊吹・御嶽
- 47 御在所・穂ヶ岳
- 48 比良山系
- 49 京都北山 1
- 50 京都北山 2
- 51 京都西山
- 52 北摂の山々
- 53 六甲・摩耶・有馬
- 54 悪城高原・二上山
- 55 金剛山・岩倉山
- 56 紀伊高原
- 57 大嶽山脈
- 58 大台ヶ原
- 59 赤目・備前高原
- 60 赤ノ山
- 61 大山・森山高原
- 62 四国駒山
- 63 石鎚山
- 64 瀬戸の山々
- 65 阿蘇・九重
- 66 祖母・積
- 67 奥久良
- 68 霧島・霧島岳

(★印は新刊の地図です)

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行します。この山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませようお願ひ申し上げます。  
※2000年度版は「大雪山」「甲斐駒・北岳」「塩見・赤石・聖岳」「阿蘇・九重」を全面改良し、新刊として「霧島・霧島岳」を刊行しました。

## 株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1  
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238  
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23  
電話06(6303)5721(代) 〒532-0011

(インターネットで情報発信中)  
http://www.mapple.co.jp/

詳しくは、ホームページをご覧ください  
たいと思う。

### 【江戸方面へのルート】

★「米相場」をキーワードに検索を試みたところ、「米相場で大活躍した望遠鏡」という記事があり、「江戸の相場はその日の内に、大阪に伝えられたといえます」とあって、次のような参考文献が二冊、紹介してあった。

●白山晰也『眼鏡の社会史』(ダイヤモンド社、1990年)は、メガネと望遠鏡の歴史を綴った名著で、望遠鏡の我が国へ

で、その端数さえ知らせばよい。相場の一斗一升だが、一斗一升といってしまうとわかるから、それを符牒で知らせた。

知らせる方法に、手旗信号だとか、音響信号だとか、いろいろな情報伝達の方法を用いた。とにかく大阪から東京まで、八時間で伝わるほど早かったそうである。

しかし、信号による伝達は、箱根山を除いてのことである。箱根はそうはいかない。箱根八里は一里ずつ早飛脚が走った。ほかはみな手旗信号で、それを望遠鏡で見て伝えた。箱根山は、三島(静岡県)から小田原(神奈川県)まで走るので、時間がかかってしまう。そのために、その飛脚は特別の鑑札を持っていて、真夜中でも関所が通れるようになっていたという。

飛脚は、値段を書いた木の札を竹の棒にはさんで背負い、裸になって一里の道走る。そこで待っている飛脚がまた走るといふふうにして、金銀の相場と米相場の両方を伝えた。これは公の情報ではない。三井家は、八時間ちょっとで江戸に入るという早さで、私的に金銀や米相

の伝来は慶長十八年(1613)という。西鶴の『好色一代男』によって、延宝期(1673-1681)に遠眼鏡(遠目鏡、千里鏡)はかなり普及していたことが知られている。また、162頁に、「米相場と望遠鏡」の項目があり、「東京―大阪間を八時間で伝えたといわれるから驚くほど早い」とある。この項目に記述された相場通信の内容は、次に示す文献を出典として、要領よくまとめたものである。

●樋口清之『こめと日本人』(家の光協会、昭和53年)は、日本の米の文化と歴史を振り返るもので、「世界最大の望遠鏡、

場を知り、その情報で米を売り買いし、すぐまた翌日返事を伝えた。今日はその値で買うか、売るかというような操作をするのである。

三井家は、むしろ米相場よりも金銀の相場でもうけた。上方が銀で、江戸が金相場である。金と銀の値段が、絶えず相場がちがう。その差で買い占めたり売ったりするのだ。」

「大阪では堂島の米相場の屋根に望遠鏡という駅があるが、その上の保久良山から望遠鏡で米価を知らせる手旗を見ていた。その手旗で、今日は一両に対して一石一斗になったなどと知らせる。それをつぎつぎに知らせるのだが、大阪から広島まで、四十分足らずで知らせがといたそうである。

東のほうは、生駒山で見ていた。生駒山(奈良県)の望遠鏡がいちばん長いのが、雨が降って天気が悪いとよく見えないので、その時は翌日まわしになる。そのつぎは、いまの奈良の東、そして笠置山か

米相場で活躍」という記事が、昭和55年5月27日付の神戸新聞の江戸・大阪間の旗振り通信についての記述(本誌59号で紹介)の出典と思われる(163-15頁)。

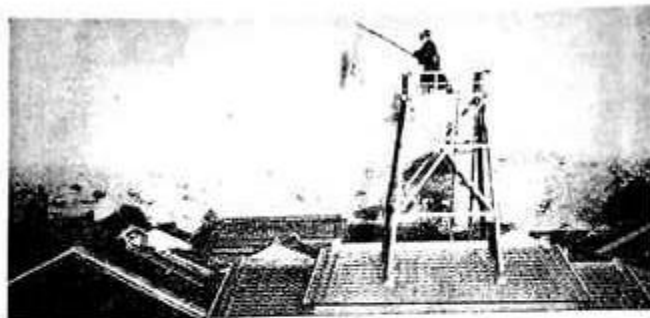
「符牒をつくって、だいたい一両一石が基準の単位の値段で、米価を伝えた。一両一石という米価が、江戸幕府二百六十年の基本である。基本値に対して上がる、下がるの相場を知らせた。だいたいの米価は下がる。その下がり値を、今日はいくらになった、今日は一両に対して一石一斗一升になったというようなこと

らずっと伊賀(三重県)を通り、白子の海岸から知多半島(愛知県)の先端で見ている。それから東海道を三島までいく。三島から小田原までは、裸の飛脚が走る。それを小田原からまた手旗と望遠鏡で送る、という手順になっていたそうである。

この生駒山に、長さが二メートルもある、世界最大の望遠鏡がいまも残っている。世界最大というのは、オランダから日本に伝わった望遠鏡は長さ六十センチほどだが、その望遠鏡、つまり慶長年間に渡来したものを、とうとう日本人は、文化文政年間に、二メートルの望遠鏡に仕立ててしまった。」

★実に興味深い資料である。おそらく樋口氏が古老から綿密な聞き取りをして記述したものと考えられる。その古老は三井家の依頼によって旗振りを行った人の関係者かもしれない。

★昭和55年5月の神戸新聞の記事には「大阪―四山間をわずか四十分ほどで伝えた」とあるが、「大阪―広島間を四十分足らずで伝えた」ことが正しいことがわかる。取材記者の勘違いであろう。保久良山が旗振り場となっているが、実際



大阪堂島の旗信號(通信博物館複製)

(複製博物館通信號) 大阪堂島の旗信號

あり、東北東方向に谷を刻んで、308・6材三角点(北原山の西端)へ突き上げていく。この谷がネムリ沢である。なお、北原山と南原山を区切る車道のある谷は、清水沢となっている。『鶴果村風土記』に旗振りに関する記述はないが、旗振り場は、おそらくこの309材峰であろうと思われる。一方、知多半島には常滑市の本宮山(86材)と美浜町の鍋山(82材)以外には際立った高所はなく、旗振りの情報も見つからないとのことであった(平成13年11月)。

●本誌59号で、多度山からの通信について述べた。川合隆治氏の論文には、平岡潤氏の話として「多度を経て名古屋の広小路のビルの屋上へ」とあるので、多度山から名古屋へ直接、送信したものである。

★東海道に沿う地域の旗振り通信については、豊橋市中央図書館、浜松市立中央図書館、静岡市役所社会教育課、静岡県立中央図書館、神奈川県立図書館、東京都立中央図書館に調査をお願いしたところ、関連する文献資料の提供があったが、肝心の現地の旗振りについての資料は一つも見つからなかった。大阪堂島から遠くなるにつれて、旗振り伝承は残りにくくなるようである。しかし、岡崎市の例のように郷土資料に埋もれていたり、現地での聞き取りで新たに発見できることもあるのではと考えている。

【通信博物館の手旗信号の模型】

★明治35年に誕生した郵便博物館は明治43年に通信博物館と改称され、大正11年に飯田橋に移転し、昭和39年に大手町の通信総合博物館となった(高橋善七『郵便風土記』(総括・外国編)(東日本編)示人社、1983年)。その生みの親として知られるのが樋畑雪湖氏で、通信博物館の主任として活躍し、旗振り通信に関する記述もある(本誌57号)。

★本誌59号で紹介した旗振りの模型については、大正六年の『陳列品目録』の第六室に、徳川時代の旗振通信の解説があることから、当時、通信博物館に展示されていたことがわかる。この手旗信号の模型の現物は博物館には既になく、この写真が残っているだけだといえる。樋畑「江戸時代の交通文化」(昭和6年)、高橋善七「通信」(昭和61年)にも同じ写真が掲載されている。(つづく)

(平成13年4月17日成稿・8月20日補訂)  
(平成13年11月5日追補)

に旗振りが伝えられているのは、その裏山の金鳥山である。

★『三井事業史 本編第一巻』(三井文庫、1980年)等で、文化・文政期(1804~1830)の「三井両替店」の動向を調べてみたが、相場通信に関する記述を見つけることはできなかった。

★三井家の大坂―江戸間の相場伝達ルートは、筆者が現在、把握している旗振り場の情報を用いて再現してみた場合、次のようになるのではないだろうか。桑名・名古屋を経由せず、伊勢湾を越えていることに注目したい。

「大坂―生駒山(天照山)―奈良の東(国見山)―笠置山―伊賀(高旗山、旗山、お経塚、上野西山)―白子の海岸(岸岡山)―知多半島―西尾(ハッ面山)―岡崎―豊橋―浜松―静岡―三島(飛騨)―小田原―江戸」

この再現ルートは、あくまで、筆者の推定にすぎないことは了解いただきたい。知多半島の先端とあるが、おそらく南部のことではなく、中部であろう。たとえば、常滑市本宮山などが考えられる。

★右のルートの場合、岸岡山から知多半島に送信したことが示唆される。ここで

思い起こされることを記しておこう。上野西山(鈴鹿市)において「米相場を瀧美半島の方へ伝えた」と紹介した(本誌59号)が、上野西山から岸岡山(白子)へ伝達すると、その方向の延長線上に、知多半島をかすめた右側に瀧美半島が浮かんでいる。上野西山の中継所の役割は、想像以上に広範であったのだろう。

★江戸後期には、京都から、東海道や伊賀街道を経て、勢州白子港まで運び、船で江戸に輸送していた(下し荷物運送経路図)『三井事業史本編第一巻』370頁)。当時の白子は重要な位置を占めていたようである。

★ところで、仮に、大坂―江戸間がすべて、旗振りで伝達できた場合、大坂・広島間が40分であることを考えると、おそらく1時間余りで通信できたことであろう。旗振りに1時間とすれば、箱根越えは7時間だろう。

●岡崎市内の旗振りについては、本誌59号で述べたように、資料が見つからず、不明であった。ところが、平成13年7月に、筆者が古書店から入手した、岡崎市立東海中学校現職教育社会科(代表 二村義徳)編集『おかざき東海風土記』(岡

崎市立東海中学校発行、昭和49年)の「第十三章 小字の由来と民話」の中の「本宿の小字と民話」(199頁)に次のようにあるのを見つけた。

「ネムル沢 鶴果の北原山と南原山の間を『ネムル沢』と呼びますが、この地は江戸時代には、ここから岡崎の米の相場を定めかねて見て、それを手旗で宮崎方面に知らせたといわれます。」

★鶴果町は岡崎市の東南端に位置している。東は額田町に隣接し、鶴果の東北東方向8.5kmに宮崎の集落がある。かつては、額田町東南部が宮崎村であった(西尾市の南の吉良町南端には吉良温泉で知られた宮崎の集落があるが、条件が合わない)。宮崎とは、額田町南東部の山塊と考えれば、豊橋市(旗振り通信が行われた)への中継が可能である。

●愛知県芸術文化センター愛知県図書館に、「ネムル沢」の位置と、知多半島地域の郷土資料の調査を依頼しておいたところ、小早川秀雄「鶴果村風土記」(1983年)の小字地図に「北原山」「南原山」があり、通称名を記載した地図に「ネムリ沢」があることが判明した。鶴果町の神明宮の東450材付近に、谷の入口が

やま と か つ ら ぎ さん  
 大和葛城山から竹内峠へ  
 たけの うち と う げ

## 大和葛城

磯部 純

奈良盆地の西に連なる金剛葛城山系の中では、二上山と金剛山に登ったことがあるが、その間にある葛城山へは登っていなかった。「KS歩こう会」の2月例会で葛城山から竹内峠までを縦走すると聞き、湖北の山への計画をとりやめ、参加することにした。

2月の第三週に入って冬型気圧配置が強まり、近畿北部は連日雪の日が続いていた。樹水で知られている葛城山でも相当積もっていると予想され、雪と寒さ対策を万全にして家を出た。近鉄線を三度乗り継いで御所駅に着いたのは9時20分。総勢14名の参加者であった。

葛城山へ御所駅から登ると聞いたとき、

滝と違って、水が幾筋にも分かれ落ちていた。

ここから谷を離れ、左の檜林を登る。道はその林のなかを大廻りでゆるく登っていく。うっすらと雪が積もっていて、凍結した箇所も始めている。追い抜いた別のグループは大ききにもアイゼンを

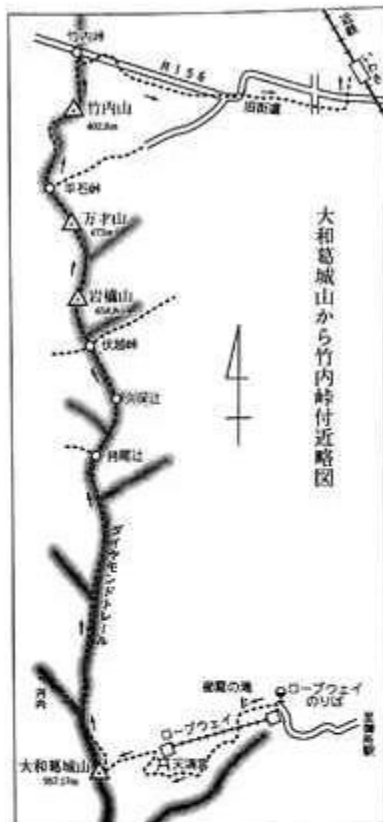


滝羅の滝

着けていた。再び谷へ戻り、谷の源頭へ出ると、このあたりは山頂に近く遊歩道が分岐している。右手のササの斜面を登り切ると葛城山天満宮。大日大聖不動明王をまつた宮で、社の傍らには「役ノ行者神変大菩薩」と彫られた石柱が立っていた。

広い道を山頂へと向かう。道には雪が残っていたが、こんなにも少ない雪の量では、かの有名な樹水など見ることができないのは当然だろう。山頂下にある売店を横目で見ながら山頂へ登ると、360度の大展望が待っていた。

南には金剛山が間近にそびえ立ち、そ



大和葛城山から竹内峠付近略図

大和葛城山山頂の大きな標識



の滝羅ノ滝は弘法大師が天竺てんじくのクジラの滝によく似ていることから、「供尸羅の滝」と名付けたが、領主永井信濃守が「供に屍」の字を嫌い、「供尸」を「備」に改めたものだという。別名、尼が滝または不動滝とも呼ばれ、滝に浴すると不動明王の功德により脳病に効くと言われている。さらに滝を捲いて谷を上流に登ると、20分程で行者滝に出会う。滝羅ノ

の左奥に白く雪をかぶった大台の山々が青い空に浮かんでいる。目を東へ転ずると、先月歩いた音羽三山と竜門岳が横たわり、その後ろに三峰山・高見山が天を突いている。さらに左に見える山は鳥見山・戒場山のいずれだろうか。眼下の奈良盆地には歌榜山・天香久山・耳成山の大和三山があたかも鳥のように黒く浮かんでいる。西方下には富田の盆地が広がっていて、いつまで見ても飽きることはない雄大な眺めだった。

広い山頂のいちばん高い所に丸太が1列に並び、葛城山の子が大きく書かれている。その南に泥にまみれた三角点標石が立っていた。残っている保護石は東と南に二個。

葛城山三角点は点名篠峰山、2等三角点である。そばの看板には「北緯34度27分10秒353 東経135度41分6秒497 標高959.177 昭和60年(1985年)設置」と書かれていた。

寒さが厳しく、山頂で腰を下ろす気にはなれず、写真を撮ったのち、すぐ下の休憩所までくだって昼食をとる。空は晴れているものの、風は身を切るように冷たい。

冬の山での食事は温かいものが最高。粥粥はおいしく食べたが、それだけでは足らずに、カップラーメンをつくらうとお湯を注いだら、気温が低くすぎてすぐに湯が冷め、メンがほぐれない。ガスバーナーを持ってきた人に借り、温めてからやっとならありつけた。もちろん、ビールは寒すぎて飲む気にはならず、熱燗をもらい口を潤す。

別のテールではバーナーでの酒の燗。バーナーはそのためだけに担いできたものらしい。カップに溢れんばかり注がれたものを、グイと飲んでいた酒豪もいたが、この寒さでは酔いはどこかにいってしまっただろう。手袋を外すと手がしびれるように痛い。

坐っていると寒さが身にこたえ、出発の号令が出ていないのに早や片付けが始まり、ザックを背負う者まで現れた。ついに、見るに見かねたのかリーダーが発の合図を出す。道を少し戻り、アンテナ塔の脇から縦走路へと踏み込む。

小さなピークを一つ越え、河内への道を左に見て下りにかかる。階段がつくられている。雪と氷がその階段道をおおっていて実に滑りやすい。皆は滑らないよ

うにと慎重にくだって行く。そんな歩きもしばらくの間で、葛城山が遠くなるにつれ、道に雪はなくなりました。

葛城山から二上山へ至る尾根縦走路は「ダイヤモンドトレール」と名付けられ、登り下りに階段が置かれ整備されている。道の分岐には道標も完備し、地図がなくても迷うことはない。最初のピークを越えると両側は樹林に変わり、道は尾根、山腹を巻きながら北へとびている。周囲の展望は全くなく、枝打ちされていない樹林、よく手入れされている樹林、台風で倒され、そのまま放置されている樹林と、樹林だけが目につく。持尾の辻で小休止。ここを峠と書いている本もあるが、平坦な樹林のなかの広場だった。ここまで来る間、葛城山へ向かう何人かのグループに出会ったが、この辻でも一人歩きの中年の人に葛城山への道を聞かれた。道標が完備しているもの、こんな時間からひとり山頂へ向かって大丈夫かと人ごとながら心配になる。時間はすでに13時30分を過ぎていた。

ゆるい尾根をくだり、道が大きく左へ廻り込むと左斜面は伐採地となる。ここへ来た時、この場所へ来るのを待ってい

写真をパチリ。

岩橋山をくだると初めて西方の展望が開ける。目の下には富田林の盆地が広がっていた。地形図を見ると、平石峠への下りの道脇に三角点の印があった。「このあたりに三角点があるはず」と言うので、すかさず後ろを歩いてきた桃山の彼女が「三角点の印」の声を上げる。少し声を出すのが遅ければ見逃すところだった。



岩橋山の欠けた三角点と「ダイヤモンドトレール」の標識

その三角点は4等三角点で点名は万才山。

予定では平石峠からくだると言っていたはずだが、いざ峠に着くとリーダーはこのままくだりたくはなさそう。何だかんだと意見が出た後、最終的にはリーダー一任になり、竹内峠まで足をのぼすことに決定。ここからくだれると思っていたのに、おまけの登りは予想以上に辛い。こう思ったのは自分一人だけだったのか。他の人は平気な顔で登って行く。

平石峠と竹内峠の間には三角点がある。竹内峠まで歩くのならこの三角点を見なくてはと地図を確認し、ここだと思ったピークまで登るが、紅白のポールはあったが三角点はない。おかしいと思いつつアンテナ塔への道と分かれ、竹内峠への小道を進むと、道の左側に三角点があるではないか。地形図を再度見るが、三角点は道の右側に印されている。混乱する頭を整理して、今度は地形から位置を讀んでみると、どうやら三角点の位置は正しいようなので、地形図に引かれた道の位置が違っていたと判断するしかなかった。この三角点峰は竹内山、標高402。

たかのように日が差してきた。薄暗い植林帯の歩きから、いっぺんに開放されたような気がした。

次の登りで列は停滞。長靴ばきの長老が膝上の筋肉痙攣を起こしたのだ。早速、エアサロンプスを吹きつけて応急処置をする。そういえば、前回も彼が痙攣を起こし、「トレーニング不足だから、歩かストレッッチ運動をしなくては駄目ですよ」と言ったのだが、この様子では全くやっとならなかったに違いない。痙攣が治った後は先頭を歩いてもらったが、足を痛めたとは思えないほどに飛ばす飛ばす。信じられないほどの速さだった。

伏越峠まで来れば岩橋山まで一登り。標高差1000以上の急登は、足にこないほうがおかしい。と言うのは後ろからついていった年寄り連中で、若い人たちがフルマラソンを走る彼などは、アツと言う間に姿が見えなくなりました。

岩橋山、点名は葛城山Iで3等三角点である。標石は南向きだが10度西へ振っている。頭は少しずつ欠けており、特に南東の角の欠けが大きい。すぐそばにダイヤモンドトレールと書かれた石板が仰々しく置かれていた。この三角点でも記念

8分の4等三角点であった。

谷に付けられた道をくだると竹内峠。この峠を通る道が飯奈街道で、ダンプや車がひっきりなしに流れている。この峠からさらに二上山を越える元気はなく、旧街道を東へ歩き、近鉄磐城駅へ向かうことにした。

旧街道は推古天皇の御世、難波と飛鳥京の間に設けられたのが国最初の官道で、竹内街道という名で知られている。道の両側には由緒ゆかしく家構えの町並が見受けられたが、先を歩く人々はだれもその町並を見ようとはしない。仕方なく、ただ、ひたすら後を追って磐城駅へと歩いたが、思えば思うほど、何か損をしたような気がしてならなかった。

(平成12年2月19日歩く)

#### A コースタイム

近鉄御所駅(バス12分) 葛城ロープウェイのりば(10分) 樺羅ノ滝(15分) 行者滝(55分) 天神ノ森(15分) 葛城山(1時間30分) 伏越峠(10分) 岩橋山(30分) 平石峠(50分) 竹内峠(1時間) 近鉄磐城駅

△地形図V2万5千 御所・大和高田

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第29回)

## 平成五年の北海道の山旅

坂井久光

平成5年4月15日、峰浜の海別保養センターを朝5時に出発し、遠音別岳(1330m)へ向かった。宇登呂への334号線を走り、真鯉の先で無線塔が見えるオベケ川手前の林道へ右折した。242号三角点の南の林道終点で駐車。398号の南、エゾジカやヒグマの歩いた跡がある支尾根に取りついて雪の斜面を登った。途中エゾ松林のなかでスノーモビルの跡があった。消えては出合いしていたが、森林限界の雪原で再び出合って三台の跡がドーム状の山頂へ向かっていった。私はこの山へは今回無理して登る予定でもなく、地図も持参していなかったが、山崎氏の発意と協力で登頂できた。

到着は昼頃で、曇っていて展望はよくなかったが、海別岳や弁火嶺はよく見えた。夏ならばネマガリダケやハイマツのバリエードで、一日で登るのはとても無理な山である。2人で万歳三唱して少憩後下山。雪原で昼食をとってオベケ川沿いにくだって林道に出たが、営林署の話し通りが三ヶ所落ち、ガケ崩れも二ヶ所あって渡渉を繰り返して駐車道に戻った。先にスキーでくだり、迎えに来ると言っていた山崎氏の車は見えない。不安になりやむなく2ヶ所程林道をくだって園道に出たが会えない。30分も待ったが、何かの手違いだろうと思い、ヒッチしてセンターに戻った。すると、5分前に山崎氏から

電話があった。たそうで、崖下の林道ですと待っていたことがわかった。勝手に帰ったことが悔まれたが、あのと遠音別岳より海別岳・斜里岳を望む



恵も浮ばなくて不安だった。

16日、海別保養センターの所長斎藤氏に礼を述べて別れ、斜里町で食料を買い、営林署に行つて礼をした。午後、江別山(713m)へ。スカイラインの入口に駐車して谷筋を登った。途中車道を横切つて南東から急斜面を登って山頂へ着いた。快晴で海別岳・斜里岳・平岳がよく見えた。山頂付近はハイマツらしく雪の中に切口が見えた所もあった。往路を下山して斜里岳の清岳荘へ向かった。途中の林道分岐まで除雪してあったが、それより奥はしていない。仕方なくそこへ駐車してヘッドランプを点け、夜中の道を4ヶ所程ラッセルして19時40分に到着し

た。崩雪で小屋の入口に1m余の雪があり、二階から入った。ストーブを燃やして夕食後就寝。

17日、6時40分出発。急斜面をザイルを結んで登り、山頂直下のドームまで行ったが、急斜と強風で帰りが心配で斜里岳登頂をあきらめて下山した。この日は川湯温泉パークホテルに泊まった。

18日、摩周湖の第一展望台へ行き駐車。エゾジカの足跡が乱れる湖岸の尾根を登り、14時にカムイヌプリ(摩周岳)へ登頂。ここにもスノーモビルの走った跡があった。霧の摩周湖は曇天ながらよく見渡せ、噴火口も見えた。下山後、野中温泉(阿寒温泉)へ行つて泊まった。山旅の疲れをいやし、夕食後は碁や将棋を楽しんだ。

19日は9時頃出発。足寄町経由狩勝峠を越え、途中新得スキー場や富良野スキー場に立ち寄り、国民宿舎芦別温泉に行つて泊まった。一流ホテル顔負けの豪華設備で、山男のわれわれが食堂に入るのも気が引けるありません。よい温泉で各種の浴槽があり、クアハウス並みであったが、その後赤字で休業中とか。

20日、早朝出発し、小樽港10時発のフェ

リーで帰京した。

平成5年7月7日、一等三角点研究会会員の山形氏と山崎氏と再びフェリーで小樽に上陸。高速道を走って中札内村の紅露氏(中札内山岳会)を訪ねた。カムエク岳の状況聞き、食料を仕入れて出発。七の沢出合のゲートに12時5分到着。融雪が多いためか、札内川の水量は前回(昭和63年)より多い。腰までの渡渉を数回して、途中で札幌の登山者3人と会った。「カールにヒグマが三頭いて登頂をあきらめ下山した」とのことだった。14時45分に八の沢出合に到着し、テントを張って夕食後シュラフに入った。

8日、4時起床。朝食後、4時48分出発。三俣へ6時すぎに着いた。谷筋にルートをとって、少し上流で沢沿いの小沢のルートを登ってカールの下部から本流の雪渓を登った。途中地下足袋から登山靴に履き替え、シラネアオイの紫の花が咲く美しい夏道を登ってカールに出た。笛とラッパを吹き鳴らしての登りで、ヒグマの姿は見えずひと安心。このところ北海道は晴天続きだったとかで本日も晴天だ。雪山の経験がない山形氏を山崎氏がサポートして急坂を登って稜線に出て、急なや

せ尾根を登った。日当りのよい所はハイマツも出ていてアオノツガザクラやチンマキンバイ・エゾフウロ等の高山植物が咲いていた。11時15分に山頂の1等三角点(1970m)へ。私は二度目の登頂だ。3人で万歳三唱。360度の展望を楽しんだ。築古岳や幌尻岳も、日高の山々が一望できた。12時に出発し、下山は沢沿いにした。難所は雪渓となっていたので、楽に下山でき、八の沢へ17時すぎに着いた。帰路の渡渉は水量が多くて私は危うく流されそうになった。七の沢出合から山道を通り、車道に下山した時は暮れかかっていた。

9日、羅臼で食料を仕入れ、知床岳を目指して相泊へ向かった。山崎氏が山形氏に、「早かったら弁火嶺の登山口のダム下へ行って登れたら登ろう」と言つて山形氏と別れた。私たち2人は鎖路で時間をとられ、直接相泊へ急いだ。山形氏は夕方になつても来なかった。露天風呂に入り、駐車場でテントを張った。

10日、早朝出発して蘆石の海中露天風呂に入ってから弁火嶺のソウキップカオマナイ川の林道終点へ向かった。途中の離合点に山形氏のメモがあり、「7時に



山にて「点の記」を書いた。山形氏のキャンプに到着した。「点の記」には幅1寸の道ありとあるが、ダムから渡渉し

て小谷の出合へ。山形氏の正確な読図で出合から踏み跡らしい小沢を登って行く道らしい所に出た。そこからはずつと沢筋に登路が続き、コルに10時半に到着。ここはシラカバ林で下草が芝生のように、エゾフウロが咲き乱れており、ロマンチックでメルヘン的な、昼寝でもしたいような場所だった。ここで小憩後、東側は断崖の岩尾根となり、エゾツツジがハイマツの下で美しく咲いていた。シラカバやハイマツの急斜面を登って弁蝸嶺(836m)の山頂へ。檜の材や1等三角点を山形氏が見つけ、3人で万歳三唱。ゆっくり昼食しながら展望を楽しんだ。快晴の下、360度の大展望で、今まで登った周辺の1等三角点の山々がみな見えたのは幸運だった。往路下山したが、川沿

いにヒグマの足跡があって用心したが、無事駐車地へ13時30分に戻った。

11日、4時出発。清岳荘に5時到着し、斜里岳へ向かい、8時35分登頂した。展望絶佳。エゾキンバイ・ヒメイツツジ・コケモモ・チングルマ等が咲き乱れており、山崎氏は写真に夢中だった。清里温泉へ14時到着。山形氏の到着を待ってから一泊。清里高校OBの野球チームの差し入で夕食は豪華版、ビールは飲み放題だった。

12日、4時47分出発。サマツケヌプリ山(1063m)へ向かった。この山は「点の記」には道なしとあり、ネマガリダケのやぶ漕ぎを覚悟していたが、案ずるより生むがやすしの諺の通り案に登れた。この山は斜里川・忠類川・標津川の三川の源頭である。長い斜里川沿いの舗装林道を20数分走り、登山口と見定めたブル道の分岐(赤テープ)に6時30分着いた。ブル道をたどって斜里川を渡って支尾根に出て、ブル道を奥へ稜線沿いに進んだ。山頂直下近くで稜線に出てハイマツやネマガリダケのやぶをくぐって切り開きに出て、9時に山頂へ着いた。3人で万歳三唱。曇り空で展望はよくな

かったが、海別岳・斜里岳・弁蝸嶺・江嵩山・藻琴山が見えた。駐車場に昼すぎに戻り、ここで山形氏と別れた。明朝、芽室小屋で会うことにして私たちは足寄公園で泊まった。

13日朝、ラジオが奥尻島で大地震が起ったと報じたが、こちらは全く異状なかった。芽室小屋は8時に着いた。小雨が降っていて、私は芽室山は一度登ったことがあるので小屋で休養。午後2人が下山して、近くの新嵐山荘で泊まった。

14日、山崎氏とは15日の夕方に小樽港で再会の約束で別れた。山形氏の車で帯広岳へ向かったが、林道も茂り廃道になっていたで引き返し、浦川に向かい、静内温泉で入浴後キャンプ場で泊まった。

15日、ベラリ山(719m)へ。北の豊畑からベラリ川林道に入り、途中で水害による土砂崩れのため駐車。小雨だったが荒れた林道を登って山の神の広場とひと休みした。ブル道をつめ、クリンソウが咲いている踏み跡をたどってシラカバ林の山頂へ。天測点があり2人で万歳三唱。これで521番目である。

17日、フェリーで帰京。(次号へつづく)  
(文中の太字は今回登った1等三角点の山を示す。)

## 周山街道から

ぼだいのたき さわやま たかがみね  
菩提滝・沢山から鷹峯

コースタイム JR京都駅(バス53分)→善徳道(30分)→菩提滝(35分)→沢ノ池(35分)→沢山(25分)→鷹峯(バス53分) 京都駅(徒歩約12分)

## 中村敏文

分分かり、町行政と山間交通の要所である。

### ② 菩提滝(北区鷹峯・西菩提)

菩提滝へは菩提道バス停で下車するほうが早くて便利だが、北山杉の磨き丸太で知られる清滝川溪谷沿いの街村、中川で降りる。

一条(周山)街道が村の中央を貫いているので中川と呼ばれ、全村城が梅ヶ畑・棋尾の西明寺領となり、中世から梅畑御供人として諸税諸役免除地であった。明治六年の戸数一〇六は山村では大きいほうで、村の主な産業である林業は、杉一万三千、松五千五百、薪五千束を京阪地

区へ搬出していた。杉は「北山丸太と称し木理極めて美」と床柱の最高品と評価される。

中川学校前バス停を挟んで小学校と氏神の中川八幡宮、街道沿いに一列に並んだ百戸余りの家々には杉丸太が立てかけられている。中川バス停の近くに浄土宗蓮寺があって、集落の南はずれには、東海自然歩道の中継地菩提道バス停がある。

冬季には丸太を磨いている林業の街村風景を見られるが、夏場では川端康成の「古都」に出てくるこの光景はない。

菩提道バス停から左へ分岐して北区と右京区の境を分ける菩提道が通じる。菩提川沿いの林道は東海自然歩道となり、バス停から30分も歩くと右下へくだる菩提滝への指標がある。



菩提滝

① 周山街道(京都市右京区・北区) 京都駅発の周山街道へのJRバスは梅ノ尾までは回数が多く便利だが、周山までは1時間に一本と少なく、9時20分発のバスは10時13分に菩提道、15分には山城川バス停に到着する。

周山街道は現在国道162号線の一部分となっているが、右京区の妙心寺北側の福王寺、仁和寺への三宝寺バス停は乗降客が多い。御経坂峠を越えると三尾の名で有名な、高雄・楨ノ尾・梅ノ尾といった観光地。清滝川沿いに北区へ入ると北山杉で名高い中川も近い。

京北町周山へは北区から笠トンネルを抜けて行く。京都駅からバスで1時間30

階段をくだり河原から飛び石伝いに菩提川を渡ると、滝の真正面に立つ。岸壁を二分して落下する一筋の滝を見上げると、落差10メートルというがそれよりも高く見える。垂直な岸壁には灌木が生い茂り、泡立つ滝と緑を映す水が美しい。行場跡や浮世の匂いを残さない菩提滝は、神秘的な姿を見せぬ神の鎮座地に見える。宗教にゆかりある名称だが、菩提滝の由緒は不詳で、周辺に行場や寺跡もない。近世の『扶桑京華志』に「菩提滝、千束



菩提滝・沢ノ池  
沢山から鷹峯付近略図

村普明庵の北に在り」と見え、『山城名跡巡行志』には「鷹峰（第三峯）より当村に至る路傍（鷹峰乾三十町許）左に在り、此所を中河谷と云う」とある。

③ 沢ノ池（右京区鳴滝、沢）

滝から菩提道へ上がり、20分も歩くと沢ノ池への林道が右手へ分岐する。北山の谷筋を右下に見て、それより林道を20分ほど上がると前方が開ける。海拔3700に水を湛えた南北500メートル、周囲1500メートルの細長い四辺形の沢ノ池がある。周囲の低い山々の水を集めた溜池で、緑一色の山影を映して静まっております。人里を離れた女性的な優しい自然の雰囲気がいよい。池の東岸へおりて1時間間の予定で昼食をとり、自由に散策する。キャンプのテントが点々と張られ行楽の人も多く、釣り上げた40センチのブラックバスを見せてくれた。最近

バスがよく釣れると話していたが、琵琶湖でも問題視されている。小さな山の池にバスが繁殖すればかならず問題はおきる。自然環境の保全、動物植物愛護の美名の裏も思考するときであろう。

④ 沢山（右京区鳴滝、沢）

沢ノ池から西方、福ヶ谷沿いにくれば周山街道三尾の各バス停へ。南の方向の鳴滝から三宝寺川沿いにくれば三宝寺バス停へ。いずれも40分前後でくだれ、自然がいっぱいのハイキングコースである。沢ノ池東岸の周遊道から少し南の山手へ上がると、沢山南端の尾根へ出る。灌木を分け、幅1メートル前後の尾根道がゆるい勾配で、高度を上げて行く。30分近く尾根歩きを楽しむと、樹木に囲まれた沢山の山頂に着く。516メートルの3等三角点があり、十数人は坐れるように切り開かれた狭い平地にある。山頂から北方への道は二本あり、右側の山道を北へくだる。幅50メートル前後の細い道だが、踏み跡は尾根の樹木を分けてはつきりしている。数100メートル歩いて分岐を右手へ入り、東へ向かうと上ノ水峠であ

る。峠から右の東海自然歩道へ入ると、やがて右手下方に坂尻の民家が見える。行き止まると右へ折れ、舗装された坂道をくだる。橋を渡ると吉兆谷の分岐で、道標の示す幅4メートルの車道をくだると集落へ



沢ノ池

出る。農林橋を過ぎ、旧長坂口を左に見て歩き、右に折れて坂道を上がると光悦寺が右手にある。左方向に京見峠を眺めて東へ歩くと源光庵前バス停に着くが、光悦寺の西側を南へくだって「しょうざん」へ立ち寄る。庭園を拝観するなどしてしばらく休憩する。

「しょうざん」上手の土天井バス停からのバスは30、40分で京都駅に着く。



沢山三角点

山の本紹介

草川啓三著

「芦生の森を歩く」

発行 青山舎  
〒520-0047  
大津市萬川細川町234  
A5判・定価2000円

「芦生の森はいつ歩いて、私の心をとときめかせた。緑の陰を落とし込む流れには光の模様ゆらめき、林床の苔に生まれた水滴は宝石のように輝いていた。樹冠から差し込むたった一筋の光から、私はどれだけの驚きと刺激を受けたことだろうか。」  
（はじめに）より

（問い合わせ・申し込み先）

〒525-0066  
草津市矢橋町1475  
草川啓三まで  
TEL 075(562)3227  
・自費出版、書店の店頭にはありません。

# チン電にゆられて住吉大社へ

松永恵一

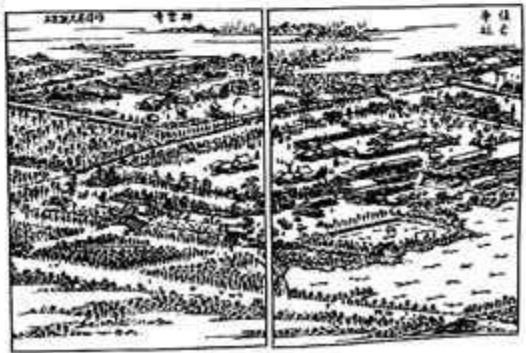
## 阪堺電気軌道上町線

沿線の人は親しみを込めて「チン電」と呼ぶ。チンチン！と発車して、人々の暮らした速度。車窓からは、四季折々の風景、街の匂いが入ってくる。明治三年（1900）、馬車がレールの上を走る大阪馬車鉄道として開通。明治四二年に電車の運転を開始した。路面電車は天王寺駅前から住吉公園を16分で結ぶ。通天閣に見送られ、大阪情緒の漂う天王寺を出発。ちよっとした旅気分。一つの停留場が阿倍野。古代の阿倍一族に由来する。右手にオージスコンピュータ学院専門学校を見ると町屋の軒をかすめるように家並の中に吸い込まれていく。

松虫。松虫の鳴き声を折り込んで友への愛情を切々と訴える謡曲「松虫」の地。後鳥羽上皇に仕えた薄幸の美女松虫の咽、晩年の小野小町の伝説が松虫塚に残る。レンガ敷きの「歴史の散歩道」が静かな住宅地の中に点々と続く。

東天下茶屋。天下茶屋は豊臣秀吉が住吉大社参詣の途中立ち寄り、茶の湯を楽しんだ所。安倍晴明神社は「葛の葉子別れ」の伝説や、花山天皇の退位を予見したことで広く知られる陰陽師安倍晴明をまつる。天空を見て、國家の将来を占い、動物や霊とも語り合うことができたという。上町線は、蟻の熊野詣でで賑わった熊野街道に沿って走る。熊野九十五王子の第二王子、阿倍王子神社が残る。

住吉本社【摂津名所図会】



北島。北島公園は、南北朝時代後醍醐天皇に忠節を尽くし、弱冠21歳で散った「花将軍」北島顯家をまつる。阿倍野の地を訪ねた当時18歳の顯家の妻は、歌を詠み草の上に倒れ伏したと伝える。なき人の かたみの野辺の 草枕 夢も昔の 袖の白露 姫松。町の雰囲気ガラリと変わる。車窓には高級住宅街帝塚山が広がる。帝塚山三丁目。前方後円墳の帝塚山古

墳、聖徳太子が池に棲む魔物を鎮めるために曼陀羅経をあげたという桜の名所万代池、大阪府公文書館がある。

神ノ木。宝泉寺は、講談「幽霊の片袖」発祥の寺。十三仏の石仏は必見。

住吉。大海神社は、海幸・山幸に出てくる海の神・豊玉彦と娘の豊玉姫をまつる。玉の井に潮満珠があるという。生根神社は「奥の天神」とも呼ばれる。本殿は淀君の寄道。桃山時代の華麗な形式を残す。

住吉公園。明治六年（1873）太政官布告で設置された最古の都市公園。もと住吉大社の馬場であった。中央部を貫く石畳の路は潮掛大道。浜で清められた御輿が通る参道で黒松の名勝だった所。藤原定家は詠んだ。

住の江の 浪にうつろふ 松の雪  
ふらずは何を 花とかもみむ  
東人口すくに芭蕉の句碑がある。  
升買て 分別かは流 月見可難  
芭蕉は元禄七年（1694）9月、住吉大社の新敷祭に参詣、境内に立つ宝の市での吟詠。国道26号線沿いに再建された高燈籠は、鎌倉末期、住吉浦の漁民らが住吉大社への献灯と航海の安全を祈って建てたといわれるわが国最古の灯台。

## 住吉和歌神

住吉大社は上町台地の南端に位置する。遠く淡路島と六甲の山々に挟まれた明石海峡を望む遠浅の浜は、風光明媚な地として「万葉集」や「古今和歌集」等に詠まれた。「住吉名勝図会」や「摂津名所図会」は潮干狩りの様子を描く。住吉の御社は縁の場として親しまれてきた。

住吉の 粉浜の規 開けも見ず  
隠のみやも 恋ひ渡りなむ  
（よみひと未詳「万葉集」巻六九九）

住吉明神は和歌山の玉津島明神、柿本人麻呂とともに和歌三神と呼ばれた。「伊勢物語」には、住吉の神と天皇との和歌の応答が記されている。

貴、みかどが、住吉に行幸した時の歌。  
我見ても 久しくなりぬ 住吉の  
岸の姫松 いくよへぬらむ  
おほん神（大御神）が姿をあらわして、むつまじしと 君は白浪 瑞垣の  
久しき世より いはひそめてき  
井原西鶴は貞享元年（1684）6月5日大矢数橋詣を興業し、一昼夜で二万三千五百句を詠むという空前絶後の大記録をうち立てた。なんと一句四砂弱。神城をもつて 息の根とめむ 大矢数

## 住吉踊

「すみよーしさあまの、イヤホエー」の掛け声で踊る「浪花名物・住吉踊」は、五穀豊穡・天下泰平・庶民繁栄を祈る。住吉大社に古くから伝わり、御田植神事などで披露される素朴な踊りは、中古以来、住吉神宮寺の社僧によって諸国に伝えられた。

5人が一つの傘の中で踊るのは天地五行をかたどり、着附に紅、白、紫、黄、黒の五色の色彩を用い、傘は即ち天蓋で天々下に住む我人も心を本とする意。踊りの手振りも4人合わせて心の字の形に踊る。音頭の掛け声「イヤホエ」は、「陰陽雑俎」の転訛したものだといふ。

えー 住吉様の イヤホエ！  
摂津なにわの一の宮  
その名も高き住吉の  
神の御前の神踊り  
天下泰平、国土安全  
五穀豊穡、民栄え  
治まる御代のしるしとて  
心ひとつに働けば  
末は住吉、平楽や  
かねてぞ植えし住吉の  
岸の姫松、目出度さよ





住吉夏祭り【摂津名所図会】

コース概観

住吉っさん。大阪人は親しみを込めて呼ぶ。大勢の初詣客でにぎわう住吉大社は、摂津の総氏神、一の宮として崇敬を受ける。しっとりとした趣に包まれた境内には、『記紀』に鎮座由来を載せる、大和王権とかかわりの深い航海の守護神たちが鎮座する。天王寺からチンチン電車に乗り、ゆっくりとしたスピードで、新年のお祈りに出かけてみた。

住吉公園駅下車。鳥居をくぐると広大な空間が広がり、しばし都会の喧騒を忘れさせてくれる。海運業者を中心とした商人や庶民から奉納された石燈籠がずらりと並ぶ。北広場に佐々木志頭磨燈籠がある。志頭磨は江戸初期の書家で小野道風、弘法大師も及ぶまいと巻間伝えられた。ぜひ一見されたい。燈籠の趣陶器燈籠は、木村兼葎堂など大勢の文人に書を教えた陶齊の15歳の書。池大雅燈籠は反橋東鳥居前に、頼山陽燈籠は北参道東北入西側にある。石燈籠の数なら奈良の春日大社が第一であるが、大きさ、形の見事さ、筆のよさといった点では住吉が日本一だといえる。

長原高廻り2号墳から出土した舟形埴輪を象った万葉歌碑がある。当時の地形図と十七首の歌が刻まれている。

夕さらば 潮満ち来なむ 住吉の 浅鹿の浦に 玉藻刈りなむ (弓削皇子「万葉集」巻一21)

反橋は住吉の象徴として名高く太鼓橋とも呼ばれる。朱塗りの半円形の欄干が美しい。長さ約20m、幅5・5m、高さ3・6mで、現在の石の橋脚は慶長年間(1603)に淀君が奉納したと伝えられる。反橋の

南に川端康成の文学碑がある。

反橋は上がるよりも、おりる方がこはいものです。私は母に抱かれておりました。

「反橋」より

川端康成

反橋を渡ると住吉鳥居が参拝者を迎える。住吉鳥居は四角柱の鳥居。四角なのは住吉の本社が四社だからといわれる。扁額(ひらか)の字は有精川宮(親上の筆である)。

本宮は四殿あり海に向かって西面する。奥から、第一本宮(底筒男命)、第二本宮(中筒男命)、第三本宮(表筒男命)の住吉大神が縦に並び(魚鱗の構え)、第四本宮(鳥長足姫命)神功皇后は第三本宮の南に並ぶ(鶴翼の構え)。

建築様式は「住吉造」と称せられ、丹塗・檜皮葺・直線型妻入式で、鋭く天を貫く千木と五本の四角堅魚木、板玉垣を巡らす古代の気迫に満ちた構えである。文化七年(1810)の造営で、国宝に指定されている。

神功皇后新羅御出兵の際、住吉大神の「吾が和魂をば大津の渾中倉の長峽(住吉の古名)に居さしむべし。便ち因りて往来う船を看さむ」というお告げがあり、田袋身宿禰をしてこの地に鎮祭せしめた

と伝える。田袋身宿禰の裔は「津守氏」を称して代々神主として奉仕した。以後、名神大社、正一位、摂津国一の宮として聞こえ高く、全国二千余に及ぶ住吉神社の総本宮として、国家鎮護の神・航海守護の神・和歌の神・軍の神として仰がれる。奈良時代、遣唐使はこの神に祈って出発するのが慣例であった。

御田植神事は、住吉大神を御鎮祭になった折、御饌田を定め長門の国から植女をお召しになられたのが始まりと伝える。6月14日、第一本宮で五穀豊穰の祭典が行われる。綿の花の造花で飾られた牛によって田が耕された後、植女によって苗の植え付けがなされる。田の中央の舞台



や周囲の畦では田舞い・棒打ち合戦・田植え踊り・住吉踊りなどの種々の芸能が演じられる。昭和五十四年に重要無形民俗文化財に指定された。斎場となる五月殿の棟木は紀伊国屋文左右衛門の蜜柑船の帆柱と伝えられる。

船玉神社は、海上の平安守護の神として造船・海運業者の崇敬が厚い。

住吉御文庫は、享保八年(1723)に京都、大阪、江戸の書店主二十名の発起で奉納建てられた蔵書館。大阪最古の図書館として知られる。

1月4日踏歌神事。7日白馬神事。13日御結鎮神事。

4月3日松苗神事。住吉の松の枯死するのを憂えた風流人らの間で松苗の奉納が起こったのが始まり。

5月上卯日卯之葉神事。住吉大社の鎮座した日が「卯年卯月、卯の日」と伝えられていることから、5月最初の卯の日に行われる。卯の花を玉串に、祭事を司る人々も卯の花を身につけて神事にのぞむ。23品種約500株が群れをな

して咲く卯の花苑が公開されるのは神事からわずか一週間だけ(無料、開苑10時~15時)。石舞台では、四天王寺舞楽の「雅亮(あきら)」の人々によって舞楽が奉納される。

7月31日~8月1日住吉祭(夏越大祓神事)。「お敷い」と呼ばれ、園中の大祓を行ってお祭り。

10月17日宝之市神事。神功皇后が三韓よりの貢物や百貨を、当地で庶民に頒けられたのが起こりとされ、わが国の市の初めとされている。

- ▲コースタイム▼
- 天王寺駅前(電車16分) 住吉公園
- ▲地形図▼ 2万5千1大阪西南部
- ▲費用▼
- 阪堺電気軌道上町線 大阪市内2000円
- 全線1日フリー乗車券 てくてくきっぷ
- スタラッチ式大人600円小児300円
- ▲問い合わせ先▼
- 阪堺電気軌道株式会社 営業課
- 06(6671) 3080
- 住吉大社 06(6672) 0753
- 駐車場(有料) 最初の1時間200円
- 以降1時間ごとに100円(8時~18時)

〈山のレポート〉  
十二支の山  
午年の山

生駒 登峰

今年のは午である。午、すなわち馬・駒で、山名としては駒ヶ岳がたくさんある。著名な山が多く、山名辞典を開いてみると、「駒。すなわち馬に関係のある地名で、山容が馬の形をしている。残雪が馬の形に残り、農事暦と関係する。神馬が住んでいた等の諸説があり、いずれも信仰登山の対象となっている。また独楽の形に見えることに由来する説もある。駒形山も同じで、駒の付く山名は多い」とある。

残雪が馬の形で残るのには、地肌が黒く残る黒駒もあり、有名な白馬岳は、代馬から白馬になり、白馬岳となって、呼び名の論争が行われたことがあった。山名辞典には駒ヶ岳が18山あるが、他の呼び名を併せ持つものを除くと15山になる。標高順に記してみると、以下の通りである。

| 名称       | 標高(㍎)   | 20万図 | 5万図   |
|----------|---------|------|-------|
| (1)白馬岳   | (2933㍎) | 富山   | 白馬岳   |
| (2)馬場山   | (1852㍎) | 長野   | 信濃池田  |
| (3)嶺ヶ馬場山 | (1827㍎) | 金沢   | 白川村   |
| (4)馬止根場  | (1773㍎) | 甲府   | 御岳野仙峽 |
| (5)相馬山   | (1411㍎) | 長野   | 榛名山   |
| (6)馬老山   | (1337㍎) | 日光   | 川治    |
| (7)陣馬山   | (1258㍎) | 長野   | 長野    |
| (8)馬背山   | (1198㍎) | 名寄   | 清津岳   |
| (9)相馬岳   | (1103㍎) | 長野   | 高岡    |
| (10)陣馬岳  | (1048㍎) | 弘前   | 青森西部  |
| (11)馬原山  | (1044㍎) | 長野   | 飯田    |
| (12)米馬岳  | (1041㍎) | 苫小牧  | 徳島別山  |
| (13)馬場山  | (1037㍎) | 秋田   | 太宰山   |
| (14)馬ヶ岳  | (985㍎)  | 山口   | 鹿野    |
| (15)馬見山  | (978㍎)  | 福岡   | 吉井    |
| (16)馬岳   | (971㍎)  | 福岡   | 国領    |
| (17)白馬山  | (957㍎)  | 和歌山  | 勸木    |
| (18)馬頭山  | (884㍎)  | 東京   | 五日市   |
| (19)馬山   | (857㍎)  | 東京   | 上野原   |
| (20)馬追山  | (826㍎)  | 新潟   | 京下    |
| (21)白馬石山 | (821㍎)  | 福島   | 川俣    |
| (22)馬ヶ森山 | (786㍎)  | 弘前   | 碓ヶ関   |
| (23)馬ヶ山  | (757㍎)  | 新潟   | 津川    |
| (24)馬ヶ神  | (689㍎)  | 八戸   | 十和田   |
| (25)馬岳   | (667㍎)  | 函館   | 六千軒   |

| 名称        | 標高(㍎)   | 20万図 | 5万図 |
|-----------|---------|------|-----|
| (1)駒ヶ岳    | (3760㍎) | 甲府   | 富士山 |
| (2)甲斐駒ヶ岳  | (2966㍎) | 甲府   | 市野瀬 |
| (3)木曾駒ヶ岳  | (2956㍎) | 飯田   | 赤穂  |
| (4)会津駒ヶ岳  | (2132㍎) | 日光   | 檜枝岐 |
| (5)越後駒ヶ岳  | (2003㍎) | 日光   | 八海山 |
| (6)駒ヶ岳    | (2002㍎) | 富山   | 黒部  |
| (7)駒ヶ岳    | (1685㍎) | 宇都宮  | 沼田  |
| (8)秋田駒ヶ岳  | (1637㍎) | 秋田   | 雲石  |
| (9)駒ヶ岳    | (1487㍎) | 富山   | 小滝  |
| (10)駒ヶ岳   | (1327㍎) | 横須賀  | 小田原 |
| (11)藤里駒ヶ岳 | (1158㍎) | 弘前   | 田代岳 |
| (12)渡島駒ヶ岳 | (1133㍎) | 室蘭   | 駒ヶ岳 |
| (13)駒ヶ岳   | (1130㍎) | 新庄   | 川尻  |
| (14)駒ヶ岳   | (1061㍎) | 福島   | 関   |
| (15)駒ヶ岳   | (777㍎)  | 村上   | 藤木  |

| 名称      | 標高(㍎)   | 20万図 | 5万図    |
|---------|---------|------|--------|
| (1)駒ヶ嶺  | (1416㍎) | 弘前   | 八甲田    |
| (2)駒ヶ岳  | (1144㍎) | 八戸   | 田子     |
| (3)駒形山  | (1072㍎) | 新潟   | 只見     |
| (4)駒頭山  | (940㍎)  | 秋田   | 新野     |
| (5)駒ヶ鼻  | (854㍎)  | 福島   | 常葉     |
| (6)駒ヶ森  | (783㍎)  | 盛岡   | 大槌     |
| (7)駒頭ノ森 | (665㍎)  | 秋田   | 五城目    |
| (8)駒ヶ山  | (653㍎)  | 新潟   | 玉蕨     |
| (9)駒ヶ山  | (652㍎)  | 延岡   | 日向     |
| (10)駒ヶ山 | (642㍎)  | 京都大阪 | 京都大阪東北 |
| (11)駒ヶ岳 | (532㍎)  | 枝幸   | 敏音知    |
| (12)駒ヶ山 | (430㍎)  | 一関   | 水沢     |
| (13)駒ヶ峰 | (324㍎)  | 石巻   | 金華山    |

また峠としては、  
 (1)駒ヶ峠 (1153㍎) 大分 高森  
 (2)駒止峠 (1135㍎) 日光 針生  
 (3)駒ヶ峠 (370㍎) 鳥取 城崎  
 (4)駒止峠 (310㍎) 秋田 本荘  
 (5)駒ヶ峠 (150㍎) 唐津 唐津  
 等があり、いずれも馬の行動に関連して名付けられたと思われる。

次に馬の付く山もたくさんある。

| 名称       | 標高(㍎)  | 20万図 | 5万図  |
|----------|--------|------|------|
| (1)駒ヶ嶺   | (662㍎) | 福島   | 渡江   |
| (2)鞍馬山   | (570㍎) | 京都大阪 | 京都東北 |
| (3)馬ノ神山  | (549㍎) | 青森   | 青森西部 |
| (4)馬場山   | (532㍎) | 八戸   | 荒屋   |
| (5)馬門山   | (522㍎) | 青森   | 八甲田  |
| (6)馬乗山   | (500㍎) | 岡山丸亀 | 井原   |
| (7)馬立山   | (488㍎) | 新潟   | 喜多方  |
| (8)但馬岳   | (382㍎) | 長崎   | 佐世保  |
| (9)有馬富士  | (373㍎) | 京都大阪 | 三田   |
| (10)馬背山  | (299㍎) | 岡山丸亀 | 福山   |
| (11)馬追山  | (273㍎) | 札幌   | 夕張   |
| (12)馬頭山  | (236㍎) | 長崎   | 津生浦  |
| (13)高神馬山 | (224㍎) | 青森   | 青森西部 |
| (14)馬ヶ岳  | (211㍎) | 徳之島  | 龜津   |

次に峠では、  
 (1)馬ヶ峠 (1680㍎) 甲府 金峰山  
 (2)駒ヶ馬場峠 (964㍎) 長野 坂城  
 (3)馬ヶ峠 (958㍎) 飯田 萩原  
 (4)馬ヶ峠 (801㍎) 飯田 妻籠  
 (5)馬ヶ峠 (739㍎) 盛岡 大迫  
 (6)馬ヶ峠 (615㍎) 岐阜 龍郷白山  
 (7)馬ヶ峠 (399㍎) 岐阜 美濃

右記のようにたくさん出てきた。まだあるかも知れない。

馬は昔から軍事や農耕、運搬用として人間との関わりが深く、重要な動物だった。各地に牧場や飼育馬があり、その関連からも馬の付く山が多いようだ。十二支の中でも龍とともに多いほうである。これらの山のなかで、関西では生駒山・鞍馬山・有馬富士の名はなじみ深い。登山としては、和歌山の白馬山が知られている(山と溪谷社の泉別ガイド、和歌山県の山に記載)。

生駒山は、山麓に住む私にはとくになじみ深い。昔二頭の馬を放したことから生駒と名付けられたそうで、一等三角点も設置されている。しかし、今はケーブルカーで簡単に登れ、テレビの巨大なアンテナが林立し、遊園地の遊具に囲まれた標石を見るのは心寂しい。

前年に記述した十二支会では、第一回は白馬山。第二回は馬見山。第三回は馬乗山に登っている。

私も前記の山々はすでによくつかかっているが、今年も別の山を目指してみよう。

# 〈山のレポート〉 山中越の石仏群

綱本 逸雄

「歴史街道」「古道ウォーク」ブームで、いくつかのガイドブックが出版されている。その特徴の一つは石仏・石塔、道標を写真入りでよく採り上げていることだ。先だって東山の山中越の石仏を見に行った後、ふと思い出して、中庄谷直著「関西山越の古道(中)」(1995)の「山中越」を読んだ。というのも、書店によっては宗教・民俗コーナーに置かれて、専門書扱いされているくらいだから期待感があった。しかし、道標についてはいい説明があるが、石仏については調査不足の感を免れなかった。

山中越は、かつて京―近江間の主要路線として栄え、「太平記」にも「今道越」の名で登場する。旧山中道には石仏もいくつか残っている。その一つが西教寺門前の阿弥陀如来坐像である。総高2.43m・像高1.37m、舟形光背を負い定

印を結んだ厚肉彫りの大石仏(花崗岩製)だ。請花・敷茄子・反花を完備した蓮華座まで二石で彫成している。大津市教育委員会の説明板(1992)によると、市指定文化財で、旅人たちの一里塚とされ、「鎌倉時代末期の作風をよく伝えている。京都白川派の石工の作によると考えられる」とあり、中庄谷氏もほぼその通りに記している。

しかし、二十年以上前に佐野精一氏(「京の石仏」の著者)は室町時代の作風だと指摘していた。理由を聞いていないが、私が見ても光背の形などから室町期頃だと思う。つまり、鎌倉時代の舟形光背で上方の先端が突き出ているものは見かけないからである。

次に車の往来が激しいバイパスと旧山中道との分岐点に、一見して江戸期の作と見られる大宝篋印塔が立っている。

中庄谷氏は「立派な法篋印塔がある」と書くだけで素通りしている。「法篋印塔」という石仏用語はないが、添付の地図にもそう記している。

この石塔は総高3.04m、花崗岩製で、畑地の崖下にあり、基壇が半ば埋もれているが、西面に銘文がある。これも佐野

氏がすでに判読しており、鳩居堂六代目当主、熊谷蓮心(直慈)の子、七代目直孝が亡父の追慕と、旅する牛馬の道中安全を願って文久元年(1861)11月に建立したものである。

鳩居堂は寛文三年(1663)創業の薫香・墨筆を高いとする京の有名な老舗である。蓮心は山中越の急坂に轆轤牛馬を哀れんで、水飲み場や餌桶を設置したという。

「山科の歴史を歩く」(山科の歴史を知る会)によると、蓮心は社会奉仕に力を尽くした人物で、老衰し用済みの牛馬が殺されるのを見るに忍びず、山科区東野村に放牧場を設けた。また村民の窮乏を救ったり、洪水に悩まされている村を救った。安政六年(1859)七十八歳没。その恩を忘れないため、村人一同が明治二十一年に牛馬放生の表徳碑(同区東野、西雲寺門前)を建てた。約四万坪の大牧場はのち昭和二年(1927)、京都刑務所となる。

七代目直孝(1817-1875)は幕末の勤皇家として知られ、軍資金を供出した。岩倉具視の依頼で徳川方の勤静を探るなど奔走した人である。

さて、バイパスを京都方面へ50材ほど戻り、左側のガードレールが切れた所で石段をおりと再び旧道に出る。すぐ重ね石に出会う。中庄谷氏は「その上部に地藏尊が浮き彫りにされている」と紹介するだけで、前述の石塔と合わせてわずか三行の記述で済ませている。

実際は、二つ重ねた巨岩(総高3.50m、花崗岩)の上部の石に磨崖仏が四体(いずれも高さ約30cm)彫られている。

西南面に地藏坐像、東北面に阿弥陀如来坐像とさらに釈迦如来と薬師如来の坐像が追刻されている。風化がみられるが小仏ながら重量感があり、地藏と弥陀は鎌倉末期の作、あと二体は室町時代の作と佐野氏は推定している。

昔から西南面と東北面の岩角は京・近江の境界とされ、現在も府県境になっている。かつては境界石の役割を果たしていた。旧道を隔てた向かいの石標(鐘頭角柱、1.65×25×25cm)にも、「従是西南 山城国、従是東北 近江国」と刻まれている。

この磨崖仏は「観合地藏」と呼ばれ、昔、京都と近江の人が石の取り合いをして争ったあけく、京都側に地藏、近江側

に阿弥陀を刻み境界とすることで決着がついたという伝承がある。地藏と弥陀の組み合わせは、当時の浄土信仰を反映したもので、地藏は阿弥陀如来の住む極楽浄土への案内役を務める。

「山中越」の記述で物足りなさを感じたので、同書の「愛宕越」なども目を通してみた。しかし、オースドックスに愛宕詣りルートとその石仏を紹介するのではなく、世間であまり知られていない西国三十三番札所第二十一番穴太寺(亀岡市)への巡礼道を、石仏・道標を例証にしてコース案内しているだけである。

例えば、山頂の愛宕神社から、さらに月輪寺への分岐を過ぎ、「右に首無地藏への道を分ける。その辻に三体の石仏があり、その一体(注、地藏光背型道標で砂岩製)に『左 あなう道、右 たかを道』とはっきり刻んである」と述べるが、他の二体はふれない。

実は、同じ場所に「左野地藏」と呼ばれる一体がある。「五十丁教学院、地主伊勢津左野宗吉、五十軒内」の銘がある。左野地藏は道案内役を果たした町石で、地藏立像を刻み、伊勢国津の左野宗吉と

いう人物が愛宕参詣人の便宜を図って寄進したものだ。佐野精一氏が一の鳥居から表参道、山頂まで三十二体確認しているが、本来目的地の山頂の愛宕神社まで五十丁あったはずである。

だから、五十丁目の町石はもと愛宕社の前にあるべきだが、明治時代の神仏分離・廃仏毀釈で神前に置けるには具合が悪いので現在地に移されたと思われる。教学院というのは、江戸時代まで愛宕社の鳥居前にあった六つの寺坊の一つである(神仏分離前の神仏混淆時代は白雲寺と総称した)。

愛宕詣り、愛宕講に関わる石仏は表参道ルート上に多くあるのだが詳細はまた別の機会に譲りたい。

同書は他にも「小関越」で、たいいていの石造美術書に載る藤尾寂光寺弥陀磨崖仏(1240年作)が欠落していたり、「都名所図会」の現代語への誤訳とかがあることも付しておきたい。

## 〈山のレポート〉 山の地名を歩く① はじめに

西尾 寿一

地名辞典の源流として有名な「大日本地名辞書」を著した吉田東伍の地名分類では、まず地名を自然地名と文化地名に分割して、さらに地形・位置・形状・性質・天然の存在物類、人造の存在物類、氏族・部民などの称呼、人事・擬定の名称などから地名が起ると考えられた。

これに対して柳田國男は、自然地名・利用地名・記念地名と大きく三分類したうえで、さらにその土地の利用が進むと、上下・方位・大小・新古に再分類して分割していく。これを「分割地名」と呼んでいるが、地名のデータを集めて細かく分割分類することによって、その共通性からその土地の由来が判明するというのである。

全国の協力者から膨大な情報の提供を受けてそれを分類し、その地名の性格を

判断しうるネットワークをつくりあげたことの意味は大きい。これによって難解で理解不能と思われた地名が解説されていったのである。

また地名地理学の鏡味完二は地名の発生を語根型・民族型・時代型に三分類し、地名の発生年代を特定する「標準的化石地名」を提唱された。

これにより、地名の伝承的な横並び的解釈から、先史・古代・中世・近世・近代・現代を区分し、地名の科学的解明へ一歩進めることになった。

地名の発生年代を特定することは極めて重要であった。

地名の発生から漢字化・口伝転説・佳字化・語呂合わせなど、時代と共に全く意味のとれない地名へと発展してゆく過程は、時代区分と歴史的な変革期を確実にとらえておくことでしか、理解できないとの認識があるからである。

また「記紀」や「万葉集」、その他の古文獻からの模写・転記などの際に生じる誤写なども、当時の筆記者に絶対にならないとはいえないのであり、事実いくつかが

の誤記の実例が発見されている。地名が発生期からそのままの姿で生き残るのは極めてまれなのである。

これを受けて大和の地名学者、池田末則は、地名の時代差を明らかにする意味から、古代・中世・近世・近代などの分類をしたうえで、例えば古代地名では「冠号・国号・冠辞・歌枕・開拓・田制・部制・万葉・条里・遺跡・避諱(ひき)・姓氏」などに分割していく。

近世・近代では「形状・地質・植物・交通・交易・移動・伝播・方位・民俗・職業・仏跡・宗教・井泉・Amn地名」などのほかに、観光・スポーツ・遊技・ゲームなども加わってくる。

古代に生まれていながら近代・現代には地名のみが残っている場合もあれば、すでに失なわれて過去形になったものもある。しかし昔のまま地名と現場が現役のものも少なくない。まさに地名は考古学の遺物のようなものだ。

古い地名ばかりではない。現代もなお地名は続々と生み出されているのである。その意味では地名のデータベース化は必須なのだが、あまり進んでいない。地名

は古い衣類のように惜しまれることなく捨てられてゆくが、地名の本当の価値に気づかねばならない。

山岳関係の地名は、時代区分としては明治の文明開化を境に二分される。古代から存在する社会的・生活基盤としての山岳地名と、明治以後の登山活動を中心とする新地名とがある。

前者は全国の土地台帳に記録されている古い伝統的な社会的地名であるのに対し、後者は登山のために必要な地名であった。両者には全く異なる目的があり、特に後者は既存の社会的地名の中から有効と思われる地名が採択されたが、それでもなお残る空白部分には新地名が付され、また既存の地名がある場合でもその上に新感覚の地名が付され、これが流通し

た。

山岳地名のなかには既存の社会的地名を基盤にしながらも、カナ文字・外国語・新造語などが氾濫することになった。

地名はできるかぎり既存のものを利用すべきであるが、新しい思想の前にはひとたまりもないことを示して印象的でさえある。

しかしながら、地方の山岳地帯では古い地名が発掘され可能なかぎり使われている。各山岳に精通した登山家たちが、その著書にて良好な模範を示してきたからにはほかならない。今後それが続く保障はないが、後続の登山者の認識いかにかかっていると思う。

山岳地帯の地名で新しいものは、①登山②交通③観光④記念⑤復活などの地名

がある。

明治以前には①喜攀という概念はなかった。②は〇〇ルートとか〇〇新道とかが現れる。③は代馬がハクバに変えられたように観光地に多い。④はキャンプ場・公園などに多く、⑤は数は少ないが若干のものがある。古い地名が時代を超えて強いインパクトを保持している例で頼もしい。

山岳地名も時代の変化と共に今後も変えられる傾向が続くだろうが、特に行政側の問題意識が薄く憂慮される。また変えられた地名もプロセスの完全公開によって、ある程度事態の悪化は避けられるのではないかと考える。

## 関西周辺 低山ワイルドを楽しむ 北摂の山(上) 東部編

中庄谷 直著

四六判・二〇〇〇円

慶次次盛一著 四六判・二〇〇〇円

新刊

岩尾根、ヤブ山、古道歩きにゆめめぐり。ガイドブックの道をはずせばそこは天国。中庄谷氏「こだわりの山旅」を、詳細地図、写真、コラムと共に見て楽しく紹介。

昔から日帰り、家族連れで親しまれてきた北摂の山々を写真・地図と共に案内。道標の有無や交通機関、寺社や史跡等も紹介。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2  
☎075-751-1211 〒606-8316

（里山シリーズ6 マキノ）  
雪の里山を楽しむ

やまさき やま

中級コース（★★★）

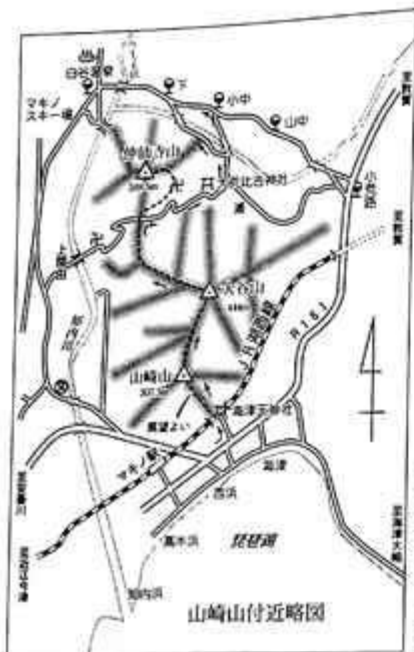
長宗 清司

JR湖西線マキノ駅のホームに立つと、目の前に山塊がある。これまで、この山崎山はあまりにも近いうえに標高も400m前後の低山なので、山登りの対象外だった。ところが、積雪期に入ると意外に変な山塊であることがわかった。雪量がかなりあり、無雪期はやぶ山で無理だと思われた琵琶湖を望める地点が三ヶ所あった。

この山崎山への登り口は、マキノ駅から線路沿いに約1km北西にある山塊の南麓、海津天神社の裏山からがよい。始めに立ち寄る海津天神社は、学問の神様としてまつられ、古くからこの地域



山崎山の山腹上部から海津大崎を望む



山崎山付近略図

一帯の守護神として皇室を始め將軍家や諸大名からの寄進もあり、広く一般の人々からも深く信仰されている。この天神社を有名にしているのは4月の例大祭（大祭典と渡御祭）で、特に渡御祭は「海津まつり」（別名力士まつり）と呼ばれ、力士の化粧回し（家室）に身をかざった若者に担がれる神輿の巡幸は、毎年テレビでも紹介されるほど勇壮な祭りである。御祭神は菅原道真公と大嶽神社の大吉貴命、そして小野神社の天神足彦命の三社である。

山を背にした三社の左手の脇社を抜けると、一筋の山道がある。しかし、この道はやがてやぶとなり消える。地図上の高圧線の鉄塔下に出ると、積雪期、海津の集落を眼下にし、前面に琵琶湖が広がる。春には、桜並木で有名な大崎寺への湖岸線が、東山の山裾をぬうように続いている。

このあと杉林に入るが、ひな段状に植林するための山道はかならずしも山頂に向かっては限らないので、高みに向かって適当に進むのがよい。高度を上げるにつれて雪が深くなる。

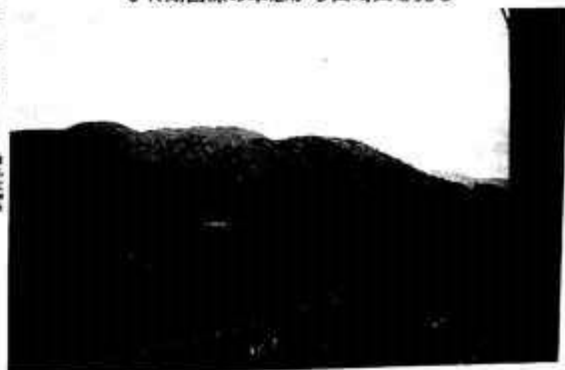
山崎山（307・3M）の4等三角点標

周辺を見て、標高444Mの頂点付近に立つ。人の入った形跡がなく、一応四辺に赤紐をつける。次のピークはだだっ広く、くだりやすい支尾根が西にのびているのに注意する。このあたりの杉は手入れが行き届いていて、整然と植わる杉の幹と雪の白さが美しいコントラストを見せている。

縦走尾根へは、西向尾根の隣のやせ尾根を見つけて、鞍部に向かう。昔は海津西浜、東浜と境界を分けていた鞍部（峠）に出て、東の集落（浦）にある大荒比古神社を訪れる。反対側の上開田には、称念寺薬師堂がある。

もう少し探索を楽しみたい人は、西の山塊、仲仙寺山へ足を踏み入れることをおすすめする。山頂下には、十一面千手観音の御堂があり、かつては大寺があったと推察される雰囲気が残る寺領地である。

JR湖西線の車窓から山崎山を見る



石は、一段高い土饅頭のような疎林帯で見つけた（積雪が薄く幸運だった）。次の大谷山へは北方向に向かう。雪が益々深くなる。シガラ組みのある伐開地に出て上部に立つと、先刻よりもさらに見晴らしがよく、琵琶湖が展望できる。

ここからの登りは、篠竹の混じる雑木林が続く。雪はすでに1Mを超している。尾根をはずさずにさらに高みを目指す。

ある。復路は参道をくだる。

下山後バスの時刻や時間に余裕があれば、北東約1km強にある白谷温泉に立ち寄られるとよい。

この山塊を囲むように集落が点在し、巡回バスがこれらをぬうように運行されているので、万一の場合でも下山さえすればすぐに対応できる。民宿に泊まれば近くのマキノスキー場へ行くことも可能である。

（平成13年3月11日・9月1日歩く）

△コースタイム▽

JRマキノ駅（20分）海津天神社（20分）  
鉄塔（1時間）山崎山三角点（1時間）  
大谷山（50分）峠（40分）大荒比古神社  
（20分）下（30分）白谷温泉（5分）バス停（バス16分）マキノ駅  
△地形図▽2万5千||海津  
△問い合わせ先▽  
湖国バス（長浜営業）

0749 (64) 12224  
マキノ町役場 0740 (27) 1121  
海津天神社 0740 (28) 0051  
（注）全コース踏み跡もないやぶ山なので無雪期は読図中心となる。

大峰前衛の静かな山

小峠山

ことうげやま  
中級コース(★★★)  
金谷 昭

大峰山脈のなかで最秀峰はと問われると、迷わず釈迦ヶ岳(1799m)を推す人が多いだろう。

大峰最高峰の八経ヶ岳(1915m)には高度に劣るといえども、釈迦ヶ岳はその勇姿においても、頂上の展望や山腹の景観においても、それに勝るとも劣らない。

その釈迦ヶ岳を東側から見る展望台としては、釈迦ヶ岳の北のピークである孔雀岳(1779m)から東にのびる尾根の最後の高まりである小峠山がすぐれている。最近、山頂付近の大伐採と植林のための袖道がすっかりと付けられており、今のうちならいわゆる大峰のやぶ漕ぎを

せずとも登れる。

バス便数と山行所要時間を考えるとマイカーに頼らざるをえない。京阪神を早朝に発てば日帰り登山が可能である。

国道169号線を南走し、上北山村の池原ダムの白川橋を渡った所のバス停水尻で左に入る。バス停横には空き地があった、車四台ほどが駐車できるが、村の人の了解は得ておこう。

空き地のすぐ山側に階段がある。これは墓地への道である。これをたどって行くと、墓地に入る切り通しの手前から稜線沿いに袖道が登っていて、これが登山道である。地図に記載されているような急傾斜の尾根をジグザグではなく、直線的に付けられているので、たいそうな急登である。

道の北側は檜植林、南側は雑木の二次林となっていて、樹木に遮られて眺望はほとんど期待できないが、途中で白川橋の北にそびえる高戸屋山(620m)の小さな鋭峰が望める。

620m付近で右から尾根が合流してくると、黄色と赤色のプラスチック境界杭が出てくる。この後いったん傾斜がゆるやかなになると同時に赤テープが出てく

るが、ここでも南面の深瀬谷側で大伐採が行われている。痛ましいほどの大伐採である。これほどの急斜面では植林を施



小峠山山頂



してもおそらく苗木は育たないであろう。自然保護を考慮せず、経済論理の優先に憤りを禁じえない。

その伐採面の上縁を急登して行くと、頂上近くで右側にガレが出てきて、ちょっとしたキレットになっている。再び鹿除けネットが出てくる。ネットは山腹を捲いて頂上に達しているが、稜線に沿っての踏み跡をたどって行く。間もなく小峠山(1099m)の頂上に飛び出す。

頂上は尾根の高まりにすぎず、細長く狭い。北側は檜林、南側は雑木の二次林。その間にある3等三角点標石は、さすがに登る人がほとんどないだけに傷もなく、字体がはっきりと読みとれる。人工物は標石と新宮山彦グループの山名板が一枚あるのみで、静寂そのものである。頂上を少し西へ行くと再び鹿除けネットが出てくる。その前から大峰南部の峰々の展望が広がる。仏生岳・孔雀岳・釈迦ヶ岳・大日岳から奥駈けの山々と山懐に前鬼の小峠坊の屋根も望めるが、そのなかで圧巻はやはり、釈迦ヶ岳と大日岳の鋭峰である。共に槍状を呈し、大槍・小槍と互いに競い合って誇らしげにそそり立っている。

再び急登となり、同じく右からの尾根が合流すると675m標高地点である。ここからはゆるやかなアップダウンの繰り返しの登りとなる。両側の林相は変わりないが、馬酔木が多くなってくる。四度目のアップダウンを過ぎると急登となり、今度は左から尾根が合流すると750m標高地点となる。

ここから北側は杉檜の混合林となる。今まで付けられていた赤テープはなくなり、その代わり樹木に赤ペンキの丸印が幹の山頂側に塗られている。これは登りには見えないが、下山の折にはルート判別に大いに役立つだろう。しばらくゆるやかだった登りも急登に変わり、急に明るくなって小ピークに飛び出す。

ここは926m標高で、南側の深瀬谷からの尾根が合流する地点である。この南面(ダム側)は大伐採が行われ、その伐採面の上縁に鹿除けネットが張られている。伐採によって殺風景になってしまったが、そのぶん大展望が得られる。池原ダムとその向こうには大台ヶ原南部や紀南の山々のパノラマが広がり、休憩には最適な場所である。

小峠山へは樹林のなかをいったんくだ

大峰南部の峰々の眺望を楽しんだ後下山するが、踏み跡とテープ、そして木に塗られた赤ペンキを忠実に追って行けばよい。それぞれ750m標高地点は左に、675m標高地点は右に、620m標高地点で右に行き、各分岐する地点で支尾根に入らないよう注意したい。620m標高地点を過ぎたからは、よくぞ登ったと思われる急斜面で、膝を痛めぬよう、ゆっくりと慎重におりよう。

なお、926m標高より南側の伐採面の上縁をたどって、ダムにのびている深瀬谷トンネルのある半島の先端へのルートもあるが、横になって登降をせねばならないほどのさらに急な勾配であり、また下山時には国道脇とダムのガケ部分を選けるルートファイディングがむづかしく、水尻からの往復ルートが安全である。

(平成9年6月22日・平成13年9月19日歩く)

▲コースタイム▼

水尻バス停(5分)墓地(40分) 675m標高地点(1時間15分) 926m標高(50分) 小峠山(2時間30分) 水尻バス停  
△地形図V2万5千Ⅱ釈迦ヶ岳

2等三角点のある山

総門山と三条山

山形 歳之

総門山(3等・点名・伊丸谷)  
北総門山(2等・点名・龜山)

初級コース(★)

三重県多気郡宮川村の総門山にある2等三角点は、主稜総門山の北部のピーク(704.0m)にあり、地元では「北総門山」と呼ばれている。もともと私のコースガイドは、2等三角点のある山が主題ではあるが、山としては総門山のほうが立派で標高も高い。もちろん登山の対象としてもこちらのほうが有名である。

数年前、この2等三角点を目指したときは林道工事で断念した。そこで今回は宮川村の役場を先に訪ねて山の様子を調べると、何とこの山は公園として整備さ

れ、北総門山の2等三角点は展望台になっていて、歩くこともなかった。そこで今回は、2等三角点を訪ねた後に登った3等の総門山(948.6m)を紹介しよう。私は新ハイ誌に2等三角点のある山のコースガイドを探り上げているが、山は2等に限らず、3等も4等も、もちろん三角点のない山にも登っている。山は三角点の有無には全く関係がないし、等級もあくまで測量の基点にすぎない。しかし、3等は2等の六倍以上も存在し、4等に到っては十数倍で、しかも年々増えている。むしろ、山頂に三角点のない山のほうがめずらしいくらいで、単に三角点のある山とすると、どの山でもよいことになってしまふ。そこで2等三角点の山に絞って、なるべく記載される機会の少ない山を採り上げるようにしている。

宮川村は、大台ヶ原の大杉谷登山口としてよく知られている。関西方面からの交通としては、名阪自動車道の針インターから166号線経由で飯高町に入り、422号線で宮川村に到る。針インターから約1時間45分である。伊勢自動車道廻りなら、勢和多気インターから42号線経

北総門山から総門山を望む



由で35分である。

宮川村役場の観光課には、総門山周辺のハイキングコースのパンフレットがあるのでもらっておこう。このパンフレットで見ると、目的の2等には歩くことなく登れることがわかり、目的を総門山に変えた。

宮川フォレストのレジャー温泉の前を抜けて、新しい舗装林道を高度を上げて

行く。北総門山にはきれいなトイレ舎や広い駐車場・展望舎が建ち、標石は展望舎の影に入っていた。宮川の村が眼下に広がり、南側には総門山が形よくそびえていた。林道は総門山の山腹をぬって南麓で終わる。ここが総門尾根コースの登山口で、途中にも林間コースの登山口がある。もちろん道標もあり、5〜6台の駐車が可能である。ゆるやかな尾根を登って行く。今、新緑真っ盛り、楓の木が多

いので紅葉もすばらしいだろう。山頂近くになると、バイケイソウがたくさん明へ出している。山頂は楓と檜に囲まれ、北側に展望が広がる。先刻の北総門山の向こうに宮川村が広がって見えた。

総門山はカタクリやフクジュソウが有名だが、山頂一帯のカタクリはすでに花が終わって実を結んでいた。このような



草花がいつまでも残っていて欲しいと思う。道標もあり、明瞭で迷うことはない。下山後、道標に導かれて不動の滝を見に行った。滝はまずまずだったが、大変な悪路で、車を取り入れたことを悔んだくらいだった。(平成13年5月11日歩く)

▲コースタイム▼

尾根コース口(30分) 総門山

△地形図▼20万Ⅱ伊勢

5万Ⅱ長島・丹生

2万5千Ⅱ江馬・間弓

三条山(3等・点名・三条界)

初級コース(★)

宮川村に来るとき、422号線の栗谷で三条山ハイキングコース入口の道標を見ていた。役場にも栗谷のパンフレットがあり、三条山もハイキングコースが整



備されていることがわかった。総門山に思ったより早く登れたので、午後三条山を目指した。

栗谷から道標に従って田引峠の林道終

点に車を置く。宮の谷からも道があり、周遊コースにもなっている。

植木のなかにも道標があり、簡単に田引峠に登り着く。小さな石仏一つ。昔は峠越えの道だったのだろう。今は飯高への道は未整備となっていた。三条山(663.8m)頂上は南東が開け、けさ登ってきた総門山が美しい。北からはこれも2等三角点のある石ヶ山が、樹林に囲まれて静まっていた。

下山後、宮川フォレストの温泉で汗を流す(入浴600円)。木工館や宿泊施設もあり、村おこしの豪華な館であった。

下流の奥伊勢湖は波静かで、ブラックバス釣りの人やカヌーを練習している人の姿を見た。(平成13年5月11日歩く)

▲コースタイム▼

田引峠登山口(30分) 田引峠(20分) 三条山

△地形図▼20万Ⅱ伊勢 5万Ⅱ丹生

2万5千Ⅱ江馬

特選コースガイド④

鈴鹿

続・近江側から登る鈴鹿の山々③

清水平谷林道から

清水ノ頭を越えて雨乞岳へ

中級コース(★★★)  
磯部 純

今回紹介するルートは、平成13年3月「鈴鹿を歩く113、残雪の雨乞岳」で歩いたルートである。

清水平谷林道から清水ノ頭、雨乞岳へ至るルートは、新ハイ26号(49ページ)に詳しく、また、この登りは岩野さんの山行「鈴鹿を歩く」シリーズの記念すべき第一回例会のルートでもあり、新ハイ代表の村田さんも参加している。しかし、シクナゲ尾根の下りルートはまだ紹介されていない。

それでも、このルートは例会で何回か歩かれていて、最近では、雪のある季節の定番ルートになりつつあるようだ。といっても、春の花の季節や秋に訪れても

る前に枝いっぱい花をつくるから「満作」と呼ばれるようになったとか。ほかに、春に真っ先に咲くことから「まず咲く」「まんずさく」「まんさく」となったという説もあるからおもしろい。

暗い檜の林を登り、傾斜がゆるくなる、標高835mの台地。檜林の西はウリハダカエデの明るい林である。雪があれば、林一面に枯れ枝についた雪の花を見ることが出来る。檜と雑木境を登り、檜林が切れると展望が広がる。西に綿向山が横たわり、東方に目を向けると、鎌ヶ岳の鋭峰に始まって鎌尾根・水沢岳・茶室と連なり、その右に仙ヶ岳のピークが並んでいる。これから登る雨乞岳も、目の前にそびえ立っている。



このあたりでワカンを装着するのがよ

楽しいことには変わりない。今回は、冬に歩くことを前提にして、このルートを紹介する。

大河原の「かもしか荘」から鈴鹿スカイラインを東へ、清水平谷奥の林道広場へ向け車を走らせる。野洲川ダム北のはずれの深山橋で左折し、林道を奥に入る。雪のある時期には、四輪駆動車でないと走れないかもしれないので、積雪情報に注意する必要がある。大峠へ向かう白倉谷林道分岐を左に見て、清水平谷をさらに奥へ進み、清水平谷林道広場へ車を置く。広場は10台程駐車できるスペースがあり、ここがこのルートの出発点となる。

前年の平成12年11月に今回の紹介ルートとは逆のルートを歩く例会があった。同じルートでも登る方向が逆であれば景色も変わり、また、雪のあるなしでは全く違ったルートを歩いているようにも感じられた。

広場の西の檜林から斜面に取りつく。斜面に雪があってもワカンなしで十分登れるだろう。登るにつれて尾根は細くなり、やがて、左は雑木の林、右は若い檜植林斜面の中尾根を金網に沿って登るこ

いだろう。高い木がなくなり、吹きさらしの尾根を登ることになる。ワカンを持っていなければ、歩くのに相当苦勞することになる。秋にはガマズミの実が空に映えていた尾根も、今は白一色におおわれている。あちらこちらのアセビも雪化粧し、ブロッコリーの花のような塊となっている。

斜面がゆるくなると清水ノ頭。天気が良ければ展望は抜群で、後方には綿向山前方には雨乞岳の山頂が手に届きそうな所にそびえ立っている。北にも南にも雪をかぶった鈴鹿の山々が連なっている。尾根はゆるやかに起伏し、まるで広い雪原を歩いているような錯覚に陥る。あたり小さな木々は霧氷を通り越して、しっかりと雪の花を咲かせている。風がきつい所では海老のしっぽを見ることが出来る。雪が多く、風がきつい山でしか見られない光景である。

尾根を東へ向かい、急斜面を登る。夏道は尾根の北の林のなかにあるのだが、雪があれば直登できる。登り切ったピークが南雨乞岳。東方には雪の付いた鎌ヶ岳から三重県境の山並が目の前に連なり、御在所岳の左には東雨乞岳が、すぐ目の

西雨乞岳の手前から鏡子ヶ口を望む



とになる。金網が倒れないように張ってある針金に足を取られそうになるので少々注意が必要だ。やがて、高みに登り、右手の林が切れると、雪をかぶった南雨乞岳の山頂が白い顔を覗かせる。再び、急な尾根を登って行くと、3月であればマンサクの花を見るだろう。冬枯れの木に黄色い花をいっぱいつけて、まさに、春の到来を告げる花だ。マンサクは葉が出

私達におまかせ下さい。待っています!



詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店

とスキーのヨシモ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.di.dion.ne.jp/~hyoshimi>

JR天王寺駅北出口  
より東へ強歩5分



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 近鉄**
- ▽**来光ハイキング「生駒山」**  
1月1日(祝)雨天中止(集合) 枚岡神社境内午前4時〜4時30分(枚岡駅より徒歩約5分)〈コース〉枚岡神社―(摂河原展望ハイキングコース)―生駒山上(来光)―宝山寺(解散)(約7.5) \*懐中電灯・防寒具・アイゼン必携 参加自由・無料、営業推進本部大阪ハイキング係06(67775)3566
  - ▽**来光ハイキング「葛城山」**  
1月1日(祝)雨天中止(集合) ロープウェイ葛城登山口駅午前4時30分〜5時〈コース〉葛城登山口駅―くじらの滝―葛城山(来光)―白樺堂(解散)(約3.5) \*懐中電灯・防寒具・アイゼン必携 参加自由・無料、営業推進本部大阪ハイキング係06(67775)3566
  - ▽**来光ハイキング「朝熊山」**  
1月1日(祝)雨天中止(集合) 朝熊駅前午前3時30分〜4時〈コース〉朝熊駅―登山口―ケープル跡―金剛寺―朝熊山(来光)―ケープル跡―登山口―朝熊駅(約12.5(健脚)) \*懐中電灯・防寒具・アイゼン必携、参加自由・無料、
- 伊勢志摩支社0596(28)3801**
- ▽**御杖村イベント「お山開き三峰山」** 1月14日(祝)雨天中止(集合) 三峰山 標高903m 尾根をくだるのびもくんだり、南へトラバースして尾根にのるのだ。そのまま南尾根をくだってしまおうと、車と遠く離れた大納言谷へおりてしまおうので、細心の注意が必要だ。尾根ののってしまえば、ひたすらくだるだけ。無雪期だと上部はササをかき分けての下りとなるが、雪があればやぶ漕ぎの
  - ▽**御杖村イベント「お山開き三峰山」** 1月14日(祝)雨天中止(集合) 三峰山 標高903m 尾根をくだるのびもくんだり、南へトラバースして尾根にのるのだ。そのまま南尾根をくだってしまおうと、車と遠く離れた大納言谷へおりてしまおうので、細心の注意が必要だ。尾根ののってしまえば、ひたすらくだるだけ。無雪期だと上部はササをかき分けての下りとなるが、雪があればやぶ漕ぎの
  - ▽**近鉄万歩ハイキング「くさか越え宝山寺」** 1月20日(祝)雨天中止(集合) 新石切駅前9時30分〜10時〈コース〉新石切駅―石切神社―旧生駒トンネル(孔舎衛坂駅跡)―石切場跡―灯籠ケート―宝山寺―宝山寺駅(約9.5) 参加自由・無料(拝観料等は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(67775)3566
  - ▽**冬の高見山山日帰登山** 2月3日(日)・17日(日)雨天中止(集合) 近鉄サビネネット阿倍野橋駅乗車前7時40分(コース) あべの橋駅(特急電車) 大和上市駅(バス) 高見登山口―小峠
  - ▽**駅長お薦めフリーハイキング** 石切神社から野崎観音まで旧街道を往く。 2月17日(日)雨天決行(雨天中止) (集合) 新石切駅9時30分〜10時30分〈コース〉新石切駅―石切神社―目下良塚―安岡正寛先生の旧家―産業大学―野崎観音―野崎観音バス停(バス) 新石切駅(約6.5) \*係員は同行しませんが、参加自由・無料(バス代・拝観料等は別途)、新石切駅0729(86)2091
  - ▽**近鉄万歩ハイキング「太子ゆか**



遠ヶ岳・静ヶ岳・藤原岳・御池岳と続き、左の堂仙山の間に、白く雪をいただいた伊吹山の頂をも見ることが出来る。目の前近くには、イブネ・クラシのピークからフナクボ・鈍子ヶ口へ至る尾根がうねって

心配はいらない。木や岩にぶつかることを厭わなければ、ビニールを敷いてのヒップスキーもおつなものだ。  
尾根は雑木からアセビの林になり、やがて、シヤクナゲの密生した尾根へと変わる。まっすぐにくだることができず、左へ行ったり右に行ったり、木の間を抜けるのに苦勞の連続だ。さすがにシヤクナゲ尾根と言われることだけはあはる。  
山頂から1時間30分程くだると、尾根分岐と思える地点に着く。その尾根を右にくんだり、左の檜斜面を滑りおると、やと林道へおり立つ。その林道を尾根を漕きながら谷を渡ってくだると、車を置いた林道広場へ戻る。  
(平成13年3月11日歩く)

前には雨乞岳が白く迫っている。南雨乞岳から雨乞岳へは雪道で、ササにわずらわされることなく登れる。  
雨乞岳山頂に着く。夏と違って、ササは雪の下に埋もれ、広々とした雪原となっている。もちろん、三角点は深い雪の下。東から西の大展望は単に圧巻としか表現しようがないほどだ。  
天気が良ければ、林を北へ突っ切って、西南乞岳へ行ってみるのもよいだろう。雨乞岳まで行けなくても、途中の林の切れた所から見る北方の展望は抜群だ。東に釈迦岳がどっしりと構え、三池岳・

いる。しばし、われを忘れずにはいられないほどの大展望だ。  
下山路は、南雨乞岳の一つ南のコブから南尾根と分かれ、標高903mを通過する尾根をくだる。この分岐を見分けるのが難しい。南のコブからいったん西へ10分もくんだり、南へトラバースして尾根にのるのだ。そのまま南尾根をくだってしまおうと、車と遠く離れた大納言谷へおりてしまおうので、細心の注意が必要だ。尾根ののってしまえば、ひたすらくだるだけ。無雪期だと上部はササをかき分けての下りとなるが、雪があればやぶ漕ぎの

**△コースタイム▽**  
「かもしか荘」(車40分) 清水平谷林道広場(1時間) 標高835m (15分)  
清水ノ頭(45分) 雨乞岳―シヤクナゲ尾根(2時間40分) 林道(20分) 清水平谷広場  
△地形図▽  
2万5千=日野東部・御在所山・土山・伊船

リ(河内飛鳥) 2月17日(日) 雨中止(集合)上ノ太子駅前9時〜9時30分(コース)上ノ太子駅一志井八幡宮一蓮法寺跡一飯氏三代墓一敏達天皇陵一推古天皇陵一塚古墳一小野妹子墓一竹内街道一飯福寺上ノ太子駅(約13分)参加自由・無料(拝観料等は別途、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3566)

▽法隆寺行事「太子道をたずねる集い、機長ルート」2月22日(日)集合 法隆寺南大門8時30分(コース)法隆寺一龍田新宮一達磨寺一尼寺庵寺跡一正福寺一志都美神社一どんづる峯一飯福寺(聖徳太子御廟)(約20分)定員150名(ハガキ申込制・2月9日(日)必着)参加費1000円(弁当代は別途、申込み先・〒636-0115奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺山内一丁目法隆寺太子道係宛(裏面)第11回「太子道をたずねる集い」申し込みと明記のうえ住所・氏名・年齢・電話番号・弁当(1000円)希望の有無を記入・70歳未満の方に限る。法隆寺寺務所0745(75)2555

▽陸奥ふれあいハイキング「新庄町の古墳めぐり」2月24日(日)雨

天中止(集合)近鉄新庄駅前9時35分(コース)新庄駅一飯豊天皇壇口丘陵一神塚古墳一屋敷山古墳一神明神社古墳一塚古墳一葛城山麓公園一山口古墳群 飯吹古墳群 志海駅(約11分)参加自由・無料(営業推進本部大阪ハイキング係06(6775)3566)

▽神鉄ハイキング「性海寺鬼おどり見物ハイイク」1月14日(日)雨中止(集合)押部谷駅10時05分(コース)押部谷駅一近江寺一住吉神社一性海寺(鬼おどり)一押部谷駅(約15分)参加自由・無料(神鉄観光物事業部078(521)0321)

▽神鉄ハイキング「再度公園と菊水山ハイイク」1月27日(日)雨中止(集合)其谷駅9時05分(コース)其谷駅一其谷道一広徳町一狼谷一五江一再度公園一鍋釜山一菊水山一約蘭台駅(約10分)参加自由・無料(神鉄観光物事業部078(521)0321)

内9時30分(阪急南本駅北東約2分)集合(コース)保久良神社一風吹岩一東おたふく山一七曲り一六甲山頂一魚尾道一有馬温泉駅(約14分)健康回・アイゼン必携(参加自由・無料、神鉄観光物事業部078(521)0321)

▽神鉄ハイキング「逢山峠と高尾山ハイイク」2月24日(日)雨中止(集合)有馬口駅9時30分(コース)有馬口駅一逢山峠一仏谷一高尾山一湯桶谷峠一横谷一逢山峠一有馬口駅(約8分)参加自由・無料(神鉄観光物事業部078(521)0321)

▽山陽ハイキング「鉢伏山・楊屋山」1月13日(日)雨中止(予備1月20日)集合 須磨浦公園駅下車須磨浦山上展望閣前10時(コース)一旗原山一おらが山一楊屋山一行者の滝一天井川上流河原一須磨寺駅(約8分)参加自由・無料(須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520)

# やせらぶ

## 題字・小林玻璃三

9月上旬 北摂・大岩ヶ岳(384・1)を歩いた。  
神戸市浄水場の駐車場に車を置き歩き始めると、ポタンツル・センニンソウ・ツリガネニンジン・ツルボ等、開花中の植物がいっぱい出てきて足が進まない。  
千刈ダムは、昨日の大雨で大放水中で見事な景観だった。長さ106m、高さ42mで、見物に来ている人に聞くところ、大正8年に出来たらしい。石組みづくりで17の水門からいっせいに放水され、しかもわざと傾斜と段差を付けて水が美しく飛散するように設計されていた。一年を通じてもめったに見られない光景とかで、こどももつい見とれて足が進まない。  
歩き出してわかったが、枝道が

いたるところにあって、里山の難しさを思い知らされた。  
南口分岐からすぐに黄色いテープ(二重線)があり、うっかり引き込まれて行ってしまった。尾根に向かっているようで「尾根通しで行ってもいいか」と構わず行くと、道が途切れた。どうやら展望所に行けなかったようだ。やぶを行ったり来たりして、ゴリ押しで戻り予定のコース通りに行く。右に登山口を確認して登る。山頂付近に山名の標識と思われる岩が出てくる。山頂は抜群の景観だが、山名がわかるのは有馬富士と羽東山くらいだ。下りは黄葉のコースを取らず南口から近道した。踏み跡が消えかかっていたが、ドンビシヤ朝の南口分岐に出た。

燻路、またダムに引っかかり、しばしザックを置いてしぶきと燻音とマイナスイオンを楽しんだ。拙文を読んで行こうと思われ方は大雨の後をおすすめする。(向日市 湯浅康夫)

9月中旬、三重県関町南部の錫杖ヶ岳(676)へ。10月中旬には隣接する伊賀町東端の雲山(786)に登った。関西本線の、前者は加太駅から、後者は柘植駅から歩き出した。標高差としてはいずれも520前後の登山だった。  
錫杖ヶ岳は鋭峰といわれるだけあって樹木から急登の連続。樹林帯では木の根をつかみ、立木にすがって体を引き上げねばならぬ。ロープや鎖を垂らして立ち上がる岩場や岩壁には足がすくんだ。  
雲山は登山寺から山道に入ったが、それまでは車道歩き。登山道は緩木土留め階段が多く、それも土が流れているため一段ごとに大きく上げ下げせねばならず難渋した。東海自然歩道を利用するのが一般的かも知れないが、単調な舗装林道の登りなので敬遠した。

▽山陽ハイキング「石谷公園と高丘登り蒸籠」2月10日(日)雨中止(集合)中八木駅下車大久保浄化センター公園10時(コース)一谷水川一上川池一石ヶ谷公園一高丘登り蒸籠一亀池貯水池一藤江駅(約12分)参加自由・無料(須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520)

▽山陽ハイキング「高取山から菊水山」2月24日(日)雨中止(集合)西代駅下車山陽電車西代本社前10時(コース)一高取山一丸山町一鶴越一鳥原貯水池(北側)一菊水山山頂一神鉄鈴蘭台駅(約10分)参加自由・無料(須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520)

○新ハイ関西サービスエー

名標・二枚登山 小白倉一大白倉一甲子一郡須への縦走基地 一各でも最寄り駅送迎可(登り約) 雨天登山者内編

福島・二岐温泉  
日観連 大和館

〒9622106221  
福島県若狭郡天栄村二岐温泉  
02448184120221  
F 02448184120205

富士登山・富士五湖  
東海連自然歩道  
(石割山・ハリエ・神林)

三國山の麓  
ペンション コットンテール  
〒4011050502  
山梨県南都留郡山中湖村平野  
055516518515

大倉温泉中腹から松尾根分岐点  
飯室・岩屋宮あり  
JR中央線御殿山駅下車タクシー40分  
バス20分登山口下車徒歩30分時間

山小屋 福ちやん荘  
〒404100202  
山梨県富士市上野原3-2-2  
電話(自)0555213146339  
(山)03300141792115

尾瀬 平ヶ岳探検と約りの山小屋  
尾瀬二山口探検公園内  
清四郎小屋  
ほんもの手作りお土産店  
〒946100000 新潟県北魚沼郡津川町東(奥山)  
0255804028  
期間外(12月14日)  
02559121150286



新ハイの仲間に入れてもらったのは二年前なので、古い「新ハイキング関西の山」は知らない。それでバックナンバリー20号を送ってもらった。

これが予想以上に楽しい。まず美しい表紙、季節おりおりの山の版画がゆっくり楽しめる。これはあの山だらうかと思いつくし、目次を見て「へえ、そうか」と感心する。

一番最初に読むのは「巻頭言」。小冊子の割には実に立派な巻頭言で、しばしば相づちを打つ。教えられることが多い。

あとは好きな所・気の向いた所から読む。山の本だから当然、紀行やコースガイドから読み始めることが多い。それもページを追って順には、ではなく、気の向いた山(多くは自分がかつて登った山)から読み始める。懐しい。しかし知らなかったコースや記事もたくさんある。地図が添えられているのは便利でいい。

モノクロの写真もいいし、文学関係・歌関係の記事があるのも私には嬉しい。  
1号全部を読み終えて次の号に進むのではない。気に入ったのを

二、三冊読んでだけで次の号に進む。せいたくなく読み方だ。しかし20号もあるのだから、とりあえず通覧のつもりである。20号までいけば、どうせまた1号まで戻って読み直すだろうから。

ベッドから窓越しに眺める秋の空はやたらに青く、暖かい。「ああ、元氣だったらなあ」とはもう言わなくなった。退院したら登ろう、訪れてみようという山やコースのリストが増え続けている。

最後に気がついたことが一つある。「新ハイキング関西の山」初期の頃は執筆者が多士済々だったところが最近執筆メンバーがやや固定しつつあるのではないだろうか。多くの人の新鮮な文章も期待している。

(高槻市 紀平龍雄)

### 山行短歌

7月10日 室生真見山公園  
抱きしめたいナデシコの少女は  
鏡の野辺をすりぬけて消ゆ  
7月28日 六甲森林植物園  
遠き地より蘇りぬメタセコイア  
異国の夏に真っ直ぐに立つ  
8月24日 因伯山  
ブナの木の林をすきて山小屋に

### 山行短歌

9月9日 太尾・竜ヶ岳  
さわやかな樹林の尾根の長池は  
濃い緑と空を映して  
白ハゲの脆いガレ場のキレットを  
竜を見上げて蟻の行列  
9月18日 津田山  
ママコナやココヤボウキにツルリ  
ンドウ ヤブラン咲いてキノコも  
咲いて  
露草の朝露こぼす細道は  
登るにつれて湖面広がり  
9月24日 静ヶ岳・セキオノコバ・  
鏡子岳  
呑むしてずんぐりブナは静ヶ岳  
この山の主みんな集めて  
徳源郷セキオノコバの上の池  
四季折り折りの思い出わいて  
御地岳麓原は秋の空  
言つことなしだこの景観は  
9月20日 摩山(山火事)  
山は燃え盡したの尾根道は  
近江の国の大バノラマが  
9月20日 御在所岳・御界尾根  
御在所の高殿の岩た一人  
秋風吹きて大バノラマが  
10月8日 入道ヶ岳  
仏岩イワクラ尾根は三万歩  
急な下りと急登を繰り返す  
入道の椿木神社の奥の院

眠れば湖に浮く舟になる

8月30日 紀東尾根山

谷底よりロープ伝いに這い登れ

尾根へ岩場へ明るい方へ

9月6日 木曾駒ヶ岳

高山の花のかたのアルプス城

雲の海消え崩れ落ちゆく

9月20日 河内神津嶽

花占いの輪に繋がれば僕も君も

かごめかごめの童子に帰る

9月24日 高野橋柳山

女人道は時の回廊ノスタルジア

嘆きの歌はいずこより聞こゆ

9月28日 紀北生石ヶ峰

銀いろのすすきの海を泳ぎ来し

嵐が丘のヒロインのように

10月5日 大峰八経ヶ岳

濃霧突きぬけ地の涯に我は立つ

陸は果て空が始まる線上に

10月5日 大峰弥山

天空への扉のときき鳥居くぐる

陽は落ち星に支配されゆく峰

10月6日 大峰園見八方

濃霧色に雲海はかがやきはじめ

波濤巻き起こす遊星の風よ

10月6日 大峰行者道

果てしなき奥底の稜線は燃えて

久遠のランドスケープを描く  
(吹田市 木村太郎)

龍胆草空より深い空の色

星の形を掃らす嵐よ

(松阪市 葦木伸人)

平成13年9月15日に、三重県の局ヶ岳に登った。桶出バス停から登り2時間半、下り2時間であった。天気はくもりで、時々、小雨が降り、山頂はガスに包まれていたが、新登山道はよく整備されていた歩きやすかった。単調な道中にはホトトギスの花がいろいろなお姿を見せ、退屈しなかった。林道の延長工事が行われていて、工事音が聞えなくなったのがちょっと残念であった。山麓の人たちは「だけさん」と呼んでいて、局ヶ岳という呼称は聞かれなかった。なお、林道は地道となるが、それほど荒れておらず、終点までマイカーで入っても大丈夫だろう。地名の問題は難しい。同一の地域に対して、複数の呼称が存在することはよく普通である。公称の他に、通称・俗称などがある。たとえば、筆者の生まれたのは、H県下郡V町の大和(やまと)で、集落名は上三原というが、奥三原ともいい、オクミハラの他、オクニミヤラという人もある。これら

八ヶ岳南北縦走の中心地  
59年秋新増築完成新館  
木の香う新館温泉旅館  
オーレン小屋

1泊2食付き 6000円

4月1日 11月未開設

〒391-0213

茅野市北山 茅野温泉

茅野駅 北八ヶ岳登山口

〒0266-7211 小笠原天

電 0266-7211

茅野高原

プテホテル カナール

〒391-0301

茅野市北山 茅野温泉

茅野駅 北八ヶ岳登山口

〒0266-6711 2258

電 0266-6711

日本百名山の宿

信州戸隠山

森の宿めるへん

高妻山・黒岩山登山口まで送迎

クランク・コースご案内

〒381-1410

長野県戸隠村水ヶ原

電 0266-2254 2208

日本唯一の女人禁制の山「大

羊山(白登山)の登山口

稲村ヶ岳女人コースもあり

温泉・名水の里

旅館 紀の国屋基八

1泊2食付き 7,000円から

〒638-0431

奈良県吉野郡天川村錦川

電 0747-7614 0309

九州の最高峰・日本百名山

宮ヶ瀬岳(一番近い宿)

屋久島安房登山口

〒899-4331

鹿児島県霧島市久安房

電 0997-4161 3021

御在所登山口

愛知川渓谷歩きに

山好き仲間集う宿

山小屋 朝明茶屋

〒510-1251

三重県三郡郡野町千草

電 0599-9311 789

那岐山麓の麓、近くに百名山の大山

二百名山の水ノ山・上野山などあり

三百名山 那岐山ふもと

岡山県 那岐山荘

〒708-1307

岡山県那岐郡余部町高岡

電 0868-3614 154

はカミミハラの別称であるが、三原をミワラという場合もある。こういって、種々の呼び方は方言や流りも含めた、日本語の特性から避けることができないうことである。山名に関する資料を集めている

と、それに関連して、興味深いカタカナ語が目につく。筆者が気になったのは、キトラ・ホトラ・オトシ・ウト山などであった。偶然だが、「字自が「ト」である。これらは、柳田国男『地名の研究』に出てきてもおかしくないのに、ひとつも見当たらない。だが、地名に関する他の人たちの論考を見ると、これらの言葉が出てくる。

岩瀬山の山頂のススキの原を山麓の地域では「キトラのカヤ山」と呼んでいる(大阪50山)大阪府山岳連盟)。池田末則『飛鳥地名紀行』の「キトラ」考によると、キトラ(木寅・甲寅・木虎)とは、キトラウ(北浦)の転訛したもので、浦は裏の意味でなく、深く入り込んだ地形を意味するという。ハタウラがハトラ、トヨウラがトユラになる例がある。落合重信『ひょうごの地名再考』にもキトラの考案があり、北裏城、カヤ取り城説の他、木戸羅(村の出入口の木戸のそば)説も紹介している。

ハトラに似た言葉にホトラがある。山本武人『近江朽木の山』のツルベ岳の解説で、牛の敷ワラがわりにする若木や草(ホトラ)を

刈りにホトラ山に行つたという地元の人の話が載せられている。この場合、ホトラの語源は何なのだろうか。ホトリ(端)、ハタウラなどがヒントになるかもしれない。

比良のヤケ山の東に位置するオトシについては、山本「比良・朽木の山を歩く」や、「比良山系」(ゼンリン)では、古くから伝わる名称だが、語源は不明とする。オトシは緩やかなスリ鉢状の地形で、いたる所に湿地がある。「地名用語語源辞典」には「崖」「瀧」「田の水の落とし口」とある。動物を「追い落とす」とことや「落とし穴」などと関係があるのだろうか。いずれにせよ、周辺よりも低い場所を意味しているようだ。

ウト山については、夜久野町のうと山、朽木村の雲洞谷山などがある。ウトはウツと同じで、「狭く長い谷」の意味ともいう。「狭い谷、山の奥深い所を指す(地名用語語源辞典)。空(うつ・か)や洞穴との関連も考えられる。山名は土地名に由来するようだ。

比良の鳥谷山は、読み方が難しい。国土地理院近畿地方測量部によると、大津市の地名調査には

### 山行計画 (1・2月)

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者種別その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(安田火災海上保険会社と契約)

|             |        |
|-------------|--------|
| 死亡・後遺障害保険金額 | 1000万円 |
| 入院保険金       | 5000円  |
| 通院保険金       | 2500円  |

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病発の場合(詳細は係まで)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号 (会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」までを記入してください。

### 初詣で山行

北山・大原から天ヶ岳・鞍馬 (一般向き)

期日 1月2日(休) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR山科駅8時43分/③JR京都駅バスのりばC列3番8時35分

コース 山科駅(地下鉄)または京都駅(バス)大原一寂光院前→ミチバタ谷→シャクナゲ尾根分岐→天ヶ岳→三又岳→塞土坂→鞍馬寺→鞍馬鞍馬駅(解散16時10分頃)

費用 約3000円(青春18きっぷ使用、名古屋から)

地図 昭文社『京都北山』

係 小出良春 ○川上久堅

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

※集合駅を明記ください

今年の歩き始めは「平家物語」の大原から。自然林に囲まれた天ヶ岳を経て、鞍馬寺へ歩きます。

\*念のため軽アイゼン持参ください。雨天中止

### 山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込みてください。人数により前もって、パスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。

申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

(初心者) やさしいコース

(初級) となだて歩きます

(一般) ハイキングの標準コース

(中級) かなり経験者のコース

(やや健脚) ・(健脚) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

播磨・書写山と姫路城

曜日 書写山と姫路城 (一般向き)  
期日 1月4日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR姫路駅10時35分

コース 姫路駅(バス)書写山→入堂→ロープウェイ山上駅→仁王門→摩尼殿→妙光院→西坂(バス)姫路城大手門前→姫路城→姫路駅(解放16時頃)  
費用 約3700円(書巻18き、お使用、名古屋から)  
地図 2万5千→姫路北部  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く9 (一般向き)  
期日 1月6日(日) 日帰り  
集合 JR姫路駅北口神姫バス

大文字山から三井寺・小関越え (一般向き)  
期日 1月12日(日) 日帰り  
JR山科駅9時00分  
コース 山科駅→大文字山→三井寺分岐(希望者は三井寺)→小関越え→京阪三井寺駅またはJR大津駅(解放15時頃)  
費用 約1000円(京都から)  
地図 2万5千→京都東北部・京都東南部  
係 ◎兼鹿弘子  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
大文字山から小関越えを歩きま

三重の山50  
鈴鹿・鎌ヶ岳(健脚向き)  
期日 1月12日(日) 日帰り  
集合 近鉄湯の山温泉駅8時45分  
コース 湯の山温泉駅(車)湯の山温泉→三ツ口谷入口→鎌ヶ岳→長谷谷→湯の山温泉(車)湯の山温泉駅(解放16時頃)  
費用 1500円

タミナル9時20分(40分発バス乗車)

コース 姫路駅(バス)法華山一乗寺→八重畑→神谷→砥堀(バス)姫路駅(解放16時30分頃)  
費用 約1500円(バス代)  
地図 2万5千→笠原・姫路北

鈴鹿百山25  
明星ヶ岳・雨引山・平尾 (健脚向き)  
期日 1月6日(日) 日帰り  
集合 JR関西線関駅8時50分  
コース 関駅→明星ヶ岳→明星ヶ岳三角点→最高点→別の尾根を下り→雨引山→平尾→林道→明星ヶ岳→関駅(解放)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千→亀山・鈴鹿峠

自然観察山行79  
北八ヶ岳スノーハイイク  
期日 1月13日(日)14日(祝)  
集合 1泊2日  
コース (13日)岐阜駅(バス)ピラタスロープウェイのりば(ロープウェイ)坪庭→雨池跡→橋枯山→雨池跡→橋枯山(池)  
(14日)橋枯山→坪庭→北横岳→坪庭(ロープウェイ)ロープウェイのりば(バス)岐阜駅(解放)  
費用 約23000円(岐阜駅からバス・宿泊・ロープウェイ代等)

山田明男 ○高原芳彦  
申込み 〒503-0535 海津郡南濃町松山62の19 山田明男まで  
\*定員25名  
\*マイカーの方はその旨ご記入ください。  
新春の1月は昨年の四方草山から東に見えていた山々です。明星ヶ岳の登山道を下の方は通らずに登って下り、雨引山と平尾の三山を廻る欲張りコースです。  
小雨(雪) 決行  
鈴鹿を歩く133  
能登ヶ峰(健脚向き)  
期日 1月6日(日) 日帰り  
集合 大河原「かもしか荘」広場8時30分  
コース かもしか荘(車)誠川林道広場→林道→北尾根取付→P758→P696  
鹿の楽園→能登ヶ峰→誠川林道広場(解放)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」  
係 ◎岩野 明 ○山田景二  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
冬の能登ヶ峰山頂 鹿の楽園をのんびり楽しみます。  
小雨(雪) 決行

六甲・荒地山(一般向き)  
期日 1月6日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR芦屋駅9時35分  
コース 芦屋駅→阪急芦屋川駅→城山登山口→鷹尾山→岩櫨子→荒地山→風吹岩→ロックガーデン→高座の滝→阪急芦屋川駅→芦屋駅(解放15時30分頃)  
費用 約23000円(書巻18き、お使用、名古屋から)  
地図 2万5千→西宮・宝塚  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

夢前町の山では、雪彦山があまりに有名ですが、明神山もよく親しまれている山です。夢のさと農業公園から仰ぐ冬枯れの明神山は、登高欲を盛んにかき立ててくれます(コース変更あり)。雨天中止

静岡・ビク石(一般向き)  
期日 1月13日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口8時15分(京都駅5時29分発で)  
コース 名古屋駅(電車)藤枝駅(タクシー)上大沢→笹川峠→ビク石→ビク石牧場(バスまたはタクシー)藤枝駅(電車)名古屋駅(解放18時頃)  
費用 約4300円(書巻18き、お使用)  
地図 2万5千→伊久美・静岡西部  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
ピク石の数あるコースで最も登りがいのあるコースですが、難しい山ではありませぬ。雨天中止

京都北山歩き100

枝敷ヶ岳(一般向き)  
期日 1月14日(日) 日帰り  
集合 京都出町柳駅発都バスターミナル8時30分

コース 出町柳駅(バス) 岩屋橋  
岩屋不動・菜師峠・鉄塔広場・枝敷ヶ岳・鉄塔広場・須谷谷林道・岩屋橋(バス) 出町柳駅(解散17時頃)

費用 約2000円(バス代)  
地図 昭文社「京都北山1」  
係 ◎村田智俊 ○呉比呂美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

100回記念に京都北山の名峰枝敷ヶ岳に登ります。雪の道も楽しい。\*軽アイゼン必須。  
小雨(雪) 決行

フアミリーハイクラ  
金剛・天見富士の旗尾岳 (一般向き)

期日 1月17日(日) 日帰り  
集合 南海難波駅2階中央口前7時40分(南海高野線で天見駅合流は8時40分)  
コース 南海天見駅・登山口・旗尾

費用 約500円(垂井駅からタクシー代等)  
地図 2万5千1代垣  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の

尾岳一府庁山一田山一クヌギ峠一南海千早口駅  
費用 約1300円(南海難波駅起点交通費)  
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」

係 ◎木村太郎 ○中村友昭  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行80  
美濃・南宮山(一般向き)

期日 1月19日(日) 日帰り  
集合 JR垂井駅8時30分  
コース 垂井駅(タクシー) 南宮大社一南宮山一南宮大社(タクシー) 垂井駅(解散)

大般若のふるさと富士尾岳を始め、金剛山前衛の山城をめぐる。訪れる人影も少ない落ち葉の道を新しい季節への希望を抱いて歩く。雨天中止

美濃・南宮山(一般向き)  
期日 1月19日(日) 日帰り  
集合 JR垂井駅8時30分  
コース 垂井駅(タクシー) 南宮大社一南宮山一南宮大社(タクシー) 垂井駅(解散)

費用 約500円(垂井駅からタクシー代等)  
地図 2万5千1代垣  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の

19の5 鷺見守康まで  
南宮大社に初詣でし、標高404の南宮山をスノーハイキング。  
小雨(雪) 決行

室生・三郎ヶ岳(一般向き)  
期日 1月20日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原駅南口9時30分  
コース 橿原駅(バス) 高井一仏隆寺一高城山登山口一高城山一三郎ヶ岳一明開寺一本院跡一猪木野一高井(バス) 橿原駅(解散15時40分)

費用 約2060円(橿原駅から2万5千1大和野)

地図 ◎西上利和 ○中村英雄  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

鈴鹿を歩く134  
日本コバ(健脚向き)  
期日 1月20日(日) 日帰り  
集合 国道421号線如来堂

山頂の展望はあまり望みませんが、積雪があれば雪山を楽しめます。\*軽アイゼン要。雨天中止

コース 北山ちよと歩き29  
坂本から比叡山(一般向き)  
期日 1月30日(日) 日帰り  
集合 JR湖西線比叡山坂本駅9時00分

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社「京都北山1」  
係 ◎呉山登三  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

平日の高見山は人も少なく、すばらしい霧水をゆっくりと楽しむことができます。\*アイゼン必須。雨天中止

コース 比叡山坂本駅一橋坂一衣掛岩一根本中堂一比叡山頂駅一雲母坂一叡電修学院駅(解散)

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社「京都北山1」  
係 ◎呉山登三  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

伝教大師の修行道をゆっくりに歩きます。途中一回ほどガイドします。雨天中止

平日ふれあいハイク30  
北山・明智橋から愛宕山 (一般向き)  
期日 1月31日(日) 日帰り  
集合 JR保津駅発8時10分

費用 約3500円(大阪から)

地図 ◎亀本廣治 ○前川和子  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

京都北山歩き100

尾岳一府庁山一田山一クヌギ峠一南海千早口駅  
費用 約1300円(南海難波駅起点交通費)  
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」

係 ◎木村太郎 ○中村友昭  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行80  
美濃・南宮山(一般向き)  
期日 1月19日(日) 日帰り  
集合 JR垂井駅8時30分  
コース 垂井駅(タクシー) 南宮大社一南宮山一南宮大社(タクシー) 垂井駅(解散)

大般若のふるさと富士尾岳を始め、金剛山前衛の山城をめぐる。訪れる人影も少ない落ち葉の道を新しい季節への希望を抱いて歩く。雨天中止

フアミリーハイクラ  
金剛・天見富士の旗尾岳 (一般向き)  
期日 1月17日(日) 日帰り  
集合 南海難波駅2階中央口前7時40分(南海高野線で天見駅合流は8時40分)  
コース 南海天見駅・登山口・旗尾

費用 約2500円(京都駅からバス代)  
地図 昭文社「京都北山1」  
係 ◎湯浅次男 ○青木一雄  
申込み 〒569-1133 高槻市川西町1の18の20 湯浅次男まで

比良ワカン山行  
涼峠から釈迦岳(中級向き)  
期日 1月27日(日) 日帰り  
集合 JR湖西線北小松駅9時00分

北山ちよと歩き29  
坂本から比叡山(一般向き)  
期日 1月30日(日) 日帰り  
集合 JR湖西線比叡山坂本駅9時00分

尾岳一府庁山一田山一クヌギ峠一南海千早口駅

費用 約1300円(南海難波駅起点交通費)  
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」

係 ◎木村太郎 ○中村友昭  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行80  
美濃・南宮山(一般向き)  
期日 1月19日(日) 日帰り  
集合 JR垂井駅8時30分  
コース 垂井駅(タクシー) 南宮大社一南宮山一南宮大社(タクシー) 垂井駅(解散)

大般若のふるさと富士尾岳を始め、金剛山前衛の山城をめぐる。訪れる人影も少ない落ち葉の道を新しい季節への希望を抱いて歩く。雨天中止

フアミリーハイクラ  
金剛・天見富士の旗尾岳 (一般向き)  
期日 1月17日(日) 日帰り  
集合 南海難波駅2階中央口前7時40分(南海高野線で天見駅合流は8時40分)  
コース 南海天見駅・登山口・旗尾

費用 約500円(垂井駅からタクシー代等)  
地図 2万5千1代垣  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の

19の5 鷺見守康まで  
南宮大社に初詣でし、標高404の南宮山をスノーハイキング。  
小雨(雪) 決行

室生・三郎ヶ岳(一般向き)  
期日 1月20日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原駅南口9時30分  
コース 橿原駅(バス) 高井一仏隆寺一高城山登山口一高城山一三郎ヶ岳一明開寺一本院跡一猪木野一高井(バス) 橿原駅(解散15時40分)

費用 約2060円(橿原駅から2万5千1大和野)

地図 ◎西上利和 ○中村英雄  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

鈴鹿を歩く134  
日本コバ(健脚向き)  
期日 1月20日(日) 日帰り  
集合 国道421号線如来堂

山頂の展望はあまり望みませんが、積雪があれば雪山を楽しめます。\*軽アイゼン要。雨天中止

コース 北山ちよと歩き29  
坂本から比叡山(一般向き)  
期日 1月30日(日) 日帰り  
集合 JR湖西線比叡山坂本駅9時00分

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社「京都北山1」  
係 ◎呉山登三  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

平日の高見山は人も少なく、すばらしい霧水をゆっくりと楽しむことができます。\*アイゼン必須。雨天中止

コース 比叡山坂本駅一橋坂一衣掛岩一根本中堂一比叡山頂駅一雲母坂一叡電修学院駅(解散)

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社「京都北山1」  
係 ◎呉山登三  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

伝教大師の修行道をゆっくりに歩きます。途中一回ほどガイドします。雨天中止

平日ふれあいハイク30  
北山・明智橋から愛宕山 (一般向き)  
期日 1月31日(日) 日帰り  
集合 JR保津駅発8時10分

費用 約3500円(大阪から)

地図 ◎亀本廣治 ○前川和子  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

京都北山歩き100

尾岳一府庁山一田山一クヌギ峠一南海千早口駅  
費用 約1300円(南海難波駅起点交通費)  
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」

係 ◎木村太郎 ○中村友昭  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

自然観察山行80  
美濃・南宮山(一般向き)  
期日 1月19日(日) 日帰り  
集合 JR垂井駅8時30分  
コース 垂井駅(タクシー) 南宮大社一南宮山一南宮大社(タクシー) 垂井駅(解散)

大般若のふるさと富士尾岳を始め、金剛山前衛の山城をめぐる。訪れる人影も少ない落ち葉の道を新しい季節への希望を抱いて歩く。雨天中止

フアミリーハイクラ  
金剛・天見富士の旗尾岳 (一般向き)  
期日 1月17日(日) 日帰り  
集合 南海難波駅2階中央口前7時40分(南海高野線で天見駅合流は8時40分)  
コース 南海天見駅・登山口・旗尾

費用 約500円(垂井駅からタクシー代等)  
地図 2万5千1代垣  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨町1の

19の5 鷺見守康まで  
南宮大社に初詣でし、標高404の南宮山をスノーハイキング。  
小雨(雪) 決行

室生・三郎ヶ岳(一般向き)  
期日 1月20日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原駅南口9時30分  
コース 橿原駅(バス) 高井一仏隆寺一高城山登山口一高城山一三郎ヶ岳一明開寺一本院跡一猪木野一高井(バス) 橿原駅(解散15時40分)

費用 約2060円(橿原駅から2万5千1大和野)  
地図 ◎西上利和 ○中村英雄  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

鈴鹿を歩く134  
日本コバ(健脚向き)  
期日 1月20日(日) 日帰り  
集合 国道421号線如来堂

山頂の展望はあまり望みませんが、積雪があれば雪山を楽しめます。\*軽アイゼン要。雨天中止  
コース 北山ちよと歩き29  
坂本から比叡山(一般向き)  
期日 1月30日(日) 日帰り  
集合 JR湖西線比叡山坂本駅9時00分





申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください

十一坊は岩根山の最高峰。菩提寺山は甲西富士と呼ばれ、二山に三角点があります。雨天中止

### 自然観察山行82

美濃・貝月山(中級向き)

期日 2月16日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分

コース 大垣駅(バス)掛交高原

スキー場ふれあいの森

公園・貝月山ふれあいの森

公園(バス)大垣駅(解散)

費用 約3500円(大垣駅からバス代等)

地図 2万5千横山・美東

係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828

各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで

\*定員30名

昨年は大雪にはばまれて撤退した厳冬の貝月山スノーハイイクに再挑戦します。荒天中止

### 台高・三峰山(一般向き)

期日 2月16日(日) 日帰り

集合 近鉄榛原駅南口9時00分(15分発バス乗車)

コース 榛原駅(バス)奥宇陀青

少年旅行村(林道終点)

不動の滝・遊林小原・三

歌峠・三峰山・八丁平

三歌峠・新道・高見山分

岐・林道終点・奥宇陀青

少年旅行村(バス)榛原

駅(解散)

費用 約5000円(大飯かき

地図 2万5千菅野

係 ◎亀本廣治◎前川和佳子

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

奥宇陀の最高峰三峰山は、稜線

から山頂にかけての霧水が美しい

よく晴れた日には、山頂および下

山途中の尾根から、室生火山帯の

山々が一望できる素晴らしい展望

も得られる。\*アイゼン必須。

雨天中止

室生・額井岳(一般向き)

期日 2月17日(日) 日帰り

集合 近鉄榛原駅南口10時10分

コース 榛原駅南口(バス)玉立

橋・額井岳登山口・額井

岳・戒場峠・戒場山・戒

長寺・山部赤人の墓・十

八神社・天満台西2丁目

(バス)榛原駅(解散15

時10分)

費用 約1860円(鶴橋駅か

地図 2万5千初瀬

係 ◎西上利和 ◎中村英雄

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員20名(会費に限り)

香静峠から額井岳へと冬景色の

室生の山々を眺めながら戒場山ま

で縦走します。軽アイゼン要。

雨天中止

奈良・一体山(一般向き)

期日 2月17日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古原駅地下6時

30分/②JR奈良駅10時

10分

コース 奈良駅(バス)大櫛生口

林道入口・主稜線鞍部

鉄塔台地・一体山・大

平尾上出・大櫛生口(バ

ス)近鉄・JR奈良駅

(解散16時20分頃)

費用 約5800円(名古原か

ら)

地図 2万5千奈良・柳生

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください

里山の車道歩きもある山です。

簡単な山なのでかえってルート

を探して歩くのが難しい山です。

雨天中止

平日水曜ハイイク49

台高・明神岳(やや健脚向き)

期日 2月20日(日) 日帰り

集合 近鉄榛原駅8時00分

コース 榛原駅(タクシー)大又

林道終点(あしひ山荘崩

壊跡)明神平・明神岳

往跡・大又林道終点(タ

クシー)榛原駅(解散17

時30分頃)

費用 約4500円(タクシー

代)

地図 昭文社「大台ヶ原」

係 ◎湯浅次男 ◎青木一雄

申込み 〒569-1133

高槻市川西町1の18の20

湯浅次男まで

\*定員30名(会員優先)

地 5万北小松

係 ◎山本久雄

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員10名程度

リフト・ロープウェイには乗り

ません。すべて徒歩です。ワカン

を持参ください。同じ場所に着

ますのでマイカーで参加も可。

雨天中止(雪は法行)

鈴鹿・綿向山から竜王山

(一般向き)

期日 2月24日(日) 日帰り

集合 ①JR京都駅7時46分発

乗車/②近江鉄道貴生川

駅8時40分発乗車

コース 京都駅(電車)草津駅

(電車)貴生川駅(電車)

近江鉄道日野駅(タクシー)

北畑谷林道登山口・ヒミ

ズ谷合小原・五合目小

原・七合目行着堂・綿向

山・竜王山・水木谷林道

・西明寺(タクシー)日

野駅(解散16時頃)

費用 約4000円(電車・バ

ス代)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ

### 比良を歩く8

蛇谷ヶ峰(やや健脚向き)

期日 2月24日(日) 日帰り

集合 JR湖西線近江高島駅8

時55分(58分発のバス乗

車)

コース 近江高島駅(バス)畑

ボボフツ峠・滝谷ノ頭

蛇谷ヶ峰・P817・富

坂尾根・高坂口(バス)

近江高島駅(解散17時頃)

費用 約3800円(大坂駅か

ら)

地図 2万5千北小松

係 ◎秦 康夫

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

本誌の巻頭、種別状況によ

ては、交替でラッセルが必要にな

ります。状況次第でコース変更あ

り。小雨(急)決行

湖東・青竜山(初級向き)

期日 2月24日(日) 日帰り

集合 JR名古屋駅中央改札口

8時00分/JR彦根駅9

時35分

コース 彦根駅(電車)近江鉄道

多賀駅・胡宮神社・青竜

山・あずまや・胡宮神社

・多賀大社・多賀大社駅

(電車)彦根駅(解散14

時25分頃)

費用 約3000円(名古屋か

ら)

地図 2万5千高宮

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*集合駅を明記ください

だれでも気軽に登れる山です。

帰りは多賀大社に寄ります。

雨天中止

比良ワカン山行

リフト道から釈迦岳(中級向き)

期日 2月24日(日) 日帰り

集合 比良リフト山麓駅前9時

00分

コース 比良リフト前・リフト道

・ロープウェイ駅・釈迦

岳・北比良峠・神兩谷

(またはタケ道)・比良

駅(解散)

費用 約2000円(交通費)

地 5万北小松

係 ◎山本久雄

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

\*定員10名程度

リフト・ロープウェイには乗り

ません。すべて徒歩です。ワカン

を持参ください。同じ場所に着

ますのでマイカーで参加も可。

雨天中止(雪は法行)

鈴鹿・綿向山から竜王山

(一般向き)

期日 2月24日(日) 日帰り

集合 ①JR京都駅7時46分発

乗車/②近江鉄道貴生川

駅8時40分発乗車

コース 京都駅(電車)草津駅

(電車)貴生川駅(電車)

近江鉄道日野駅(タクシー)

北畑谷林道登山口・ヒミ

ズ谷合小原・五合目小

原・七合目行着堂・綿向

山・竜王山・水木谷林道

・西明寺(タクシー)日

野駅(解散16時頃)

費用 約4000円(電車・バ

ス代)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ

道路事情により林道終点まで行けないことがあります。2月になると雪が固まって外歩きやすいかも、すばらしい樹水が見られたら最高ですね。\*アイゼン必須、ワカンがあればなおよし。荒天・雨天中止

冬色が誘われて隔たまりハイイク

播磨・古法華から笠松山

(一般向き)

期日 2月24日(日) 日帰り

集合 JR加古川駅構内⑤番

ホーム8時40分

コース 加古川駅(JR)北条鉄

道 播磨下里駅・善防山

・古法華・笠松山・長

北条鉄道(JR)加古

川駅(解散16時頃)

費用 約1300円(加古川駅

より)

地図 2万5千笠原

係 ◎古賀慶一

申込み 〒675-0112

加古川市平岡町山之上684

の33・17A403

古賀慶一まで

低山でちよっと小粒で、気楽な

ハイキング。春山に備えて体を動

かしてみませんか。雨天中止

係  
◎村田智俊  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

鈴鹿を歩く136  
霊仙山西南尾根(健脚向き)  
期日 2月24日(日) 日帰り  
集合 河内線「河内の風穴」手  
前寺院広場8時30分  
コース 寺院広場―落合―汗ふき  
峠―霊仙山―最高峰―西  
南尾根―笹峠―オオジヤ  
レの頭―行者コバ―あけ  
ん原―寺院広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「霊仙・伊吹・  
藤原」  
係 ◎若野 明 ○山田景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
毎年恒例の真冬の霊仙山西南尾  
根山行です(21号44ページ参照)。

小雨(雪)決行  
北山ちよつと歩き30  
十三石山から氷室・船山  
(一般向き)  
期日 2月27日(水) 日帰り  
集合 京阪出町柳駅京都バスの  
りば7時20分(28分発に  
乗車)  
コース 出町柳駅(バス)市ノ瀬  
―高樹峠―十三石山―瀧  
樹峠―氷室―船山―ゴル  
フ場―市バス西賀茂車庫  
前(解散15時30分頃)

費用 約1000円(京都から)  
地図 昭文社「京都北山」  
係 ◎眞山景三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
十三石山は展望が開け、京都市  
街の輪郭がよくわかる。船山では  
大文字の火床を見る。そこからの  
展望も抜群。雨天中止

日本山岳会機関誌『山岳』創刊100年記念  
復刻 山岳 創刊号 第1期  
2005年から2006年にかけて、日本山岳会は創刊100年  
を、『山岳』も創刊100年を迎えようとしています。その  
偉大な足跡を祝して『山岳』創刊号(全101号)を復刻  
刊行いたします。  
今期刊行の第1期は、日本登山史の形成期を境のように  
映しており、発行記をはじめ、すべての論稿が特異であ  
る山岳文化の結晶として輝いています。

第1期 全11巻  
第1年―第11年  
創刊年  
1906(明治39年)  
～1916(大正5年)  
総頁  
7800ページ  
仕様  
刷り、上製、  
粘着入

●カタログを用意  
しております。下  
記へご請求下さい。  
\*分割払い、ボーナス払いもできます。

第1期定価:138,000円(税別)  
東京都文京区本郷1-1-1 (〒113-0033)  
TEL03-3816-3871 FAX03-3816-3873  
E-mail:info@atnesohobo.co.jp

アテネ書房

ヒマラヤグリーンクラブ(HGC)  
10周年記念講演・祝賀懇親会  
平成14年2月10日(日)10時～15時  
京都タワーホテル(京都駅前)  
会費6000円  
(徳語)  
●カラコルムの緑・シベリアの森  
永田秀樹(「岳人」編集長)  
●私の会ったすてきな人たち  
峯尾武男(元NHKアナ)  
(参加希望者は)  
〒520-0835  
大津市別保1の8の32  
御池吉道まで  
(TEL/郵)  
077(537)0564  
1月10日まで  
20002年  
国際ボランティア隊員募集  
(問い合わせ・資料請求)  
〒520-0843  
大津市北大路3の5の7  
遠藤寛子まで  
☎077(534)0911  
☎077(534)0984

山行報告  
(9・10月号)  
新ハイキングクラブ関西

美濃・魚金山(自然観察山行)  
9月1日(日) 晴れ  
JR大垣駅8・40(バス)のりこ  
し峠10・00(高尾山)10・50(魚金  
山)12・00(昼食)13・00(高尾山  
13・50)のりこし峠14・40(バス)  
谷汲温泉15・30(入浴)16・00  
(バス)大垣駅17・00(解散)  
やぶもあり、道も不明確な所が  
あるため何度か皆でルート探し。  
期待した秋の花も時期が早過ぎた  
ようで、この季節には少し不向き  
な山だったかもしれせん。やぶ  
漕ぎで汚れた体を洗った谷汲温泉  
はなかなか好評でした。  
(参加者)入江武史、岩本彰子  
尾崎光子、川島勝美、加納由紀子  
木下朝子、小松左信、斎藤妙子  
藤原 邦、島田信吾、吉戸喜久江  
夏山春子、堀田輝子、村井寿和  
森 昌好、山本宣治 (計18名)  
◎見守 守康

六甲・有馬三山  
9月2日(日) 晴れ  
神鉄有馬温泉口駅集合10・40(緒  
ノ巻)11・20(仏谷)11・30(仏谷  
峠)12・10(高尾山)12・30(湯涌谷  
峠)12・40(昼食)13・30(灰形山  
14・02)07(落葉山)14・37(47  
有馬温泉)15・05(解散)  
仏谷に向かう途中、湯涌登山中  
の山岳会に出会った。自然林の続く  
コースは高尾山を入れると有馬三  
山のような気がする。道標は整っ  
ていて安心して歩けるコースだっ  
た。  
(参加者)小田朝子、中嶋日出男  
森 瑞代、横川常雄、中尾美穂子  
松本康哉、辻村幸裕、渡辺美代子  
森 晴代、山根弘美、小崎由利子  
飯田愛子、野間起夫、岩本いすゞ  
市野博文、吉藤孝次、飯田良子  
和田俊章、梶比呂美、寺田久広  
福井清之、澤井洋子、竹田善英  
森澤照子、北川史枝、真田明子  
◎涼下淳一 ○中村英雄  
◎小出良春 (計29名)

南比良峠から堂満岳・北比良峠  
9月9日(日) 晴れ  
JR野田駅集合8・40(50)タク  
比良を歩く4)  
シ)坊村9・25(35)牛コバ10・  
20(30)大権12・00(昼食)12・  
40(南比良峠)13・02(堂満岳)登り  
口13・22(35)堂満岳13・50(14・  
00)金峯峠14・20(30)北比良峠  
15・00(ダケ道)大山口16・25(1  
イン谷)口16・40(解散)  
奥の深谷の水量が多くて、テッ所  
の徒歩に苦労したが、ほぼ順調に  
予定通り歩いた。ダケ道を下山中  
突然通り大群に襲われ、半数近く  
の人が数ヶ所ずつ刺された。この  
コースは用心ください。  
(参加者)松尾麗子、里見輝生  
本間 隆、司別方美、渡辺利子  
山下晴美、森本健雄、柳菜市郎  
亀本廣治、亀本秀子、中村啓一  
福岡 章、馬籠忠男、岩瀬健司  
磯野重治、武部 剛、武部美美子  
妹尾公代、澤井洋子、辻 行子  
白根清子、島田京子、中川光郎  
長尾一令 ○涼下淳一 (計26名)  
◎桑 康夫

大尾・電ヶ岳  
(鈴鹿を歩く126)  
9月9日(日) 晴れ  
白谷線分岐広場集合8・25(白谷  
峠)9・10(PT)7・0(9・35)長  
池9・50(西峰)往復10・30(白谷  
大尾山から笹間ヶ岳  
大尾の稜線はすばらしい深い樹  
林が続き、長池は周りの樹木と青  
空を映していた。白谷線頭のカレ  
場は白くもろい花崗岩。急登のキ  
レットはスリル満点。未踏電ヶ岳  
西斜面を登り、ヤマカンスゲの広  
場で昼食。電ヶ岳は木陰がなく暑  
い暑い。早々に石神峠に下山し  
た。  
(参加者)後藤康幸、武藤由美子  
磯部 純、今井武司、武村千鶴  
高原芳彦、林 一夫、高津智美  
森本 勝、森本洋子、吉岡 仁  
高坂 清、宮川敬明、南 智恵子  
福越武敏、櫻田勝利、永戸鉄治  
吉藤孝次、吉村 昭、寺井恒夫  
金谷 昭、安田良朗、網本美恵子  
原 光一、原 幸子、伊藤喜久男  
西村文明、池田隆一、湯浅みゆ子  
小田朝子、鈴木 庸、田尾 肇  
茨木良雄、山田明男、山野志保江  
◎山田景三 ◎若野 明 (計37名)  
湖南アルプス  
大神山から笹間ヶ岳

9月9日 晴れ

J R石山駅集合8・50〜55(バス) 新免9・22―登山口9・45〜50― 展望台10・10〜15―天狗岩11・45 50―不動寺12・15―大神山12・ 25(昼食)13・03―出合峠14・00 18宮ヶ岳14・13〜18―出合峠14・ 30―御台河原15・20―笹間ヶ岳16・ 05―上関17・10(バス)石山駅17・ 45(解散)

新免からのコースは樹林の続く すがらしい道だったが、大神山ま までかなりの時間がかかってしまっ た。笹間ヶ岳まで足をのびしたの でロングコースになった。

(参加者) 廣東 邦 中嶋日出男 小谷和子 岩田育士 前田喜久子 小田朝子 堀尻香織 中西規弥好 角田一江 木間孝子 砂原恵美子 清水昭三 荒木光雄 森 美香子 川上久堅 西村耕一 石井恵美子 佐藤新一 佐藤妙子 高岡富美子 萬代 猛 酒井悦子 小原きぬ子 多賀久子 森 晴代 疋 すみ子 美村孝治 真田義男 渡辺美代子 山口喜弘 立田明子 中尾美智子 横坂栄一 中村静香 野々山 寛 加藤元彦 佐野信江 東 美智子 ○市野博文 ○辻村幸裕 (計41名)

二上山から大和葛城山

(タイムレコーダ)

9月9日(日) 曇り時々晴れ 近鉄二上神社口集合8・30―上神 社口分岐―二上山(雄岳)9・50 1(雄岳)―平石峠11・30―岩橋 山12・15(昼食)12・50―一本松 分岐―大和葛城山15・10―権羅ノ 滝16・15―ロープウェイ前16・32 (バス)近鉄御所駅16・47(解散)

心配していた台風の影響もさほ どなく、ヤマジノホトトギスやク スの花に出会った。秋の訪れを感 じながら行き交う人も少なく、静 かな山行を楽しんだ。

(参加者) 木村 豊 竹田美英 東山燈夫 大和 絃 風見瑞子 岡本英樹 山根弘美 小林 桂 瓜取利明 松本忠雄 村田はる江 ○中村英雄 ○西上和利(計13名)

三重・白猪山

(近畿百名山に登る31回)

9月15日(日) くもり時々雨 近鉄八木駅集合8・00〜10(バス) 阪内10・40―林道分岐の橋口・10 15―林道登山口11・40〜45―夫 婦杉12・25―白猪山12・40(昼食) 13・30―夏間渡分岐13・40―都14・ 10〜15―大石不動院駐車場15・00

30(バス)八木駅18・10(解散)

阪内から林道を一時間歩いてやっ と登山口に着いた。ゆるやかなコー スで夫婦杉を過ぎるとすぐ白猪山 に着いた。山頂はあいにくの雨に なり展望はなかった。リンドウな どの秋の花が咲いていた。

(参加者) 松尾麗子 中嶋日出男 高岡信男 奈良邦子 岡田豊治 木村 豊 小谷和子 入江武史 中村和江 松井菊子 中西規弥好 宮本真幸 宮本悦子 木村千代子 松原 節 遠藤 幸 前川和佳子 沖 伸 中島 隆 三下須美恵 浅田俊男 堀尻香織 永富律子 辻村幸裕 片山克博 片山喜代子 森本幹雄 角田一江 伊藤俊子 田口寿一 田口富子 高岡富美子 岩本彰子 大谷章子 広田不佐子 本落五夫 秋田補師 村上高子 岩鶴健司 佐野信江 武部美美子 松尾一郎 西居俊弥 西原粉子 中谷孝子 黒田明子 速水 保 ○安倉正勝 ○呉比呂美 (計50名)

雨乞岳・七人山(鈴鹿百山2)

9月16日(日) くもり JR関ヶ原駅8・20/近鉄湯の山 温泉駅9・25各集合(車) 武平峠

上田久子 宇野日星 横川ゆり子 高木 晋 藤尾健治 水本加津栄 吉本貞子 吉野 房 宮澤知代子 森本幹雄 ○前川和佳子 ○亀本廣治 (計17名)

六甲

運葉峠から座頭谷・蘆葉山

(平日水曜ハイイク)

9月19日(日) 晴れ

阪急宝塚駅集合8・15〜30(バス) 座頭谷8・45〜58―蘆葉峠9・06 1―屏風岩9・10―蘆葉峠9・21― 座頭谷9・38―座頭谷座頭10・34 1―東六甲線走路分岐(大平山中腹) 11・30―大平山三角点11・35―山 頂下11・43(昼食)12・30―大谷 乗越12・46―蘆葉山 岩倉山分岐 13・30―塩屋寺13・41〜14・00― 宝塚宝来橋14・30(解散)

蘆葉峠の針葉岩骨の景観を楽し みながら座頭谷を上る。本日の 水量は少ないが、いつ来ても大雨 のため川底が変化している。午後 からは六甲線走路の木陰を快適に 歩いた。

(参加者) 木村 豊 岩本彰子 馬籠忠男 東山燈夫 松尾麗子 遠井方子 吉藤孝次 砂原恵美子 中川光郎 板井克久 竹花 宏

9・45〜10・00―沢谷峠10・30― 郡境尾根9・76分11・00―三人山 11・35(昼食)12・15―東雨乞岳 12・45―雨乞岳往復―東雨乞岳13・ 25―七人山との鞍部13・45―七人 山14・00―クラ谷14・25―沢谷峠 15・00―武平峠15・45〜55(解散)

1050以上はガスがかかっ ていた。東雨乞では風も強く霧雨 が降り、半分の人々が雨乞岳を往復 したが、雨乞岳はガスにおおわれて いたが、御在所岳・鎌ヶ岳は午後 には全景が見られた。

(参加者) 小松志信 加納由紀子 本間 隆 吉藤孝次 小林 桂 後藤康幸 武村千鶴 茨木良雄 磯部 純 金谷 昭 川本 隆 西村文男 堀 寿江 武藤由美子 石田倫子 山村恭男 山野志保江 栗本敏夫 伊藤 直 六戸喜久江 鈴木 浩 鈴木友子 伊藤恵美子 岩田育士 岡田豊治 宮路ちへ子 池田 茂 多賀久子 落合ひろ子 島居信吾 宮田伸子 春見重美 ○高原芳彦 ○山田明男(計31名)

三河・鞍掛山から若古谷山

9月16日(日) 晴れ JR本長篠駅9・15(タクシー) 塩津温泉9・52―稜線のコル10・

平田義男 梶原泰彦 成川みさお 押本吉生 妹尾正一 南 ミヤ子 辻 富子 角江朝子 岩本いすゞ 白根清子 辻 行子 光川一美子 加藤国計 谷 守 千藤千枝子 美村孝治 竹田善美 ○青木一雄 ○湯浅次男 (計30名)

河内・神津嶽

(ファミリーハイイク)

9月20日(日) 晴れ

近鉄枚岡駅集合10・00〜20―枚岡 山展望台10・45―神津嶽10・55― ぼくらの広場11・40(昼食・リク レーション)13・00―鳴川峠13・ 30―千光寺14・20〜35―近鉄元山 上口駅15・35(解散)

神武東征伝説ゆかりの地、神津 嶽でいしえに思いを馳せる。青 空の下、若い気分に戻って園地で 野外ゲームを楽しんだ。鳴川峠を 越えて鳴川溪の石仏群、秋色染め 始めた棚田を見て、和気あいあい と元山山口駅へくだった。

(参加者) 岩本彰子 高木 晋 村上嘉子 飯田良子 中澤ちず子 中山峰雄 川上久堅 二宮 元 本間昭恵 ○中村友昭 ○木村太郎 (計11名)

47〜11・00―鞍掛山11・20〜30― 稜線のコル11・50(昼食)12・20 御殿峠12・52〜57―若古谷山14・ 47〜15・00―堤石峠15・15―和市 15・50(タクシー)本長篠駅16・ 15(電車)名古屋駅18・55(解散) 駅からタクシーを利用したので 予定時間に帰ってくる事ができ た。コースガイド通り歩いたなら 時間がかかりすぎ、名古屋からの 日帰りは無理だろう。

(参加者) 前川久枝 小崎由利子 岡本美智子 ○吉村 昭 (計5名)

近畿自然歩道

山陽路コースを歩く6

9月16日(日) 晴れ

J R三ノ宮駅集合8・20〜45(バ ス) 新原9・25―八幡宮10・25― 無動寺11・10―途中12・00(昼食) 12・30―中ノ峠13・15―神戸青少 年公園13・50〜14・15―JR農協 バス停(バス)JR三田駅16・20 (解散)

雨樋が美り、マンジュニシヤゲが あぜを縁どる里中の道を行く。な ぜか今年はキノコが多く、カラフ ルなキノコを楽しんだ。

(参加者) 宮下淳一 岡田恵美子

岡田 昇 中村静香 今村 眞 秋田補師 佐野信江 田中三恵子 岩城豊子 大前静子 大前千代子 美村孝治 三輪芳子 松本忠雄 住田源隆 森 瑞代 河崎妙子 加来昌子 野間理夫 小林豊子 小山 輝 小田朝子 瀧尾健治 ○須磨岡 暢 (計24名)

仏隆寺から室生寺

(大和路ハイイク)

9月18日(日) 晴れ

近鉄磯原駅南口集合10・00〜15 (バス) 高井10・30―仏隆寺11・ 05〜25―唐戸峠11・55(昼食)12・ 40―天子橋13・05―藤折地蔵13・ 10―西光寺13・20―室生寺13・30 14・40―室生寺前14・55(バス) 阿蘇峠15・05―室生口大野駅16・ 00(解散)

秋晴れの仏隆寺石段の両側に真っ 赤に咲いているヒガンバナを満喫。 寺の中では黄や白の花、天子橋で は萩の花が今を盛りと咲いていた。 室生寺では修復なった五重塔、仏 様に逢い急な石段を奥の院へ登っ た。室生寺からバス組と徒歩組に 分かれて室生口大野駅へ。

(参加者) 岩本彰子 並木壽子 石林文夫 中村英雄 中村恵美子



万岳荘7・00―大判山8・40―恵  
那山11・15(昼食)13・05―大判  
山15・00(バス)湯沢温泉  
15・30(入浴)17・00(バス)草  
津駅20・30(解散)／(B)馬鹿  
民宿7・00(バス)神坂峠7・50  
―大判山9・30―恵那山12・10  
(バス)13・00―大判山16・  
00(バス)湯沢温泉(Aとバス)  
17・00(バス)草津駅20・30(解  
散)

参加希望が多く定員増で二台の  
バスで行った。万岳荘泊(自炊)  
25名(A)と馬鹿民宿泊22名(B)  
と二グループに分かれて行動した。  
富士見台からの大展望と紅葉見  
盛りの恵那山がとてよかった。  
万岳荘も美しく整備されたりっば  
な宿舎になっていた。黒井沢コー  
スは春まで通行止めで神坂峠か  
ら往復した。  
(参加者)松尾剛子 小田潤子  
黒井洋子 武部 剛 武部美奈子  
石浜倫子 森 瑞代 田中善雄  
木下昭子 原 文子 安田文美江  
呉比呂美 松村雅子 白鳥恵子  
辻村幸治 岡田豊夫 前田喜久子  
岩田育夫 東山聖夫 吉藤孝次  
佐田次男 中山正敏 中井ひろみ  
北村 正 北村 梢 山盛加奈子

中村静香 中谷肇子 入江武史  
若松朝子 福田節子 伏見礼司  
金森弘子 吉福 清 井林寿奈子  
中澤昭子 馬場勇 野里マツ代  
大谷孝子 木寺直子 光川一美子  
川田洋子 松尾一郎  
(A)〇青木一雄 〇菅野東彦  
(B)〇秋田補郎 〇村田智彦  
(計47名)

入道ヶ岳(鈴鹿を歩く128)  
10月8日(日) 晴れ  
元機谷林道手前広場集合8・30―  
仙ノ谷橋9・10―林道終点9・40  
―水沢峠10・30―イワクラ尾根分  
岐10・55―仏岩11・25―入道ヶ岳  
12・20(昼食)13・00―土庫峠14・  
30―水沢峠14・45―林道終点15・  
25―集合広場16・25(解散)  
主稜線のとて一気に入道ヶ岳が開  
け、紅葉も始まっていた。イワク  
ラ尾根が約140m一気に下り、  
岩尾根から最後の急登。アセビの  
群落に変わると低いササ原をくだ  
り、登り返すと入道ヶ岳に着いた。  
奥の院にはリンドウが咲き誇って  
いた。復路も一気の下りと急登は  
つらい。広場に着くと万歩計は三  
万歩を越えていた。  
(参加者)後藤康幸 磯部 純

武村千鶴 小林 稔 高坂 清  
大石裕美 吉村 昭 奥野太一郎  
原 光一 原 孝子 武藤由美子  
湯浅康夫 高原芳彦 松岡昭昭  
谷 守 梶原泰彦 石田真由美  
神野孝允 安田良剛 森本 勝  
森本淳子 高津智美 加藤園計  
精方由子 小林 桂 〇山田景三  
〇菅野 明 (計27名)

上信越・雨降山と奥花自然園  
(自然観察山行73)  
10月12日(日)夜14日(月)  
前夜泊1泊2日  
(12日) 晴れ J R 碓氷駅集合8・  
00(バス) 〇(バス) 雨降山  
(13日) くもり(バス) 雨降山  
荘5・40(朝食)6・40―中ノ池  
8・50―9・00―西平9・50―雨  
降山10・20(昼食)11・00―西平  
11・30―荒菅沢12・35―広河  
原14・00―15―小谷温泉登山口14・  
30―45(バス) 鬼無里荘16・10  
(泊)  
(14日) 晴れ 鬼無里荘7・40  
(バス) 奥花観光センター駐車  
場8・20―奥花の森散策―駐車  
場10・50(バス) 岐阜駅17・35  
(解散)  
深田百名山の雨降山は登山者で

大混雑、めかろくに神経をつかい  
ながら、雨降山奥側からの急登を  
登り小谷温泉側からだった。ガス  
がとれそうとなく、展望は得ら  
れなかったが、あてやかな紅葉を  
楽しんだ。2日目の奥花の森は  
人出もなく、さわやかに燃えるブ  
ナの原生林は実にすばらしかった。  
出発間際のアクシデントで2名の  
方が山行を断念し、18名で行っ  
た。

(参加者)石川 徹 岩田育士  
緒方由子 加藤元彦 荻野美紀恵  
金森節子 小松志信 加納由紀子  
夏山寿子 三井敏一 鈴木美代子  
村井寿和 横井 徹 横井恭子  
光川一美子 安田文美江  
〇菅野東彦 〇菅見守康(計18名)  
北比良峠から武奈ヶ岳・地蔵峠  
(比良を歩く5)  
10月14日(日) 晴れ  
J R 比良駅集合8・45―9・00  
(バス)リフト山麓駅9・15―25  
(リフト・ロープウェイ)山上駅  
10・00―10―イブキノコバ10・  
35―45―武奈ヶ岳11・25―35―細  
川越手前11・55(昼食)12・30―  
細川越12・32―約櫃岳12・50―地  
蔵山13・55―14・05―広城林道出

合14・40―畑バス停15・10(解散)  
淡い紅葉にほどよく彩られた山  
肌を眺めながら、のんびり緩歩  
きした。約櫃岳への登りでは人怖  
じないホンガラスが、2〜3m  
の間に道案内をしてくれて楽し  
かった。

(参加者)長尾一令 小林 稔  
柳葉市郎 田中善雄 森本健雄  
中村啓一 武部 剛 佐野信江  
岩崎健司 前田初雄 矢野 克  
多賀岡一 伏見礼司 川北重美子  
森本 勝 森本淳子 岩本いすゞ  
林尾公代 中川光郎 横川ゆり子  
若林文夫 〇宮下淳一  
〇秦 康夫 (計23名)

兵庫丹波・千丈寺山  
10月14日(日) 晴れ  
J R 三田駅集合10・35―40(バス)  
乙原口・10―林道11・40―峠11・  
57―祠の広場12・30(昼食)13・  
05―千丈寺山13・15―20―千丈寺  
山前山13・35―北浦天満宮14・22  
―北浦14・27(バス)三田駅15・  
00(解散)  
峠への道がわかりにくく全頁で  
探しながら行った。峠からはよい  
道が続いていた。千丈寺山は一等  
三角点の山だが、人があまり登っ

ていない静かな頂だった。  
(参加者)村上春代 高岡富美子  
石原順次 西原裕子 中西祝彦好  
黒河内東洋明 石井恵美子  
堀内香織 速水 保 中嶋日出男  
飯田光雄 宮崎佳彦 小谷和子  
荒田裕美 佐藤新一 佐藤砂子  
長沢佑美 小林 桂 吉岡美津香  
松本忠雄 角田一江 市野博文  
大和 敏 〇辻村幸裕  
〇福岡 章 〇小出良春(計26名)

大山の展望台・三平山  
10月14日(日) 晴れ  
J R 西明石駅集合8・30(バス)  
―登山口11・02―三平山11・55  
(昼食)12・55―白髪14・30―や  
つか温泉15・55(バス)西明石駅  
18・35(解散)  
大山に少し雲がかかったが満足  
する眺めだった。下山は道なき道  
のやぶ漕ぎもあり、変化のある山  
行きとなった。  
(参加者)小田潤子 森 瑞代  
松尾剛子 東山聖夫 森喜美子  
美村孝治 岡田 昇 岡田美奈子  
吉藤孝次 宮本真幸 宮本悦子  
岩崎孝子 島田亮子 川上香代子  
真田久子 平敏孝子 前田喜久子  
中村静香 野口 修 八木八重子

柴田幸子 船越利明 船越みよ子  
小山 輝 秋田補郎 砂原恵美子  
斎藤妙子 〇井上 保(計28名)

台高・駒岳から木ノ実ヤ塚  
10月15日(日) 晴れ  
近鉄榛原駅南口集合9・10―15  
(バス)大又10・24―菅野神社登  
山口10・40―大鏡池12・30(昼食)  
13・00―駒岳14・00―木ノ実ヤ塚  
14・35―二階岳15・00―表谷県道  
15・20―妻谷17・00(バス)榛原  
駅18・20(解散)  
駒岳から雄大な展望に感動し、  
色つき始めたブナ林の尾根に足跡  
を残した。

(参加者)高岡信男 中尾美智子  
竹田善英 中谷肇子 木村 豊  
森 明代 柳川常雄 砂原恵美子  
山根弘美 磯部 純 前川和佳子  
隣 寿子 池田 茂 岩本彩子  
松田和恵 林 進 梶原泰彦  
細野敏也 〇中村英雄  
〇西上利和 (計20名)

紀北・生石ヶ峰  
(ファミリーハイク5)  
10月18日(日) 〇木村太郎  
・台風接近と雨天のため中止し  
ました。

台高・大杉谷から大台ヶ原  
(週末ハイク35)  
10月20日(日)21日(月) 1泊2日  
(20日) 晴れのちくもり 近鉄松  
阪駅集合9・20―30(タクシー)  
宮川第三養老所登山口11・20―30  
―興合原11・50(昼食)12・45  
―日浦杉原13・25―10号湯池13・  
40―50―シシ淵14・30―45―平等  
岩尾橋15・05―加茂助尾橋15・  
25 桃の木山の家15・40(泊)  
(21日) くもり 桃の木山の家6・  
30―七ツ釜滝6・55―7・00―七  
ツ釜滝吊橋7・15―光滝7・45―  
8・05―隠滝8・15―八郎滝8・  
20―堂倉吊橋8・35―堂倉滝8・  
40―50―堂倉小屋9・50―10・05  
―シヤクナゲ平11・20(昼食)12・  
00―日出ヶ岳12・35―50―尾鷲辻  
13・45―大台ヶ原駐車場14・20―  
45(タクシー)大和上市駅16・05  
(解散)  
吊橋でつながる宮川の水平歩道  
を通った。十分に整備された道は  
安心して溪谷美を楽しむことがで  
きた。2日目は、大台ヶ原へ登る  
にしたがってガスが出て、ガスの  
合間から紅葉や滝を望みながら日  
出ヶ岳に着き、鹿とトウヒの立ち  
枯れ、紅葉を楽しみながら止木ヶ

10月18日(日) 〇木村太郎  
・台風接近と雨天のため中止し  
ました。

原を散策して駐車場へお入り。  
(参加者) 森 晴代 中尾美智子  
角田一江 船越利明 船越みよ子  
小谷和子 岡田直規 金森節子  
白田忠子 秋田博樹 森 美香子  
佐藤嘉治 谷 久雄 木村千代子  
三井敏一 山本京子 荻野美紀恵  
川崎忠男 吉植 清 小林 桂  
島尾信吾 増尾香織 伊藤 直  
徳田暢子 夏山春子 森 瑞代  
佐々木美千代 ○瓜取利明  
◎狩野東彦 (計29名)

大峰・中八人山  
(近畿百名山に登る32回)  
10月20日出く21日午前夜発日帰り  
(20日) 近鉄八木駅集合23・00  
(バス)  
(21日) くもり(バス) 大野片  
川登山口3・30(5・00)朝食  
5・50植林小屋取付6・20  
35山頂直下鞍部広場8・50  
9・00中八人山9・10西八人  
山9・30鞍部広場9・40(昼食)  
10・30植林小屋12・1015登山  
山口12・5013・00(バス) 大塔  
温泉夢の湯14・45(入浴休憩) 16・  
00(バス) 八木駅18・20(解散)  
降り出しそうな寒行きで、南八  
人山は経由しないでそのまま中八

人山へ直行した。モノレール沿い  
にハシゴのある急登をこなして山  
頂付近に出ると、紅葉の展望が広  
かった。中八人山は10人程でいっ  
ぱいなる狭い山頂だ。  
(参加者) 村井勇和 中嶋日出男  
緒方由子 堤 良男 前川和佳子  
上田久子 沖 伸 松村雅子  
石川 敏 片山克博 片山喜代子  
多賀周一 多賀久子 宮村孝次郎  
亀本廣治 亀本秀子 村田はる江  
岩田賢士 石田賢一 岡田豊治  
東山澄夫 松原 昭 光川一美子  
長沢佑美 湯浅次男 奈良理子  
横井 徹 横井恭子 吉條孝次  
三上 勇 中村和江 砂原恵美子  
保田 正 長尾一令 呉比呂美  
松井菊子 美村孝治 遠藤 幸  
大村俊子 大和 絃 熊木秀雄  
山下晴美 金沢咲子 安田文美江  
◎高岡信男 ◎村田智俊(計46名)

奥美濃・左門岳  
(自然観察山行74)  
10月20日出 晴  
JR大垣駅集合8・40(50(バス)  
上大須ダム西河内谷林道車止地点  
10・40尾根取付点11・45左門  
岳13・00(昼食) 14・00林道車  
止地点15・40(50(バス) 大垣駅

17・50(解散)  
私たちパーティのほかほだれも  
いない山。青空の下、今はやぶ山  
の面影もなく、よく整備された道  
をゆっくりとどって山頂へ。樹木  
に遮られて見晴らしは悪いものの、  
隣の屏風山、その背後に熊鷹白山、  
南には大白木山を望んだ。  
(参加者) 和泉元二 岩本彩子  
大角良子 岡本佳子 岡安紀征  
堅田 弘 川島勝美 草野智雅子  
鷹巣 邦 幸田正栄 幸田富美子  
橋本 寿 藤本桂吉 堀田輝子  
前田悦子 松尾麗子 森 昌好  
○山本宣治 ◎鷺見守康(計19名)

湖東・礪山から相模坂山  
(地図読み山行48)  
10月21日(日) くもりのち雨  
JR近江八幡駅集合9・10(38  
(バス) 電王スケート場口10・00  
08一みたらし池10・52(57)鏡  
山11・00(10三角点11・15(25  
途中で12・05(昼食) 12・25(1  
寺13・30(50) JR野洲駅15・15  
(解散)  
礪山までは順調だったが、下り  
で道を間違えた。雨になったため  
自然文化公園へ出るのを諦めて里  
へお入りしたが、悔いの残る地図読み

山行になった。  
(参加者) 吉原清夫 松尾麗子  
川上友堅 林 文哲 横川ゆり子  
瀬井洋子 中谷美子 北川良子  
○中村 登 ◎塚元一彦(計10名)  
鏡子ヶ口・深谷山・鏡子  
イブネ・ダイショウ  
(鈴鹿を歩く129)  
10月21日(日) くもり時々小雨  
藤切谷広場集合7・25(車) 風越  
谷林道広場8・00モノレール取  
付8・20鏡子ヶ口9・30水舟  
の池10・10大峰10・30フナク  
ボ11・00鏡子山1・50谷筋池12・  
00(昼食) 12・40イブネ12・55  
15イブネ13・05アケンギョ13・  
15ダイショウ14・05ダイショウ  
の池14・15藤切谷林道15・10  
旧林道入口16・20(解散)  
急斜面をモノレールにつかまり  
直登1時間で鏡子ヶ口。水舟の池  
は下刈り間伐が終わる風情が変  
わって明るくなっていた。秘境の  
ブナの尾根は紅葉し、鏡子は霧雨  
谷の源流で昼食。昼からは霧雨の  
なか幻想的な尾根を歩き、予定よ  
り早く藤切谷にくることができる  
た。  
(参加者) 後藤謙幸 栗本敏夫

小林 稔 武村千鶴 吉岡 仁  
吉村 昭 池田繁美 奥野太一郎  
服部 亮 高原芳彦 林 一夫  
櫻田勝利 安田良剛 高村隆三郎  
針谷邦夫 近藤克博 湯浅みや子  
今井武司 池田隆一 梶原泰彦  
森本 勝 森本淳子 落合ひろ子  
原光一 鈴木 庸 伊藤喜久男  
金谷 昭 永谷鉄治 南 智恵子  
茨木良雄 小林 修 馬場敦孝子  
山本久雄 ○山田豊三  
◎嵐野 明 (計35名)

○岡本美千子 ◎小出良春  
(計9名)  
奈良  
音羽山から経ヶ塚・西山岳  
10月23日(日) くもりのち晴れ  
近鉄桜井駅南口集合8・40(50  
(バス) 下り尾口9・10(10)神明神  
社9・40(50)作業道終点10・10  
尾根道(N.T.T.鉄塔) 11・00(5  
0)音羽山11・30(35)経ヶ塚11・  
55(昼食) 12・45(道中寺) 13・20  
西山岳13・55(14・10)阿紀神  
社15・00(17)高校前バス停15・  
25(32(バス) 近鉄榛原駅15・45  
(解散)  
昨夜来の雨でたっぷり水を含ん  
だ雑草を踏んで、地元の人でもよ  
くわからないと言われる古道をや  
ぶ漕ぎしながら音羽山・経ヶ塚へ。  
西山岳頂上では、立派な石仏にお  
会いして心豊かに下山した。途中  
でムカゴを採取して夜のご飯が楽  
しみという人もいた。  
(参加者) 松村雅子 草野智雅子  
森本幹雄 植木敏子 中尾美智子  
松田和恵 川上友堅 細野欽也  
上田久子 市野博文  
○前川和佳子 ◎亀本廣治  
(計12名)

芦生演習林・トロッコ道  
(北山ちよっと歩き26)  
10月24日(日) 晴れ  
JR京都駅八条口集合7・00(15  
(バス) 佐々里峠9・05(30)苑  
村伐野11・35(40)トロッコ道  
カヅラ小屋12・40(昼食) 13・45  
七瀬谷14・35(45)カヅラ小屋  
15・25(35)苑村伐野16・30(35  
須後17・00(15)解散(バス)  
京都駅  
由良川に沿ったトロッコ道約  
6kmを快適な足取りで往復した。  
芦生の森と紅葉の感動に別れを告  
げる頃、鹿の遠吠えが背中で見送っ  
てくれた。  
(参加者) 中川光郎 幸田富美子  
村井寿和 大江 湖 田中善雄  
森本幹雄 田中幸子 中川節子  
岡本佳子 里見輝生 加藤元彦  
長尾一令 三浦弘幸 加納由紀子  
木下朝子 松尾麗子 木村 豊  
吉野 朋 小松志信 吉本貞子  
藤村勝彦 山岸勝雄 前田初雄  
白根博子 辻 行子 伊藤澄子  
角江朝子 妹尾一正 岩本いすゞ  
本間 隆 本間夢子 野々村和代  
谷 守 湯浅康夫 三下須美恵  
石井久子 中村 保 荒木光雄  
則定保夫 安良陽子 飯田夢子

清川英之 清川陽子 吉田誠宏  
血原清男 松林立美 中上紀代子  
南 寛子 長沢佑美 山盛加奈子  
小川晴美 美村孝治 成川みさお  
菅生幸子 松山みつ 中嶋日出男  
浦上 明 西村耕一 酒井悦子  
細井和子 小谷和子 岡田里子  
岡本幸代 田中博子 砂原恵美子  
星野正弘 沼本幸江 ○吉條孝次  
○中村英雄 ◎東山澄夫  
◎呉山繁三 (計71名)

美濃・礪山  
10月21日(日) くもり一時雨  
JR岐阜駅集合7・30(岐阜バス  
センター) 7・55(バス) 21世紀の  
森9・43(野鳥観察コース合流点  
11・00) 礪山12・00下山コース  
途中で12・40(昼食) 13・15(株  
杉合流点14・15) 21世紀の森15・  
00(バス) 岐阜駅17・25(解散)  
巨大な雑杉を見て雑木のよい  
尾根道歩く。コナラ・ミズナラ・  
ブナなどの明るい道だった。礪山  
に着くと雨になったが、展望がき  
かないほどでもなかった。  
(参加者) 岡安紀征 吉村喜久江  
朽名生石 和泉元二 渡辺美代子  
前川久枝 近田智子

10月31日(日) 晴れ  
JR近江高島駅集合8・35(1日吉  
神社) 8・50(ガリバー絵の砂防ダ  
ム) 9・05(打下城跡) 9・37(下の  
鼻打) 9・55(見張山) 10・15(ろく  
わ谷) 10・26(こうだ谷) 10・45(鉄  
砲石) 10・52(展望台) 10・57(昼食)

比良・見張山から岳山  
(平日水曜ハイク45)  
10月31日(日) 晴れ  
JR近江高島駅集合8・35(1日吉  
神社) 8・50(ガリバー絵の砂防ダ  
ム) 9・05(打下城跡) 9・37(下の  
鼻打) 9・55(見張山) 10・15(ろく  
わ谷) 10・26(こうだ谷) 10・45(鉄  
砲石) 10・52(展望台) 10・57(昼食)

三國峠(三國岳) から野田畑峠  
10月28日(日) ◎山本久雄  
\*雨天のため中止しました。  
\*雨天のため中止しました。

12・00―鳥越峠12・26―オーム岩  
12・35―山13・16―岳崎峠13・  
52―大炊神社14・39―50―近江高  
島駅15・06(解散)

砂防ダムから右の鉄塔伝いの道  
がよく歩かれていたようだが、今  
回は左の浅い川に入り対岸の道を  
利用した。こちらのほうが自然が  
豊かで美しい。城跡も初めて見た。  
尾跡は黄葉がきれいだった。

(参加者) 吉峰孝次 長尾一令  
鈴木敏彦 渡辺靖子 岩本彩子  
川崎敏雄 加藤元彦 木村 豊  
森本幹雄 若林文夫 東山澄夫  
谷 守 堀田輝子 本間黎子  
本間 隆 大橋元造 川上久堅  
馬籠忠男 細野欽也 宮村孝次郎  
秋田楠樹 中村静香 前田一代  
妹尾一正 松尾麗子 美村孝治  
菅生幸子 山根弘美 原 雅子  
眞田久子 竹田善英 松本忠雄  
武村千鶴 栗岡克子 眞島百合子  
◎青木一雄 ◎湯浅次男(計37名)

新ハイキング10周年特別山行  
マレーシア豊高峠  
Mt・キナバル登頂6日間  
10月31日(休)11月5日(休)  
5泊6日(機中1泊)  
〔31日 晴れ〕関西空港集合・

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西  
の山」(隔月刊・年6号発行)の  
定期購読者を中心にしたハイキン  
グの集いです。  
この雑誌は紀行文やコースガイ  
ドなどで、関西のハイキングコー  
スや山の情報を発信しています。  
山の知識を深め、情報豊かで健康  
な身体をつくり、自然のなかに歩  
く喜びをともに広めましょう。  
「新ハイキングクラブ」は昭和  
25年発足以来、東京を中心に50年  
間も好評のうちに活動してきまし  
た。関西は平成3年発足で、11年目  
に入りますが、すでにたくさんの方  
が活動しています。  
会員は当会の山行例会に優先し  
て参加できます。この山行例会を  
通じて正しい山歩きを、楽しい山  
仲間たちと味わいませぬか。  
リーダー(係)はすべて無償の  
奉仕で、各自で切符を買い茶代を  
払い、宿泊料もすべてワリカンで  
す。  
会員には毎月「新ハイキング関  
西の山」をお送りします。  
四季の自然に触れながら歩き、

30〜11・30(飛行機)クアラルン  
プール16・50〜21・10(飛行機)  
コタキナバル23・30〜0・00(バス)  
ハイアットホテル0・30(泊)  
〔1日 晴れのち雨〕ハイアット  
ホテル9・00(船)水上集落の島  
9・20〜10・20(船)ハイアット  
ホテル10・40〜11・15(バス)博  
物館11・30―伝統家屋見学12・30  
(バス)市内レストラン13・20  
(夕食)14・30(バス)パークヘッ  
ドクォーター16・00(ロジック)  
〔2日 晴れのち雨〕ロジック・  
40(バス)登山ゲート8・00―第  
5シェルター(休憩所)11・00  
(朝食)11・30―ラバンラトレス  
トハウス14・00(泊)  
〔3日 晴れのち雨〕ラバンラタ  
レストハウス2・30―サヤツサヤツ  
小屋4・00―キナバル山口ロウズビ  
ック6・00―30―ラバンラトレス  
ハウス9・30(朝食)10・30―登  
山ゲート13・00(バス)レストラ  
ン13・20(夕食)14・30(バス)  
タンジュンアルホテル17・30(泊)  
〔4日 晴れ〕タンジュンアルホ  
テルにて自由行動(島のシヌー  
ケリング・市内買物)17・30(バス)  
コタキナバル空港18・00〜19・  
15(飛行機)クアラルンプール21・

40〜23・59(飛行機泊)  
〔5日〕関西空港着7・00〜30  
(解散)  
岩盤の上を歩いてキナバル最高  
峰ロウズビックに立ったときの感  
動は忘れられない。南国ボルネオ  
島の自然と真実生きる人々の生  
活にもふれた。現地でお世話になっ  
た案内人やガイド・ポーターの人々  
に深謝。  
(参加者) 田中善雄 野里マツ代  
沖 伸 榊 照司 神 美栄子  
森 理代 山縣勝美 白鳥幸子  
東原昌孝 松田和恵 高島伸浩  
金谷 昭 鎌田克則 ◎村田智俊  
(計14名)  
大峰・奥近南部ルート  
行仙岳から前鬼(週末ハイク26)  
11月3日(休)4日(休)1泊2泊  
〔3日 雨〕近鉄八木駅集合8・  
30(バス)下北山温泉11・05(昼  
食)11・35(バス)白谷トンネル  
東口12・50〜13・05(行仙岳14・  
05)15―俱利伽羅岳17・05(転法  
輪岳18・05―平治の宿18・30)(9  
人泊)18・40―持経の宿19・45  
(15人泊)  
〔4日 晴れ〕平治の宿5・35―  
持経の宿6・40―阿須伽利岳7・

10〜15―証誠無福岳7・50〜8・  
00―滝整岳8・30〜35―剣門8・  
55―滝川辻9・20―般若岳9・50  
〜10・00―地蔵岳10・25〜35―飯  
越峠10・55―奥守岳11・10(解散)  
11・50―奥守岳頂上12・00(大犬  
岳12・20)25―石楠花岳12・50―  
太古の辻13・20)35―前鬼15・10  
―前鬼林道車止15・35〜55(タク  
シー)大和上市駅17・40(解散)  
初日は終日雨、行仙岳の登りで  
体調不良の1名がリタイア。その  
後、リーダーのコースミスで1時  
間のロス。さらに運れる人もあり、  
16時30分からランプ点灯となった。  
大輪運の5人に平治の宿を提  
供するため4人が残り、15人は持経  
の宿まで雨の中の夜間歩行を続けた。  
2日目は雨も上がり、落ち葉を踏  
んで紅葉を楽しみながらの快速な  
縦走を楽しんだ。  
(参加者) 石浜倫子 緒方由子  
蓮井洋子 上田久子 松上葉代子  
谷 久雄 富岡慶子 佐田次男  
横井 徹 横井壽子 高岡信男  
岩田育士 松村雅子 金森節子  
石川 敏 宮本真幸 宮本悦子  
三井社一 山本京子 大村俊子  
小林 桂 船越利明 船越みよ子  
◎瓜取利明 ◎狩野東彦(計30名)

若々しい心と健康をいつまでも持  
続するのはすばらしいことです。  
これから始めてみたい人も、す  
でにベテランの方もみなさんご入会  
いただけます。

年会費 500円(バジッ代)  
入会金 3000円(送料共)  
入会の申し込み(随時)はこの  
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く  
ださい。氏名(ふりがな)及び第  
一回からの送本かを忘れずにご記  
入ください。  
なお、定期購読をご希望される  
方も会員になっていただきますと、  
毎月確実にお手元に届きますので  
便利です。  
切手500円分をお送りになれ  
ば、「新ハイキング関西の山」見  
本誌1冊送ります。  
○山行リーダー募集  
リーダーは2ヶ月に1〜2回程  
度の山行例会を計画・実施してい  
ただきます。  
無償の奉仕ですが、やりがいも  
あり、楽しいものです。経験のある  
方や、やってみたいと思われる  
方は、新ハイキング関西までご連絡  
ください。マニュアル「リーダー  
必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。  
会員番号4591番から4616  
番まで  
【三重】 竹内節夫 鶴岡真吉  
鶴岡美恵子  
【滋賀】 日野憲一 日野照代  
太田隆生  
【京都】 南 嘉彦 南 和江  
渡邊英治 山上重隆  
【大阪】 大原 稔 杉本正二  
奥村和巳 宮尾信子 若林光造  
原 光一 松本偉人 東原昌孝  
【奈良】 砂津達雄  
【和歌山】 森 宏資 巽 孝夫  
【兵庫】 中村克子 頼 喜代子  
福岡 茂 土田富雄 大久保和子  
(26名)  
訂正とお詫  
59号(盛夏)88ページ三段19行  
目「十ヶヶ岳」は「八ヶヶ岳」が  
正しい。  
61号(晩秋)10ページ中段6行  
目から「近江東地志略」は「近江  
東地志略」が正しい。  
61号(晩秋)21ページ写真説明  
「月ヶ平山頂」は「貝ヶ平山頂」  
が正しい。  
61号(晩秋)27ページ上段9行

目「高野山」は「高崎山」が正し  
い。

61号(晩秋)41ページ中段「野  
登寺」は正確には「鶴尾山野登寺  
ですが、「野登山」は(の)のぼり  
さんです。  
61号(晩秋)42ページ下段9行  
目「中央文庫」は「中公文庫」が  
正しい。  
61号(晩秋)57ページ中段終わ  
りから3行目「川上へくだり」  
は「上川へくだり」が正しい。  
61号(晩秋)59ページ付近図の  
表題「湖アルプス」は「湖南アル  
プス」が正しい。  
61号(晩秋)63ページ下段1行  
目「金剛会大日如来」は「金剛界  
大日如来」が正しい。  
61号(晩秋)83ページ上段2行  
目「(名)古屋市 森 訓祥」は  
「(大)和歌山市 森 訓祥」が正  
しい。  
61号(晩秋)95ページ上段「北  
山ちよっと歩き28」の期日は正確  
には12月19日(休)の計画でしたが、  
間違っていましたので、山口例会  
は12月20日(休)に実施します。  
(編集室)